

タテハモドキ No.50

TATEHAMODOKI



50周年記念号
宮崎昆虫同好会
50th Anniversary

ISSN 0917-3102
DEC 2014

第 1 部 総論・思い出

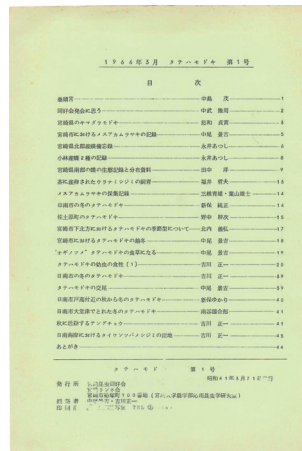


宮崎昆虫同好会の歩み

木野田 毅

1 宮崎昆虫同好会の誕生

- (1) 1926年、宮崎高等農林学校内に博物学の同好の士が「宮崎リンネ会」という生物研究同好会を組織し活動開始。
- (2) 1965年9月「宮崎昆虫同好会」が「宮崎リンネ会・昆虫部会」として発足。
「昆虫を愛する仲間が研究や情報交換を目的として集まった趣味の会」がリンネ会の一部会として始まりました。
- (3) 1997年、「宮崎リンネ会」から独立し現在に至る。
会誌「タテハモドキ」第33号(1997年)からは、表紙に「宮崎リンネ会」の文字が消えましたが、昆虫同好会として50年間活動を継続しています。



2 「タテハモドキ」の巻頭言

「タテハモドキ」第1号の第1頁を再掲載します。

宮崎昆虫同好会の発足に際して

宮崎リンネ会会長 中島 茂

宮崎在住の、昆虫の同好者により、今回、本会が発足したことは、誠に結構なことである。これまでにも、昆虫同好会の結成の話は再三あったが、宮崎リンネ会との関連、並びに運営について懸念され、実現の運びに至らなかった。

近年、九州諸県の、昆虫同好会の活発な動きと、その実績は、本県内同好者の刺激となつてようやく、機が熟し、ここに、宮崎リンネ会の1部会として発足したわけである。

これを機会に、宮崎県の昆虫の同好者が集い、本県の昆虫界を開拓し、引いては、宮崎リンネ会の発展に寄与されるよう、祈念したい。

(宮崎大学農学部長)

昭和41年3月31日

3 宮崎昆虫同好会の2年目

「タテハモドキ」第2号（1967年3月）から拾ってみます。

1966年9月25日に、特別例会が開催され、自己紹介、談話会、組織運営について検討されたようです。この時の参加者は14名で、築地、石野田、清田、井之口、石川、北内、吉川、福田、外山、田中、関、俵、朝日、中尾、とあります。

会長に、中島 茂、副会長に、清水 薫、幹事として、永井 庵、井之口希秀、吉川正一、中尾景吉、会計として、中島義人。

会費は、一般が500円、学生が200円。

会費については、第2号の12頁に「会費が値上げとなりました」と書かれています。月割りで、キャラメル2箱分という価格に、時代を感じます。

以下、原文通り。

同好会発足の折り、おそろおそろ会費300円を打ち出したのですが、会誌発行になりましたら、さっそく赤字になり、ダルマ同様に手も足も出なくなったのですが、9月25日の特別例会で“日本一安い会費をとって何ができるか”という事で、昭和42年度から、一般会員の会費を500円、高校生以下を200円とすることに決定いたしました。これでどうやら先の見通しがついて、会誌第2号も発行可能となったわけです。高いようですが、一般会員でも月割りすると42円たらずです。1ヶ月にキャラメル2箱と思いがんばってください。

又、せっかく高い会費をはらうのですから、自分の記録の一端を発表して、少しでもとりもどすよう努力してください。消極的になって退会されては残念です。積極的にがめつくいきましょう。42年度の会費納入は、早目におねがいいたします。

談話会では、①宮崎県における昆虫研究の歩み、②最近の活動、という内容が語られていますので、以下に紹介します。

① 宮崎県における昆虫研究の歩み

戦前はリンネ会が母体となって活動していた。野外での活動が主であったが、戦争による後退が、戦後も長い間の空白状態をおいてしまった。しかし、リンネ会のもりあがりもあって、宮大学芸学部・農学部のそれぞれを中心にした研究熱が高まってきた。アマチュアの熱もあがり、小林昆虫同好会や市房同好会などの活躍は大きかった。

② 最近の活動

延岡を中心にした県北、児湯を中心にした中部、宮崎市を中心とした中部、日南海岸を中心とした南部と、それぞれの地域の研究が発表される。未記録種についての発表、クモの生態、チョウの生態、宮崎県産トンボの重要種、また遠来の福田氏により鹿児島県の昆虫研究の現状の報告等話はつきない。結論としては、話し合いの途中でたびたび出たことだが、同好者同志が横の連絡をたえずとりあうことであり、このことで同好会の果たす役割も大きいということである。

初めての図版が、はやくも第2号で登場しています。

第2号には、図版が3つあり、写真が12点掲載されています。全て白黒写真です。

図版1：リュウキウムラサキ ♀（表面・裏面）宮崎市住吉産 吉川正一

ヤエヤマムラサキ ♀（表面・裏面）宮崎市産 中尾景吉

図版2：ウスコモンアサギマダラ ♀（表面・裏面）宮崎市江田神社産 中尾景吉

イワサキノハ ♀（表面・裏面）宮崎市阿波岐厚神社産 清田洋次

図版3：オナガシジミ（裏面）五ヶ瀬町本屋敷産 永井あつし

ウラキンシジミ 北川村大崩山産 ♀裏面 俵 慧、♂裏面 朝日延太郎

スジグロチャバネセセリ ♂ 表面 高千穂町五ヶ所産 朝日延太郎

スジグロチャバネセセリ ♀ 表面 高千穂町五ヶ所産 永井あつし

ヘリグロチャバネセセリ ♂ 表面 五ヶ瀬町波帰産 永井あつし

オオキンカメムシ 延岡市今山産 俵 慧

4 会誌「タテハモドキ」について

創刊号を読むのは、楽しいものです。「タテハモドキ」の第1号から一桁の号、それぞれに、熱い熱気を感じます。

内容としては、第18号まで特に県北の昆虫の記録が多く掲載されているように思えます。また、第19号の蜘蛛特集も個性的な号だと思います。第20号からは、特定の地域をテーマとして取り上げているようには見えませんが、県内の各所の記録が蓄積されています。第29号から、インセクトフォトという図版が毎号組まれ始めました。

第29号から第35号まで、インセクトフォトとして、氏川豪勇さんの「チョウと共に」、「フィールド・フォト」、井之口希秀さんの「私のネガアルバムから」という見出しで7回連続掲載されました。

また、30周年記念の第30号では、11名の方が、第1部に投稿されています。

「宮崎リンネ会と宮崎昆虫同好会」	中島義人
「私の宮崎時代のこと」	白水 隆
「宮崎リンネ会を思う」	近木英哉
「青春のリンネ会」	足田輝一
「宮崎昆虫同好会、創立30周年を祝す」	石野田辰夫
「こんにちは 宮崎の虫屋さんたち」	福田晴夫
「この8年をふりかえって」	宮原義雄
「ツマベニチョウの保護をはじめよう」	海老原秀夫
「羽化の朝」氏川豪勇、「雑感」	村上 勝
「昆虫展示会雑感」	山口袈光

この号は、宮昆30年間の歩みを知ることができる、貴重な号となっています。

表紙の変化を拾ってみますと、第4号からは、表紙に目次が載り、第24号までそれは続いています。第25号にスギタニルシジミの吸水というスケッチが初めて載りました。第26

号にはツマベニチョウの白黒写真が初めて使われました。写真は第31号まで続いています。第32号は、アオスジアゲハのスケッチです。白黒写真が第33号に再度登場し、第38号まで続きました。途中第36号では、ベニトンボの♂がカラー写真で紹介されました。第30号の記念号以来のカラー表紙でした。第39号には、小松孝英さんの作品「蝶舞」が表紙を飾りました。

小松孝英さんは、新進気鋭の美術家で、その作品には蝶を中心としたものが多数有ります。本会会員の小松孝寛さんの息子さんです。この「蝶舞」には、蝶の命の模様、空を飛ぶ生命力を表現したもの、という解説が、表紙扉の裏に岩崎さんの文で記してあります。孝英氏は、生態系をテーマとして主に海外を中心に活動され、2011年にはカナダの国連生物多様性条約記念ミュージアムに作品「外来種群蝶図」が永久コレクションされています。

表紙の話題に戻りますが、第40号から、これまで白だった外見が黄色になり、第41号から第44号まで青色となり、カラー写真も添えられ、とてもカラフルになりました。第45号からは、装丁が白色に戻り、表紙の写真も白黒。この第45号には、別冊が臨時増刊号として加わりました。その題は、タイワンツバメシジミの保護と生息地の保全 ― 「カブトムシの森」周辺の生物多様性を求めて ―。第46・47号はカラー写真が使われています。しかし、第48・49号は、また白黒写真に。最近では、編集方針というか、表紙については、不安定な感じが否めません。印刷経費削減で、事務局の気持ち揺れていたのがその要因でした。

そこで、というわけではありませんが、第50号の記念号は、カラーを多く取り入れ、表紙には、小松孝英氏の「羽根籠」を用い豪華に仕上げました。

5 50周年記念大会を迎えて

30周年から、早や20年が過ぎ去り、なんと、2014年（平成26年）は、第50号の発行となりました。

研究大会は、16日の終日開催としました。午前中にパネルディスカッションにて「宮昆の思い出」を5名のパネラーの皆さんに語っていただきました。午後は、講演と会員による発表を行いました。講演では、新川勉氏による「ウラギンヒョウモン類の分子的分類そして形態的な相違」という演題で、80分の講話をしていただきました。ウラギンヒョウモン類が、それぞれ遺伝子レベルでかなり異なっていること、ウラギンヒョウモン類は、において同種を識別しているので、翅の模様は大して重要ではないこと。例えば、サトウラギンヒョウモンの近くに、ヤマウラギンヒョウモンが飛んできて、においが異なり、認識できないであろうことなど、興味深い話を聞くことができました。

概要としては、次のようなものでした。

日本ではウラギンヒョウモンは1種 (*Argyniss adippe pallescens*) であると言うのが記載後これまで定説であった。2001年に北海道増毛で採集された数頭の個体から新亜種として *A.a.tubouchii* Fujioka が記載された。この新亜種はどれぐらい *pallescens* (ウラギンヒョウモン) と違うだろうかと言うことで分析をはじめた。

分析をはじめてその違いがあまりに大きく、また比較した同地域のウラギンヒョウモンにも違いがでて分析が間違いではないかと、やり直したり、次第に日本各地の多くの個体、中国、朝鮮半島、シベリア極東、サハリンの個体も分析して、初めてその正体が見えてきた。名古屋大学での日本昆虫 DNA 研究会大会で初めて発表した。その後の研究結果をまとめて紹介する。

ミトコンドリアの進化速度の早いND 5 と、保守的で進化速度が遅いリボゾームRNAを比較し、この二つの遺伝子(ほぼミトコンドリアの平均的な進化速度)の塩基配列(1750bp)を決定して分子系統解析を行った。

発表その1：中米コスタリカとチョウ (安本潤一)

昨年安本さんが訪れたコスタリカ共和国での採集について、たくさんの写真を使って、チョウの紹介をしていただきました。原則、国中が採集禁止になっていますが、今回は許可を得て採集をされています。

チョウは、スペイン語で **Mariposa** (マリボサ) と呼ばれ、蛾も含むそうです。この **Mariposa** が約 1,000 種いるそうですが、日本との共通種はほとんどいないとのことでした。地理的に、北米系と南米系がぶつかる場所であり、かつ、太平洋側とカリブ海側で異なる種が棲息しているということで、九州と四国を足したぐらいの面積の国でありながら、非常に種類が多いということでした。また、太平洋側とカリブ海側の両側を移動する種もいるとのこと、余計に分布を複雑にしているようでした。擬態の例は、複雑で興味深く感じられました。甲虫は捕れなかったのか、尋ねる時間が無くて残念でした。

発表その2：串間の昆虫について (河野 幸)

串間市を中心とした、チョウやトンボ、アブなど、これまで未確認の虫を中心に、日頃の観察の素晴らしさを感じる発表でした。登場した主な虫は、リュウキュウムラサキ、ムツボシナガハナアブ、リュウキュウオオスカシバ、ヤクシマトゲオトンボ。そして、ミヤコグサ分布からシルビアシジミの棲息調査をされ、河川敷が畑として貸与されている現状の写真を見て、各地の事情の違いを考えさせられました。リュウキュウオオスカシバは、また、ホウジャク類か、とろくすっぽ観察しない私に、大いに反省を迫る題材でした。

発表その3：虫えい (永井 庵)

冒頭、宮崎リンネ会報第9号に出ているニレナガクロフシとクヌギイガフシのスケッチを、そのスケッチと現物の写真で紹介され、長い研究の歴史をもっている研究テーマであることに気づかされました。フシ(附子)の紹介では、イスノキハタマフシ、ヌルデミミフシ、ニッケイハミヤクイボフシ、アケビハオレフシ、ナラエダムレタマフシ等々、たくさんのフシを写真で紹介していただきました。えい形成者としては、ウィルス、マイコプラズマ、バクテリア、菌類、線虫類、昆虫類、ダニ類があるのだそうです。

6 宮昆の現在の活動

近隣県との交流の促進をとの思いで、研究大会の講演に、2012年は大分昆虫同好会の三宅武さん、2013年は鹿児島昆虫同好会の塚田拓さんを招聘し、講演をお願いしています。

また、綾町の大森岳を中心とした照葉樹林がユネスコエコパークに認定される前後から、そのエリアに棲息している動植物の調査が活発になり、昆虫についても、いったい何種類いるのだろうかということで、笹岡康則さんを中心に2008年ぐらいから調査が活発に行われ、綾生物多様性協議会に2014年3月、報告書を提出しました。

また、新燃岳の噴火以来、霧島山系の昆虫相への心配と、1969年の霧島山総合調査報告書以後の総合調査がないことから、せめて、昆虫類だけでも調査をする必要があると幹事会で決まりました。これを受けて、2013年から宮崎県側の特別保護地区での採集許可申請の準備を始め、2014年5月23日付で、環境省から2年間の採集許可が出ました。これは、えびの自然保護官事務所、ならびに、宮崎県環境森林部自然環境課の協力を得て実現しました。会員から募った調査者が、鋭意頑張っています。

シルビアシジミの調査と保全活動も活発になされています。この活動の詳細については、増刊号を参照して下さい。

タイワンツバメシジミの保護活動については、2014年はカブトムシの森での活動を休止しました。クヌギが大きくなり、シバハギが生育しなくなったからです。他の地域での保全を検討中です。

アサギマダラの移動調査については、夏と秋の年2回、鰐塚山と南郷町大島で継続しています。オオムラサキ観察会は、観察場所を須木村に変更し、大淀川学習館と連携して取組んでいます。県総合博物館での名前を調べる会にも、毎年協力し、昆虫少年の育成に尽力中です。



< 50周年記念研究大会 記念写真 2014年11月16日 県総合博物館研修室1にて >

パネルディスカッション 「宮昆の思い出」

【中尾景吉：創設時の会員・現会長】

思い出ということになります。50年前、私が檉小学校に勤務していたときの小学生だった三浦順一さんが、附属中学校に進学していました。ある日、彼がタテハモドキを採集し、これは？ということで、私のところに持って参りました。このことが、宮崎昆虫同好会の第一歩になったと思います。タテハモドキについてのデータは宮崎大学農学部（以下、大学）が持っていると思っていたので、三浦君と現地確認に佐土原に行き、調査後、発生間違いないということで大学に持って行きましたが、大学にはタテハモドキのデータはありませんでした。そして、大学が報道機関にこのことを伝えられました。それで、報道機関が学校に直接取材に来られました。当時の新聞記事がこれですが（別紙参照）、これを読まれた関照信さん（当時高校教諭）、吉川正一さん（当時内海中教諭）が大学においでになりました。実は、前の年からお二人はタテハモドキの採集をされていて、関さんは宮崎市周辺を、吉川さんは日南海岸で生態調査に入っておられたのです。しかし、これらの調査についても、大学は把握していないわけで、関さん、吉川さんが大学に顔を出されたことで、お二人が前年から採集し調査をしておられたことを大学は把握されたのです。このような経緯で、私も大学に呼ばれて、ここで、関さん、吉川さん、私の三者が顔合わせをし、お互いを知り合ったのでした。会誌の「タテハモドキ」第2号を出したときに、新聞社の方から、昆虫同好会発足のことについて書いて欲しいとの依頼があり、当時のことをこのように（別紙参照）書いたわけです。

三浦君が1965年8月22日にタテハモドキを採集し、同好会発足がその年の9月ですが、当初は、関さんも、吉川さんも、私も、全く個人の立場でやっていたということで、情報共有や連携が大事だということを大学の先生方も、私たちもそのように思っていたので、大学と私たちの意見が一致し、古くから大学にあった自然研究団体の「宮崎リンネ会」の9月の研究会で、リンネ会の中に昆虫同好会をおくことが提案され、賛同を得て、その日に「宮崎昆虫同好会」がリンネ会の一部会として発足したのです。このように、宮崎昆虫同好会はタテハモドキが採集され、大学に持ち込まれて一ヶ月後に産声を上げました。

当初の会員は、タテハモドキに直接関わった者、永井さん、三町さんなどリンネ会の会員が宮崎昆虫同好会にも加入された方、さらに、大学の中でリンネ会に加入しておられた学生さんなどが中心でした。当初の構成員は、タテハモドキ関係、リンネ会関係、大学関係者という三つでスタートでしたのでした。当初の会員数は20名ほどだったと思います。

発足当初、同好会には資金もなく、リンネ会から金銭的な援助をずいぶんしていただき、会誌発行も出来たわけです。リンネ会の一部会ではありましたが、リンネ会とのつながりがなかったら、今の宮昆はなかったと、私はリンネ会に感謝しています。発足以来50年間、紆余曲折もあって存続の危ない時期もありました。また、大学が清武に移転し、宮崎リンネ会も閉会しました。同好会発足以来、会誌表紙には、発行者名は「宮崎昆虫同好会（宮崎リンネ会）」と、必ず「宮崎リンネ会」という名前が記されていましたが、1977年の33号からは「宮崎昆虫同好会」だけの名前になり、完全独立して現在に至っているのです。

【関 照信：創設時会員・旧会員】

今、ありました、そこの向かい宮崎高等農林専門学校というのがあり、そこの教授が中島茂先生でした。中島茂先生はカイコが専門の方で長野県の方から赴任されました。その元に助手として就かれたのが甥御さんの中島義人先生だったのです。中島義人先生はケーブルなどを食い荒らすアリ類の研究をなされていました。お二方とも、今のような虫の研究ではなくて、いわゆる人間の生活に直接関わりのある、応用昆虫学の研究をなされていました。茂先生は大変厳しい方で、学生は右往左往して逃げ回っていましたが、茂先生はテニスがお上手な方で、放課後のテニスでは、その技をぬすもうと学生達がたくさん集まったものでした。今は跡形もありますが周りの大きなクスノキだけは残っていますね。

こういう時代で、その当時、昆虫については研究をしても持って行くところがなかったのです。しかし、読売新聞社が学生科学賞というものを設けまして、毎年生徒たちの研究成果を募集していたのです。それで、わたしも宮崎商業高校の生物研究室にも虫やチョウやガが好きなのが2・3人が集まっていました。その生物教室をその当時、設計を任されたのでした。関さん好きなように作っていいよと、当時の県教委としては珍しいお達しであったと思います。そこで生物準備室を思い切って広くとり、ひと教室ぐらい、そこに4 mぐらいの長いテーブルを真ん中に置きまして、自由に研究ができるように、また、出窓も作って、何人来ても研究ができるようにしたのです。男子生徒は少なかったですね、何人かいましたけれども、たいいていくのは女子生徒。最初は手伝いに来るのです。チョウを飼っていると餌を配ってくれたり、卵の数を数えてくれたり、そういうことで読売科学賞に応募しましたところ、県で最優秀賞ということでずっと続けました。ですから、宮崎商業高校の生物教室には、賞状や楯やカップがずら一つとならんでいました。今はどうなっていますかね、おびたしい数でしたので。生徒たちはチョウの飼育、卵から幼虫、蛹、成虫へという成長過程を非常に珍しがりまして、私が南高校に移り、晩年は高鍋高校と勤務しましたが、どこでも生物教室ではみんなチョウの研究を引き継いでくれました。新しいチョウの食草の発見もあり、高鍋高校では植物の大家の南谷先生と一緒に教鞭を取っていましたので、私の教員生活というのは楽しいものでした。

宮崎県の昆虫の歴史というか、発展のきっかけになったのは、永井廔先生なのですね。小林高校時代に、今、鹿児島市で小児科医をされています田中洋さんに永井先生がチョウの手ほどきをされ、田中さんの弟さんも優秀な方でしたが、これらの指導がきっかけになって、県内でチョウやガや甲虫などいろいろな虫の研究をする人が出てきました。

時たま、会誌の「タテハモドキ」にあちこち情報を聞いては原稿を寄せて下さいと言うことで、みんなで手分けして始まったのですけれども、まさか50年も続くとは夢にも思いませんでした。結局現在でも守って下さっているみなさんのお力のおかげです。これはすばらしい財産ですね。江崎悌三先生、白水隆先生なども地方の同好の士がめんめんと続いていることにお喜びになっていると思います。

【永井 庵：創設時会員・前会長・現会員】

私は、タテハモドキの発足の当時のことは、県北におりましたのであまり詳しい事情は知らなかったのですが、ただ、会誌の「タテハモドキ」ができるときに三浦さんが佐土原でタテハモドキを採集されたということが頭にありました。家内が佐土原町出身でして、延岡市から佐土原町に帰省したときには佐土原町近郊は調査していたのです。しかし、私にはタテハモドキは採れなかったわけです。それが、非常に残念であったということが記憶に残っております。こんなにたくさん飛んでいたのに、どうして俺には採れなかったのだろうと。当時、県内には昆虫の発表誌がありませんでしたから、県北で「県北の蝶Ⅰ・Ⅱ」を出しましたが、今考えてみますと、これはガリ版刷りなのです。俺は、授業は、何をしていたのだろうと思ってしまいます。三学期は、家に帰ったら毎晩このガリ版刷り切りでした。ただ、表紙題字は、当時の学校長下田敏氏に書いて貰っています。そういうような生活をやっていたときに「タテハモドキ」が誕生しました。

「タテハモドキ」ができた後、特集号を組む計画があり、第5号で大崩山特集が割り当てになっている。そこで、県北の3人（朝日延太郎、俵慧、永井）が集まり、朝日さんがガを研究されていて、俵さんはカメムシの方はされていたのだと思いますが、ガが採れたら朝日さんへ、カメムシが採れたら俵さんへということになりました。チョウはもともと私がやっていましたが、チョウだけでは、大崩山特集号は組めそうにないので、カミキリをやろうと言うことになりました。カミキリムシをやり始めてみましたが、ゼフィルスと同じように、カミキリムシにも似たもの多くて、とつても名前が分からないので、どうしようかということになったところ、学生が一人東京にいて、夏休みに帰ってきたときに、東京に行ったら国立科学博物館に行って、中根猛彦先生という方がおられるからカミキリムシを同定してもらえるかどうか聞いてこいと頼みました。そうしましたら、見てやるということになりまして、中根先生に師事することになりました。

「宮崎県北北部の天牛（1）」というのを第5号で書いていると思います。先ほど関先生からも出しましたが、指導者という方がおられますと、地方の愛好者というのは非常に助かりますね。チョウについては、九大の白水先生がおられます。中根先生は特別だったと思うのですが、カミキリを見ていただいたのですけれども、以後は、甲虫全般について中根先生に同定をお願いしていました。大島の甲虫をやったところは、ほとんど中根先生に標本は行ったという形になっております。このようなことがあり、5年後には延岡では写真印刷もあった方が良からうということになり、延岡市の印刷所を回り、第5号の発行に苦労したという思い出があります。後は、原稿を送ったことぐらいでした。私は、甲虫の方が「タテハモドキ」に書いたのは多いと思いますが、チョウのことはほとんど書いていないと思います。第1号で書いていた福井は、生徒だったと思います。ウラナミシジミがお茶の花に卵を産むのを見つけたというので、それを育ててみようということになり、終齢まで育てていたような気がするのですが、羽化までは至らなかったような記憶があります。「タテハモドキ」が始まった頃は、県内の各高校で生物の先生がそれぞれの生物部をもって、それぞれ部誌をつくっていた。小林高校では「やまね」を出していた、宮崎南高校では「宮南生物」、妻高校では「ばば池」のように。日向高校では「しだのこ」を発刊しました。各高校の生物の先生が昆虫や植物について、一生懸命であった時代がありました。このような中で私は延々と過ごして参りました。付け加えですが、中島義人先生は、私の恩師でした。

【清田洋次：創設時学生会員・現会員】

宮昆との付き合いは、前身の宮崎リンネ会からの一部会として設立された1965年9月からになります。リンネ会の総会の時に、中島義人先生が書かれていたリンネ会の活動報告を私がみなさんに報告しました。報告後、同好会設立が提案され、中尾さんが提案されたのだろと思いますが、皆賛同されたと覚えています。その後、4～5年入会していましたが、応用昆虫の害虫関係をやっていましたものですから、活動がなかなかできなくて、退会した方がいいのではと思い、退会しました。

同好会が設立された2年目の1966年に、迷走台風15号が宮崎市上空で消滅しました。台風が迷走をして宮崎市の上空でぱっと消えたのです。翌日の8月24日頃、研究室に吉川正一先生が来られて、ヤエヤマムラサキを目撃したとの情報を届けてくれたのです。その当時のヤエヤマムラサキは、沖縄でも何頭かしか採れていない、というものでした。それで、まさか、と言って問題にしなかったのですが、翌日採ってこられて、現物を見せられて、それで、研究室の学生はみな採集に出てしまったということになりました。

その頃、私は下北方で間借りをしていたのですが、リュウキュウムラサキやウスキシロチョウが飛んで回るので、下宿の庭先を。まるで熱帯に居るみたいでした。その頃、沖縄はまだ外国でしたので、興奮しました。しかし、飛ぶのが速いものですから、昔の戦前の台湾の図鑑で、リュウキュウムラサキが果実等に集まることが載っていたのを思い出しました。柿の実やブドウの実の落ちたやつなど、収穫後に下におちている実などを求めて一ツ葉方面に行ったところ、落ちた柿の実にちゃんといて、また、ブドウ畑にも落ちた腐ったやつに来ていて、たくさん採れました。たくさんいたものですから、途中で飽きてしまって、さらに何かいないかなと思い、ウスコモンアサギマダラをまだ採っていなかったものですから、それをとりに、一ツ葉海岸を自転車であがっていたら、神社に行き、小さな右側の神社、神話の世界の神社みたいな感じの無人の神社でして、そこに、チョウがみような飛び方をしていて飛んでくるのです。このチョウが神社の近くの草に止まりまして、裏が木の葉のようでした。いきなり、ぱっと舞い上がってしまって、用心に用心をして、その前に熊本の方で2～3週間前に、フジミドリジミを慎重にやって採り逃がしていたので、慎重に、完全に落ち着いて網をかぶせて採りましたが、興奮して殺してしまったのです。その帰りに自転車を止め、捕獲したチョウを何度も眺めながら研究室に帰り、イワサキコノハと分かりました。メスであったので、殺したことを後悔しましたが、後で調べたら、国内に無い食草であり、手に入らない時代でした。標本は大学に置いていたので、今、どうなっているかわかりません。それから、これに懲りて、リュウキュウムラサキのメスを数頭、研究室で段ボール箱の飼育箱に入れて暗室に置き、時々暗室から出して糖蜜を与えていたところ、3日目に太陽光が当たる明るいところでカンショイモの葉っぱをやったらパーッと卵を産みました。40～50卵ぐらいあったと思います。その翌日、鹿児島島の田中洋さんが来られたので、卵を提供しました。それを飼育されて学会で東南アジア系統のリュウキュウムラサキであったということ報告されました。鱗翅学会が昆虫学会に投稿したと思うのですが、どうしても見つかりません。前の職場と東海大学に文献類は全部預けてしまったものですから。

台風15号による飛来は、リュウキュウムラサキ、ヤエヤマムラサキ、メスアカムラサキ、イワ

サキコノハ、ウスコモンアサギマダラ、ウスキシロチョウ（ギンモン）が記録されましたが、宮崎市内に延々と飛んでいた、という状況でした。これらの記録の詳細は、第27回昆虫学会で、福田晴夫・田中洋・吉川正一で発表されています。

その2年後、中島茂先生と中島義人先生のおかげで、熊本県の果樹試験場に欠員が出たので行けということで、試験も受けずに一週間後に赴任。念願の害虫担当になりました。今のようには全然分かっていない時代で、宮崎では山本栄一さんという果樹害虫の有名な専門家から指導を受けていました。それで、果樹試験場に14年間勤めました。昆虫の採集時期と果樹害虫の発生時期が重なり、趣味の採集が全くできなくなり、退会せざるをえなくなったのです。その後、農業研究センターに移り、害虫担当として33年（勤続は37年）間、楽しく過ごさせていただきました。台風15号で大変興奮した時期がリンネ会の前後の時期だったので、これらのことを話したいと思ったのです。

それから、昆虫類が中国南部から飛んでくることを予測する研究を、九州沖縄農業研究センターの松村チームリーダーと大塚さんが、システムとしてコンピューターでの予測方法を開発しています。日本植物防疫協会（JPP-NET）の野中さんがやっている仕事なのですが、いつ飛んできたか予測をしようとしています。防除への協力ができるということです。これを利用して、迷チョウの情報を活用できるのではと思います。大塚さんが、もっと大きな虫も予測できるように、予測システムを構築中だそうです。それをみなさんに紹介したいと思いました。昔私たちがやった、下層ジェット気流といって、1000m～1500mの高さでの気流の研究では、20ノットぐらいのジェット気流で中国から飛んでくるウンカ類がいるのですが、それと鱗翅目との関係は誰もやっていないようです。みなさん承知のように、虫も台風以外でも飛んで来ようです。

話は飛びますが、同好会のメールで、キムラグモが問題になっていたようですが、私たちの研究室では平和台で野外授業を行っていました。授業でこれはキムラグモだと勉強しました。あれから50年過ぎていきますので、まだいるかどうかわかりませんが、そういう時代でした。

【野中耕次：創設時高校生会員・旧会員】

たまたまという感じで宮大農学部に入りました。宮崎市の平和台の下、下北方台地の出身です。当時タクシーに乗りますと、ここでも宮崎市ですかと言われた場所で、里山というか、山里のようで、田舎でした。遊びと言えば虫集めでした。叔父が大宮高校の生物の教師でもあり、生物に興味・関心がありまして、いわゆる昆虫少年でしが、それも中学校ぐらいまででした。自宅近くでは、メスグロヒョウモンなどヒョウモンチョウ類が結構いました。ミカドアゲハを採ったとき、最初アオスジかと思い、ちょっと違っていて新種ではないかと思いました。平和台の塔の裏あたりではスミナガシとかゴマダラチョウなどが結構採れていました。これらに興味を持って中学校辺りまでは一生懸命やったのですが、高校に入り、建前上は受験勉強に忙しくということもありますが、だんだん遠ざかっていきました。それでも、叔父が生物の教員をしていたので、迷惑も省みず生物部に入りまして、あちこち採集に行ったのですが、その頃の記憶はあまりないの

です。生物部はリンネ会に強制的に関わったので、宮大の階段教室で総会に出たことを鮮明に覚えています。

宮大農学部では応用昆虫学教室に入ることができました。私もチョウをやろうと思ったのですが、錚錚たる先輩方がおられまして（怒和さんなど）、先輩達について行くだけでした。今となつては時効でしょうが、ドイツ型標本箱を清田さんもおられたのですが、それを買えと言われ、5000円で買ったような…、学生会費が200円のときに、その20何倍もの金で買いました。入れるものはそうたいしたチョウをもっていなかったのですが。

佐土原町の宝塔山は立派な公園ですが、その当時は藪山でした。その西側の方でタテハモドキをネットに入れたのを覚えています。

それ以前も、宮大祭の練習の時、獣医学部の周囲でけっこう飛んでいました。清田先輩からこれがタテハモドキだと見せてもらって、ヘーという具合でした。興味はありましたが、研究室の清水董先生、中島義人先生方についていって調査の加勢、同好会の加勢をしたのかなと記憶しています。「タテハモドキ」創刊号に書いた他は、3～4回位書いたと思います。そのうち就職し、最初は都城市で勤務。会に来なくなりましたが、会員としては10年間ほどいました。11号に稲の害虫のカメムシについて書いています。農業害虫の仕事に就いて、昆虫について興味があったのですが仕事に追まわられていました。昭和47年に佐土原の農業試験場に行ったのですが、10年間はイネの害虫担当で粉剤を20mほどのパイプダスターで田んぼの中に撒くなどの研究をしていました。トビイロウンカやヨコバイの対策に追われていました。その当時、そういう中でも農業試験場内の水田やグランドではタテハモドキが乱舞していました。仕事で農薬を撒きながら、なるべくそれをよけながら、とやっていました。その当時、とにかく宮崎市内で一番多いチョウはタテハモドキでした。オギノツメがたくさんあったですね。牧草のダリスグラスなどにもいっぱい付いていました。そんなに減らなかつたです。一番減つたのは、圃場整備ではないでしょうか。水路などが整備されて、オギノツメがなくなりタテハモドキが激減しました。農業試験場に20年間いた中の15年間はいっぱいいましたが。

近年、現在の住居の花ヶ島方面ではあまり見かけなかつたのですが、農業試験場では見ていました。平成16年に退職、18年からまた縁があり、農業試験場で仕事をしています。3年ぐらゐ前まではよく注意していても、シーズン中に少し見るだけでしたが、突然、今年、増えました。50頭前後は見ています。これが、なんでだろうかと思い、オギノツメはないがイワダレソウがあるのでしょうか。足を痛めて荒地に入れられない状況ですが、何が代替食草なのか、調べてみたいのです。今のタテハモドキには興味があります。



中尾さん

関さん

永井さん



清田さん

野中さん

『ワニ 13』 との出会いによって

山元 修成

タテハモドキ 50 号達成おめでとうございます。1 年に 1 号なので 50 年、ものすごく長い年月だと思います。僕が生まれて 20 年ですが、この 20 年でも長く感じているのにその倍以上。生意気ですが、本当に凄いことだと思います。



私が宮崎昆虫同好会に入会して早や 10 年。思えば、採集をし始めて 14 年、蝶採集を始めて 12 年。始めたころは、こんなにいい趣味として続けていけるとは思ってもいませんでした(始めたのが 7 歳の頃なので、そんなこと考えるはずがないんですけど)。タテハモドキ 50 号記念が私の成人と重なり、ちょうど『思い出』というテーマで原稿募集もあったので、少しこれまでの虫との関わりを振り返ってみたいと思います。

私と虫との付き合いは、物心つく頃からになります。虫と言っても、その頃はカブトムシやクワガタを飼育していた程度ですが、採集してきて飼育していた写真が残っています。そういえば最近、虫採り網を持って夏休みに樹液の出ている木を見て回る子供を周りで見なくなりました。小さい頃は、近くの子供や友達に先に採られないよう競って採りに行って、誰が立派な顎の雄を採ったかなど比べたりしていましたが、そのような子供を見ないとなんか寂しいです。

話が逸れました。昆虫採集を始めたのは小学 1 年の夏休み。図鑑で標本の作り方を見て、自分でも作ってみたい、ということで取り組んだ自由研究。この時はカブトムシやクワガタ、カミキリなどの簡単に採集できる種で標本作成をしました。夏休みも終わり、自由研究の展示が行われた場所で他の人の標本を見ていた時に、まず目に飛び込んできたのが蝶の標本。蝶ってこんなに綺麗なんだ、こんな標本を作ってみたい、来年は蝶も採ろう、と思ったことを覚えています。ふと振り返ると、これが蝶を採集し始めたきっかけです。

実は当時、蝶が苦手でした。小学 1 年で簡単に採集できる蝶と言えば、モンシロチョウやスジグロシロチョウ。ゆっくり飛んでいますし。これを捕まえて手で掴んだ時、鱗粉がついたのが気分がよくなかったというのかなんというのか…とにかく好きじゃなかったんです。何か匂いがして嫌だったという記憶もあります。でも、こんなに綺麗なら採ってやろうじゃないか!と。鱗粉が付こうが、匂いがしょうが関係ない!と。蛾に対しては、そうは思えなかったんですけど。

翌年(小学 2 年の時)は、蝶・トンボ・甲虫など、蛾以外の採った虫はなんでも標本にして自由研究で提出し、3 年生の時から蝶を主に採集し標本を作っていました。そんな時です。今の私

があるきっかけとなった蝶に出会ったのは。その蝶のラベルを見ると、採集日が8月4日と私の誕生日。神様とか運命とか信じる方ではありませんが、何か感じない訳にはいかない様な気がしています。

2003年8月4日、父と二人で夏休みの自由研究用の蝶を採りに鰐塚山に出かけていました。初めてサカハチチョウを見た日でもありました。残念ながら採り逃し、悔しい思いをしましたが。その日、アゲハ類などいろんな蝶が飛んでいた中、1頭のアサギマダラを採集したのです。この1頭その他、アサギマダラが居たかどうかは覚えていません（居たような、居なかったような…）。その偶々採集した1頭が、マーキングされた個体だったんです。

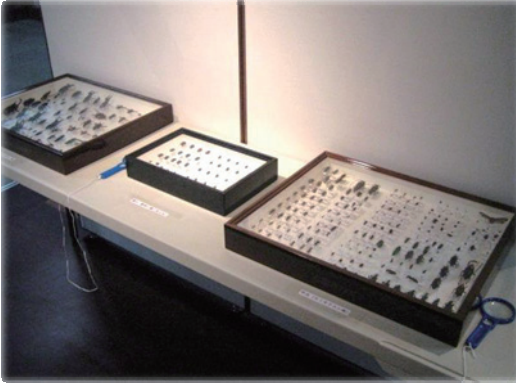


標識は『ワニ 13』。知識が今よりももの凄く浅かった頃ですが、マーキングが行われていることは、新聞（テレビだったかな?）で見て知っていたのですぐにわかりました。「これは凄い蝶を採ったんじゃないか!?!」そう思いながらルンルンで下山していた時、網を振っている方2人にお会いしました。お会いしたのは長友倫明さん、故倉田健三さんで、父がアサギマダラの話をしたところ、その個体は中尾景吉さんが数日

前に鰐塚山でマークした個体であることがわかり、名刺に中尾さんの携帯の番号を書いてくださいました。「ここで放された蝶なんだ。他所から来た蝶じゃなかったんだ。」他所から来た蝶かも!?!、と勝手に期待してしまっていたため、子供ながらちょっとがっかりした記憶があります。その時は、鰐塚山でマーキングされた個体ということがわかったから、まあいいか。折角連絡先を教えていただいたのですが、それで終わりました。

時は流れて、翌年2004年5月末（小学4年）。祖父母宅で遊んでいると、祖父が「庭に変わった蝶が沢山来てるよ!」と。庭に植えてあったスイゼンジナにアサギマダラが多数飛来。このスイゼンジナは、猪崎鼻でツマベニチョウを飼育されている方がいらっしゃるということで見に行った際に、苗をいただき植えていました（ツマベニチョウを見に行ったのに、どのような経緯で貰うことになったのか覚えていませんが）。

アサギマダラの多数の飛来に興奮していると、中にリュウキュウアサギマダラのような蝶が!採集し、教えていただいた中尾さんの番号に父が電話をしてみると…間違い番号。その後故倉田さんの番号に父が連絡し、中尾さんと連絡を取ることができました。その時、リュウキュウアサギマダラと思った蝶は、ウスコモンマダラ♂であることが判明。その翌日にまた1♂、1週間後にも1♀（タテハモドキ、2004 No. 40）、翌年5月にも1♀飛来。それから、蝶の世界にどっぷり嵌っていききました。



小学6年の冬、中尾さんから都城の阿部祐侍さんを紹介していただき、念願のゼフィルス採集もできるようになりました。阿部さんには、鹿児島その他、大分や熊本にも採集に連れて行っていただき、ゼフィルスだけでなく他の蝶も採集することができました。

また、中尾さんには鹿児島の福田晴夫さんの御自宅に案内していただき、蝶についていろいろ話をさせていただきました。こ

れがきっかけで都城・北諸県郡の蝶をまとめることになりました。前回発表したものは、今改めてみると、私の個人的な見解のみの羅列となってしまうので、時間が確保できるようになったら採集データをまとめてまた発表したいと思います。標本のデータをまとめないといけないので、時間がかかると思いますが。

中学3年の時には、父の知人からの依頼があり、三股駅と三股図書館で標本展を行いました。標本展では、小学1年から小学6年までの自由研究の標本と、国内外の蝶、国内外の甲虫、九州沖縄のセミの他自分で撮った写真も展示しました（写真左上、右下）。三股図書館では、新開孝さんの写真展と一緒に標本の一部を置かせていただきました。趣味で採集してきた虫でしたが、誰かに見てもらえたということが嬉しかったです。何回か学校帰りに様子を見に行きましたが、小さい子供が標本箱を一生懸命覗いたりして、虫に興味がある子がいるということにホッとしました。蝶より甲虫やセミの標本箱を見入っていましたが。

宮崎でのことではありませんが、県外でのことで少しだけ。中尾さんの紹介で石垣島の山田守さんと知り合うことができ、その後、寺章夫さんのウスバシロチョウの越夏越冬実験にも参加させていただいたこともあります（Citrina 通信, No. 181）。また、山田さんの紹介で旧群馬の蝶を語る会に入会し日本各地の蝶屋さんと知り合うこともできました。中でも、群馬の小出雄一さんにはよくしていただき、中国などの海外の蝶の三角紙標本などをいただいたり、2010年には中国にも一緒に連れて行ってくださいました。兵庫の杠隆史さんとも知り合うことができ、北海道や沖縄の蝶をいただいたり、生態についても教えていただいています。他にもいろんな方々と知り合うことができ、国内外の蝶の三角



紙標本や幼虫等もいただいたり、飼育方法も教えていただいたりしています。

ウスコモンマダラ 4 頭以降で宮崎で採集した思い出深い蝶は、カラスアゲハの雌雄型（季刊ゆずりは, 2007 WINTER No. 32）、コツバメの異常型（季刊ゆずりは, 2007 SUMMER No. 34）でしょうか。先日（2014 年 9 月 5 日）はツマグロヒョウモンの雌雄型（季刊ゆずりは, 2014 AUTUMN No. 63）も採集しました。この時は採集時に雌雄型と分かったので流石に手が震え、一度ミスネット。慌てましたが、無事採集。思い出してみても、いろんな蝶を採ってきたかと改めて感じています。

まさか自分が、このような原稿を投稿する日が来るとは考えてもいませんでした。振り返ってみると、約 10 年の間に沢山の素晴らしい先生方にお世話になってきたとしみじみ思います。これ



もすべて、あの時中尾さんのマークされた『ワニ 13』を採集したからこそです。ウスコモンマダラを採集したから、スイゼンジナを貰っていたから、など他にも原点（ターニングポイント）と考えられる出来事もありますが、個人的には『ワニ 13』を採集していなければここまで蝶屋として成長できなかったと思っています。『ワニ 13』、このアサギマダラだけは一生忘れられない蝶です。

《写真》 原点となった『ワニ 13』: 4. Aug. 2003

今は、捕虫網より鉛筆を持って問題集と睨めっこしている時間の方が長いですが、これからも蝶だけでなく、その他の昆虫と戯れながら過ごしていきたいと思っていますので、中尾さん、阿部さん、宮昆の皆さん、それからお世話になっている県外の皆さん、これからも御指導よろしく願います。

～2014 年 9 月、100 匹のクロマダラソテツシジミの幼虫に囲まれながら～

延岡市で再スタートした昆虫採集

木野田 毅

1982年4月、延岡市立恒富中学校に理科の教師として赴任しました。最初の1年間は、初任者研修、学級担任、男子バレーボール部顧問などのことで、精一杯でした。下宿に持ち込んでいた図鑑類、文献、10箱程度のドイツ箱とインロー型の標本箱は、単なる飾りとなっていました。2年目の夏でしたか、延岡市社会教育センターで昆虫展をやっていたので見に行きました。夏休み中ではなかったかと思いますが、季節はよく覚えていません。たくさんの蝶や蛾、カメムシ、外国産の大きなセミ、蝶や蛾などを眺めていたとき、朝日延太郎さんと児玉重信さんに声を掛けていただきました。短い会話であったと思いますが、恒富中の理科教師であることと甲虫に興味があることは伝えたと思います。それから、しばらくして、桧山林道での灯火採集に誘っていただき、朝日さんが蛾を、児玉さんが蝶を集めていることなどを知りました。

灯火採集の思い出は、桧山から始まります。1983年頃、桧山林道は、奥が崖崩れを起こしていましたが、その手前で、何回か灯火採集に同行させていただいています。ヒゲナガカミキリの大きなオスが数頭採れて、大型の毒ビンに納まらなかったことを覚えています。朝日さんは、蛾の習性から、谷の向かい側を照らすことが多かったのですが、これは、蛾が上に上に舞い上がってくるからだと解説を受けました。樹林の上を照らしても、蛾は光の方に降りてくれないと。朝日さんは、林道で下の方の見晴らしがよい場所を探し、灯火採集用の白布をセットし、水銀灯を小型の発電機でもとしていました。水銀灯には、小型の変圧器が必要で、これがショート回路になるからと、水銀灯の他に60Wの白熱灯を点灯させていました。日没前から点灯し、深夜に消灯するとき、水銀灯を先に消し、白布についているおびたしい数の蛾、甲虫、カメムシなどを振り払い、きちんと畳み、という作業に、白熱灯がよい照明になりました。最後は、この白熱灯に虫が密集してしましますが、発電機を止めると、真っ暗になり、あたりはとても静かになり、こんなに静かな山奥にいたのかと、驚くことが多かったです。春から初夏には、深夜に気温が下がり、11時過ぎに消灯をすることもありましたが、6月から8月の時期には、明け方まで灯火採集を継続することもありました。予備のガソリンを漏斗でうまく注ぐ朝日さんの姿は頼もしかったです。

私は、安月給でしたので、小型発電機を買うことはできませんでしたが、鏡山の牧場で糞虫ねらいで灯火採集をしてもらったこともありました。それからしばらくして、延岡市内の電気屋さん（確か店主も昆虫仲間でした）にて、念願の水銀灯と変圧器を購入しました。これは今でも使用しています。100Wの水銀灯は、とても威力があります。山口電気店でしたか？

このように、延岡市で数名の昆虫を愛好する人に会いました。朝日さん、児玉さんの他に、小松さん、安本さん、村上さん、福山さん、山口さん、中野さんと出会い、昆虫の世界が広がっていきました。初めて、上鹿川から鬼の目山林道に行ったとき、最初、五ヶ瀬川沿いから槇峰で右折し、下鹿川に向かう路の先に、山水画に出てくるような岩山が見えるではありませんか。三股町で育った私は、山と言えば高千穂峰の形、焼酎霧島のラベルにあるような漢字の山の文字を連想させる山しか知りませんでした。他には学生時代に眺めた桜島。初めて見る岩峰に、驚いて

いると、あれが、比叡山、左が丹助岳と矢筈岳と教えてもらい、鬼の目山はどれなのだろうと、はらはらしていました。というのは、比叡山の真下で、道路は岩を削り抜いたトンネルであったからです。まるで青洞門のよう。それから、かなり走ってようやく上鹿川に到着。溪流の深さと、そこどころがっている岩の大きさに度肝を抜かれました。そして、鬼の目山林道へ。その頃は、ブナの伐採や人工林の植林作業が盛んであったのでしょうか、林道は未舗装路でしたが、乗用車でゆっくりと登っていくことが出来ました。夏は灯火採集、冬はフジドリシジミなどのゼフィリスの採卵について行きました。あの頃、もっとピーティングやペイトトラップなどで甲虫を採集しておけば良かったと、後悔しています。

鬼の目山林道以外では、北川町上祝子に数回行きました。1985年頃です。部活動で休みがなかなか取れない中学校教師ですが、灯火採集であれば、金曜や土曜の夜はまあまあ活動できました。児玉さんと上祝子の伊東商店を通り過ぎ、大崩山の登山口を右手に見ながら、大野原林道に入ったのには、驚きました。こんな道を乗用車で走破するなんて、びっくりでしたが、児玉さんは、凹凸を上手に避けつつ、奥に進みました。私は、平成5年4月から平成8年3月まで、北川町立祝子川中学校に勤務するという夢が叶い、家族で上祝子の小岩屋の教職員住宅に住みました。この頃には、大野原林道は、私の中古のスズキ・ジムニーでも入ることができなくなっていました。大野原林道での1985年のラベルの付いた甲虫は、非常につかしく、大切な標本となっています。

このように、土日は部活動ではほとんど活動できないとあきらめかかっていた私を、採集に誘っていただき、細々とですが、甲虫の採集の楽しみを継続できているのは、ここに紹介しました延岡市の虫好きみなさんとの出会いがあったからです。小松さんからは、白黒写真のフィルムの現像や印画紙へ



＜上祝子から望む大崩山＞

の焼き付けなども習いました。安本さんには、高平山を案内してもらったことと、そこでジャノメチョウ探しをしたことが今となっては懐かしい思い出です。

鹿児島市に住んでいた学生時代、離島にも何回か行きましたが、鹿児島本土では、霧島山系、高隈山山系、佐多岬、野間半島、市内の近くでは、入来峠、錫山などでよく採集をしていました。しかし、採れる甲虫はかなり南方系の香りがするものが多かったのです。これらの乏しい経験の後、延岡市を中心とした採集をして、初めに思ったことに、図鑑で、分布が九州と四国と本州となっている甲虫が、わりと採れるということでした。鹿児島県では、紫尾山にでも行かないとなかなか出会えない甲虫に出会える、というのが、延岡市での採集での第一印象でした。

(きのだ たけし：都城市高城町穂満坊 350-3)

第 2 部 調査



宮崎県内で採集した甲虫

笹岡 康則

2014年大森岳を中心に採集した甲虫を報告する。今年は春季の採集ができず、又雨も多かった為例年に比べ採集回数は少なくなった。大森岳は採集の度に記録の少ない甲虫に出会い、まだまだ数多くの珍しい甲虫が生息していると思われる。一部を列挙するとホソミツギリゾウムシ、ムネアカホソツツシンクイ(九州2例目の記録?)、ヤクハナムグリヨツメハネカクシ(本土初)、チビコクヌスト(九州初?)、イノウエホソカツムシ等、多くの種類が確認できた。コメツキダマシ科では属未定のものを含め未記載種と思われるもの4種が研究中の種である。チビシデムシ、ツヤゴモクムシにも研究を要する個体が採集されている。現在まで大森岳で700種近くの甲虫を確認することができたが、今後も更なる調査の必要性が再確認されることとなった。もうしばらく調査を続け、綾照葉樹林の甲虫相を整理したいと考える。

同定に際し、安藤清志氏、稲垣誠志氏、今坂正一氏、岸井尚氏、木野田毅氏、齊藤琢磨氏、初宿成彦氏、堤内雄二氏、生川展行氏、林靖彦氏、保科英人氏、三宅武氏、森田誠司氏、吉富博之氏の各氏に大変お世話になった。この場でお礼と感謝申し上げます。とりわけ生川氏は各専門の先生方に標本発送の労をとって頂きました。改めてお礼申し上げます。多くの方の御助力がなければこの報告書を発表することはできなかった。尚、筆者である笹岡が同定したものについては同定者名を記載していない。末筆ながら、ライトトラップに同行していただいた宮崎昆虫同好会の日高謙治氏にも感謝します。

オサムシ科 Carabidae

- 1 ガロアミズギワゴミムシ *Bembidion galloisi* Netolitzky
25,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 2 ヒラタコミズギワゴミムシ *Tachyura exarata* (Bates) 13,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 3 アオグロヒラタゴミムシ *Agonum chalconus* (Bates) 24,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 4 クロモリヒラタゴミムシ *Colpodes atricomus* Bates
24,VI, 25,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 5 *Trichotichnus sp1* 25,V,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 6 *Trichotichnus sp2* 24,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)
- 7 イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius quadraticollis* Morawitz
25,VI,2014 大森岳 (同定: 森田誠司)

タマキノコムシ科 Leiodidae

- 8 オオマルタマキノコムシ *Agathidium subcostatum* Portevin
24,V,2014 大森岳 (同定: 保科英人)

ハネカクシ科 Staphylinidae

- 9 ヤクハナムグリヨツメハネカクシ *Eusphalerum yakushimanum* Watanabe
3,V,2014 大森岳 (同定: 林靖彦)

- 1 0 *Sepedophilus* sp (near *tristiculus*) 24,V,2014 大森岳 (同定: 林靖彦)
 1 1 ツマキリチビハネカクシ *Porocallus insignis* Sharp 3,V,2014 大森岳 (同定: 林靖彦)

コガネムシ科 Scarabaeidae

- 1 2 ニッコウコエンマコガネ *Caccobius nikkoensis* (Lewis)
 2,V,2014 大森岳 (同定: 稲垣政志)
 1 3 コツヤマグソコガネ *Aphodius (Paulianellus) maderi* Balthasar
 25,V,2014 大森岳 (同定: 稲垣政志)
 1 4 トゲヒラタハナムグリ *Dasyvalgus tuberculatus* (Lewis)
 2,V,2014 大森岳 (同定: 稲垣政志)
 1 5 オオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis 12,VII,2014 鰐塚山

マルハナノミ科 Helodidae

- 1 6 セダカマルハナノミ *Prionocyphon ovalis* Kiesenwetter
 9,VIII,2013 24,25,28, v 2014 大森岳 (同定: 吉富博之)
 1 7 ヒメマルハナノミ *Scirtes sobrinus* Lewis 28,V,2014 大森岳 (同定: 吉富博之)

ナガハナノミ科 Ptilodactylidae

- 1 8 クリイロヒゲナガハナノミ *Pseudoepilichas niponicus* (Lewis)
 25,V,2014 大森岳 (同定: 吉富博之)

ヒメドロムシ科 Elmidae

- 1 9 アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura 25,VI,2014 大森岳 (同定: 生川展行)

タマムシ科 Buprestidae

- 2 0 ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E. Saunders 15,VI,2014 大森岳
 2 1 キンモンナガタマムシ *Agrilus auropictus* Kerremans 29,V,2014 大森岳
 2 2 クロナガタマムシ *Agrilus cyaneoniger* E.Saunders
 3,VII,2011 大森岳 leg 堤内雄二 15,VI, 2014 大森岳
 2 3 ムネアカチビナカボソタマムシ *Nalanda rutilicollis rutilicollis* (Obenberger)
 6,VII,2014 大森岳

ナガハナノミダマシ科 Artematopodidae

- 2 4 ニホンナガハナノミダマシ *Eurypogon japonicus* Sakai
 23,VI,2014 大森岳 (同定: 生川展行)

ヒゲブトコメツキ科 Throscidae

- 25 ナガヒゲブトコメツキ *Aulonothroscus ongulus* (Weise)
18,VI,10,IX,2013 23,25,VII,2014 16,VIII,2014 大森岳 (同定：生川展行)

コメツキダマシ科 Eucnemidae

- 26 クロビロウドコメツキダマシ *Galbites borealis* (Hisamatsu) 21,V,2014 西都市三財

コメツキムシ科 Elateridae

- 27 ルリツヤハダコメツキ *Hemicrepidius subcyaneus* (Motschulsky) 15,VI,2014 大森岳
28 タクラチビマメコメツキ *Quasimus takakurai* Kishii
25,IV,24,V,2013 2,V,2014 大森岳 (同定：岸井尚)
29 ヘリムネマメコメツキ *Yukoana carinicolis* (Lewis)
13,V,2013 (同定：堤内雄二) 18,V,2014 大森岳 (同定：岸井尚)

ジョウカイボン科 Cantharidae

- 30 ミツメニンフジョウカイ *Asiopodabrus nakaoi* (Nakane)
24,25,V,2014 大森岳 (同定：今坂正一)

ホタルモドキ科 Omethidae

- 31 ホソホタルモドキ *Drilonius striatulus* Kiesenwetter
25,VII,2014 大森岳 (同定：生川展行)

ホタル科 Lampyridae

- 32 カタモンミナミボタル *Drilaster axillaris* Kiesenwetter 15,VI,2014 大森岳
33 クロミナミボタル *Drilaster unicolor* Lewis 15,VI,2014 大森岳

ナガシクイムシ科 Bostrychidae

- 34 ケヤキヒラタキクイムシ *Lyctus sinensis* Lesne 13,VI,2014 大森岳 (同定：生川展行)

シバンムシ科 Anobiidae

- 35 ヒメトサカシバンムシ *Anhedobia capucina* (Reitter)
28,V,2014 大森岳 (同定：生川展行)

コクヌスト科 Trogossitidae

- 36 チビコクヌスト *Latolaeva japonica* (Reitter) 16,VIII,2014 大森岳 (同定：生川展行)

カッコウムシ科 Cleridae

- 37 クロダンダラカッコウムシ *Stigmatium nakanei* Iga 24,VI,2014 大森岳

ツツシンクイ科 Lymexylidae

- 38 ムネアカホソツツシンクイ *Lymexylon ruficolle* Y. Kurosawa 24,VI,2014 大森岳

ケシキスイ科 Nitidulidae

- 39 キバナガヒラタケシキスイ *Epuraea mandibularis* Reitter
24,VI,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 40 アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus* (MacLeay)
24,V,25,V,24,VII,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 41 マルヒラタケシキスイ *Parametopia xrubrum* Reitter
25,VII,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 42 ウスオビキノコケシキスイ *Pocadites dilatimanus* (Reitter)
24,V,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 43 キマダラケシキスイ *Soronia japonica* Reitter 25,VI,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 44 キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus* Reitter
2,V, 24,VI, 2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 45 コヨツボシケシキスイ *Librodor ipsoides* (Reitter) 30,VI,2014 大森岳

ツツヒラタムシ科 Passandridae

- 46 ツツヒラタムシ *Ancistria apicalis* Reitter 13,VI,2014 大森岳 (同定：生川展覧)

ヒラタムシ科 Cucujidae

- 47 オオキバチビヒラタムシ *Nipponophloeus dorcoides* (Reitter)
29,V,2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 48 ルイスチビヒラタムシ *Notolaemus lewisi* (Reitter)
8,V, 24,V,2014 大森岳 (同定：生川展覧)

チビヒラタムシ科 Laemophloeidae

- 49 ウスリーチビヒラタムシ *Notolaemus suriensis* Labrokov Khnzorian
25,VII,2014 大森岳 (同定：生川展覧)

ホソヒラタムシ科 Silvanidae

- 50 ブナホソヒラタムシ *Silvanoprus fagi* (Guerin-Meneville)
25,IV,2013. 25,VI,28,VII, 2014 大森岳 (同定：生川展覧)
- 51 ミツモンセマルヒラタムシ *Psammoeus triguttatus* Reitter
18,VI,2013. 29,V, 24,VI,2014 大森岳 (同定：生川展覧)

キシムシ科 Cryptophagidae

- 5 2 カワリキスイ *Cryptophagus varians* Grouvelle
13, V, 21, IV, 2013 25, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)

ムクゲキスイムシ科 Biphyllidae

- 5 3 ハスモンムクゲキスイ *Biphyllus rufopictus* (Wollaston)
21, IV, 2013 29, V, 13, VI, 2014 大森岳 (同定：生川展行)
- 5 4 クリイロムクゲキスイ *Biphyllus throscoides* (Wollaston)
24, V, 7, IV, 19, IV, 2013 2, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)

オオキノコムシ科 Erotylidae

- 5 5 カタボシエグリオオキノコ *Megalodacne bellula* Lewis
3, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)

テントウムシダマシ科 Enodomychidae

- 5 6 タイワンオオテントウダマシ *Eumorphus quadriguttatus* (Illiger)
(幼虫) 26, VI, 2014 国富町八代

テントウムシ科 Coccinellidae

- 5 7 メツブテントウ *Sticholotis substriata* Crotch 3, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)
- 5 8 クロヒメテントウ *Scymnus (Pullus) japonicus* Weise
2, V, 2014 大森岳 (同定：齊藤琢磨)
- 5 9 コクロヒメテントウ *Scymnus (Pullus) posticalis* Sicard
16, V, 2013 2, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)
- 6 0 クロスジチャイロテントウ *Micraspis kiotoensis* (Nakane et M. Araki)
16, VIII, 2014 大森岳

ミジンムシダマシ科 Discolomidae

- 6 1 クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* Wollaston
15, VI, 2014 大森岳 (同定：生川展行)

ホソカタムシ科 Colydiidae

- 6 2 コヒラタホソカタムシ *Bolcocius shibatai* Sasaji
19, IV, 2013 24, V, 15, VI, 2014 大森岳 (同定：生川展行)
- 6 3 ヨコモヒメヒラタホソカタムシ *Microsicus bitomoides* (Sharp)
15, VI, 2014 大森岳 (同定：生川展行)
- 6 4 ノコギリホソカタムシ *Endophloeus serratus* Sharp
24, V, 2014 大森岳 (同定：生川展行)

- 6 5 ルイスホソカタムシ *Gempylodes ornamentalis* Reitter
13,VI,2014 大森岳 (同定: 生川展行)
- 6 6 ツヤケシヒメホソカタムシ *Microprius opacus* (Sharp) 11,X,2014 遊学の森
- 6 7 ツヤナガヒラタホソカタムシ *Pycnomerus vilis* (Sharp)
5,VII, 13,IV,2013 29,V,25,VI, 28,VI, 25,VII,2014 大森岳 (同定: 生川展行)
- 6 8 ダルマチビホソカタムシ *Pseudotarphius lewisii* Wollaston
12,V,2012 24,V,2014 大森岳 (同定: 生川展行)
- 6 9 ホソマダラホソカタムシ *Namunaria picta* (Sharp)
21,IV,2013 28,V,2014 大森岳 (同定: 生川展行)
- 7 0 イノウエホソカタムシ *Antibothrus morimotoi* Sasaji
28,V,2014 大森岳 (同定: 生川展行)

デバヒラタムシ科 Prostomidae

- 7 1 デバヒラタムシ *Prostomis latoris* Reitter 26,VII,2014 大森岳

クチキムシ科 Alleculidae

- 7 2 カタモンヒメクチキムシ *Mycetochara mimica* Lewis
18,VI,2013 24,VI,2014 大森岳 (同定: 生川展行) 25,VII,2014 大森岳 (同定: 安藤清志)

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

- 7 3 コブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus bellicosus* (Lewis)
3,V,2014 (同定: 生川展行)
- 7 4 モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi lewisi* Bates 1,VI,2014 綾 尾堂橋
- 7 5 ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydemia recticorne* Lewis
28,V, 29,V,2014 大森岳 (同定: 安藤清志)
- 7 6 フタモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema ornatellum* Lewis
15,VI,2014 大森岳 (同定: 生川展行)
- 7 7 クロホシテントウゴミムシダマシ *Derispia maculipennis* (Marseul)
28,V,2014 (同定: 生川展行)
- 7 8 ユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes* (Marseul) 1,VI,2014 綾 尾堂橋
- 7 9 マルツヤニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus scatebrae* (Lewis)
28,V,2014 大森岳 (同定: 安藤清志)
- 8 0 ルイスマルムネゴミムシダマシ *Tarpela lewisi* Masumoto
25,VI,2014 大森岳 (同定: 安藤清志)

コキノコムシ科 Mycetophagidae

- 8 1 コモンヒメコキノコムシ *Litargus japonicus* Reitter

- 24, V, 13, VI, 29, VI, 24, VII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 8 2 キュウシュウヒメコキノコムシ *Litargus kyushuensis* Miyatake
25, VII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 8 3 ヒゲブトコキノコムシ *Mycetophagus antennatus* (Reitter)
28, V, 15, VI, 24, VI, 16, VIII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 8 4 コマダラコキノコムシ *Mycetophagus pustulosus* (Reitter)
25, XI, 2012. 28, V, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- ツツキノコムシ科 Ciidae
- 8 5 キムネツツキノコムシ *Cis subrobustus* Miyatake 28, V, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- チビキカワムシ科 Salpingidae
- 8 6 モンシロハネカクシダマシ *Inopepla squadrinotatus* (Gorham)
25, VII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- ナガクチキムシ科 Melandryidae
- 8 7 ヨツモンヒメナガクチキ *Holostrophus dux* Lewis 25, VII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 8 8 アカオビニセハナノミ *Orchesia imitans* Lewis
12, VII, 2013 24, V, 15, VI, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 8 9 フタモンヒメナガクチキ *Microtonus dimidiatus* (Marseul)
24, V, 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 9 0 ナガイホソナガクチキ *Rushia nagaii* (Nakane) 25, VII, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- ハナノミ科 Mordellidae
- 9 1 サトウヒメハナノミ *Falsomordellistena satoi* (Nomura)
25, V, 28, V, 2014 大森岳 (同定 : 初宿成彦)
- ハナノミダマシ科 Scaptiidae
- 9 2 タケイフナガタハナノミ *Anaspis takeii* Chujo
27, VI, 2013 26, V, 2014 大森岳 (同定 : 初宿成彦)
- カミキリモドキ科 Oedemeridae
- 9 3 アオグロカミキリモドキ *Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea* (Lewis)
3, IV, 2013 29, V, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)
- 9 4 キバネカミキリモドキ *Nacerdes luteipennis* (Marseul)
28, VI, 2014 大森岳 (同定 : 生川展行)

アリモドキ科 Anthisidae

- 95 クロスジイッカク *Notoxus haagi* Marseul 26, VII, 2014 大森岳
 96 アカモンホソアリモドキ *Sapintus marseuli* (Pic) 29, VI, 2014 大森岳 (同定: 生川展行)

カミキリムシ科 Cerambycidae

- 97 ベーツヒラタカミキリ *Eurypoda batesi* Gahan 7, VIII, 2014 佐土原
 98 フタスジハナカミキリ *Nakanea vicaria* (Bates) 20, VII, 2014 鰐塚山
 99 ヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor laeticolor* Bates 18, V, 2014 大森岳
 100 ズマルトラカミキリ *Xylotrechus lautus lautus* Matsushita 15, VI, 2014 大森岳
 101 カタシロゴマフカミキリ *Mesosa hirsuta hirsuta* Bates
 15, VIII, 2011 大森岳 leg 堤内雄二 16, VIII, 2014 大森岳
 102 クビジロカミキリ *Xylariopsis mimica* Bates 25, V, 2014 大森岳
 103 ドウボソカミキリ *Pseudocalamobius japonicas* (Bates) 26, V, 2014 大森岳
 104 イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis* Bates 1, VI, 2014 綾 尾堂橋
 105 ドイカミキリ *Mimectatina divaricata divaricata* (Bates)
 18, V, 2014 大森岳
 106 イボタサビカミキリ *Sophronica obrioides* (Bates) 29, V, 2014 大森岳
 107 クモガタケシカミキリ *Exocentrus fasciolatus* Bates 6, VII, 2014 大森岳
 108 ガロアケシカミキリ *Exocentrus galloisi* Matsushita 24, VI, 2014 大森岳
 109 セミスジニセリンゴカミキリ *Eumecocera trivittata* (Breuning)
 29, V, 2014 大森岳
 110 ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota* (Bates) 29, V, 大森岳
 111 ホソツツリンゴカミキリ *Oberea nigriventris* Bates 28, VI, 2014 須木

ハムシ科 Chrysomelidae

- 112 ルリクビボソハムシ *Lema cirsicola* Chujo 12, VII, 2014 鰐塚山
 113 キイロナガツツハムシ *Smaragdina nipponensis* (Chujo)
 25, V, 2014 大森岳 (同定: 生川展行)
 114 ルリツツハムシ *Cryptocephalus aeneoblitus* Takizawa
 2, V, 2014 大森岳 (同定: 今坂正一)
 115 アオグロツヤハムシ *Oomorphoides nigrocaeruleus* (Baly)
 24, V, 2014 大森岳 (同定: 生川展行)
 116 ムネアカサルハムシ *Basilepta ruficollis* (Jacoby) 12, VII, 2014 鰐塚山
 117 クワハムシ *Fleutiauxia armata* (Baly) 2, V, 2014 (同定: 生川展行)
 118 ケブカクロナガハムシ *Hesperomorpha hirsute* (Jacoby)
 2, V, 2014 大森岳 (同定: 今坂正一)
 119 キアシツブノミハムシ *Aphthona semiviridis* Jacoby

3, V, 2014 大森岳 (同定: 今坂正一)

1 2 0 コマルノミハムシ *Nonarthra tibialis* Jacoby

2, V, 2014 大森岳 (同定: 今坂正一)

1 2 1 ガマズミトビハムシ *Zipangia obscura* (Jacoby)

2, V, 3, V, 2014 大森岳 (同定: 今坂正一)

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

1 2 2 キノコヒゲナガゾウムシ *Euparius oculatus oculatus* (Sharp) 24, VI, 2014 大森岳

オトシブミ科 Attelabidae

1 2 3 ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus (Agomadaranus) pardalis* (Snellen van Vollenhoven)

11, VI, 2014 西都市三財

ミツギリゾウムシ科 Brentidae

1 2 4 ホソミツギリゾウムシ *Cyphagogus signipes* Lewis 12, VI, 2014 大森岳

ゾウムシ科 Curculionidae

1 2 5 アシナガオニゾウムシ *Gasterocercus longipes* Kono 28, VI, 2014 大森岳

(ささおか やすのり: 宮崎市大字島之内 9481)

コラム 1 レインボーセンチコガネ

林の中を低空飛行し、そこに光が当たるとキラリと輝く。あっ、センチだ、ネットを差し出す
が、すでに遅く、走って追っても追いつかない。また、採り逃がした。標本箱の中のセンチコガ
ネは獣の糞に止まっている時の採集か、あるいはバイトトラップで得たものが多い。意外とネッ
トインできない種である。このセンチコガネ、屋久島から北海道まで広く分布している。北川町
上祝子に3年住んだその期間、ずいぶんセンチコガネを採集している。数年後、ある方から、宮
崎県と大分県境でセンチコガネを採集してくれないかとの依頼があった。多様な色彩の個体が採
れるらしい。そのように教わって我が標本箱を眺めると、確かに暗赤色、紫色、暗緑色、紫から
青に近い色、銅色、さらに前胸背と上翅の色が微妙に異なる個体など、確かに色々だった。その
依頼者は、虹色センチ群と説明していた。これが、祖母山から傾山、大崩山などの県境に分布し
ている。延岡市近郊の低山地では、色は単調でほとんど紫色であった。行徳山でも色は単調。さ
て、わずかな調査で述べるのはちょっとはばかれるが、北川町下祝子では、レインボーとなる
ようだ。標高は300mほどの地点である。誰か調査をしてみませんか。

(木野田 毅)

宮崎県内の甲虫の記録

木野田 毅

筆者が宮崎県内で採集している甲虫を中心に報告する。小林賢司氏、笹岡康則氏、長友いづき氏、中武文広氏、安本潤一氏から採集個体をいただいている分も加えている。採集品を恵与していただき感謝申し上げます。そして自宅で甲虫を袋に入れてくれ、また、勤務先で甲虫を持ち帰ってくれた妻利子にも感謝したい。採集者で笹岡康則氏のものは、leg.S と記した。

同定をしていただいた、今坂正一氏、初宿成彦氏、堤内雄二氏、三宅武氏には、紙面をお借りして、改めて感謝申し上げます。

ナガヒラタムシ科 Cupedidae

- 1 ナガヒラタムシ *Tenomerga mucida* (Chevrolat) 1 ♀, 宮崎市 leg.S
(採集日は不明。2007年から2009年の間ではないかと推測する：木野田)

ハンミョウ科 Cicindelidae

- 2 コハンミョウ *Myriochila speculifera* (Chevrolat, 1845) 1 ex., 延岡市大武町, 22.VIII. 1987
3 ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspeculare* (W.Horn, 1904)
2 exs., 延岡市二ツ島, 22.VIII. 1997

オサムシ科 Carabidae

- 4 オオオサムシ *Carabus dehaanii dehaanii* Chaudoir
3 ♂ 3 ♀, えびの市大河平, 12.V. 2013 ; 2 ♀, 都城市山之口町青井岳飛松, VII. 2013
5 マイマイカブリ *Damaster blaptoides blaptoides* Kollar
1 ex., 都城市高城町穂満坊, 5.V. 2012 ; 1 ex., 宮崎市鏡洲椿山峠, 11.XI. 2012 ; 1 ex., えびの市大河平, 12.V. 2013 ; 2 exs., 都城市山之口町青井岳飛松, VII. 2013
6 ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus* Bates
1 ex., 延岡市無鹿町, 26.V. 1989 ; 1 ex., 宮崎市高岡町穆佐, 10.VII. 2009, leg.S ; 1 ex., 同, 11.VII. 2009, leg.S ; 1 ex., 都城市山之口町青井岳, 19.VII. 2009, leg.S ; 1 ex., 日南市北郷町黒仁田, 8.V. 2010, leg.S
7 ホソヒョウタンゴミムシ *Scarites acutidens* Chaudoir
1 ex., 宮崎市高岡町穆佐, 10.VII. 2009, leg.S
8 クビアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes rubriolus* Bates 1 ex., 宮崎市内海, 16.V. 2007, leg.S
9 ベーツヒラタゴミムシ *Euplynes batesi* Harold 2 exs., 延岡市桧山, 23.V. 1985
10 キベリゴモクムシ *Anoplogenus cyanescens* (Hope)
1 ex., 北川町上祝子小岩屋, 24.V. 1993
11 ニッポンヨツボシゴミムシ *Dischissus japonicus* Andrewes 1 ex., 日向市日ノ平, 3.VI. 2001
12 スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger* (Chaudoir)

- 1 ex.,美郷町西郷区古川, 19. II.2012 ; 1 ex.,美郷町南郷区山麦, 19. II.2012 ; 2 exs.,西米良村天包山, 1.VI.2012
- 1 3 ムナビロアオゴミムシ *Chlaenius sericimicans* Chaudoir
1 ex.,北川町上祝子小岩屋, 15.VI.1993
- 1 4 ムナビロアトボシアオゴミムシ *Chlaenius tetragonoderus* Chaudoir
1 ex.,延岡市行藤町, 1.VII.2007 ; 1 ex.,宮崎市高岡町高岡, 27.VII.2007,leg.S ; 1 ex.,宮崎市高岡町穆佐,31.VII.2009,leg.S ; 2 exs.,同, 15.VIII.2009,leg.S ; 1 ex.,同, 21.VIII.2009,leg.S ; 1 ex.,宮崎市清武町黒北, 18.VII.2010,leg.S ; 1 ex.,都城市高崎町, 30.VII.2011 ; 1 ex.,都城市吉之元町(4730-5783), 25.VII.2012
- 1 5 アトワアオゴミムシ *Chlaenius virgulifer* Chaudoir
1 ex.,宮崎市高岡町高岡, 21.VII.2007,leg.S ; 1 ex.,都城市高崎町大牟田, 27.VI.2011,leg.木野田利子
- 1 6 オオアトボシアオゴミムシ *Chlaenius micans* (Fabrisius)
1 ex.,宮崎市高岡町穆佐,31.VII.2009,leg.S ; 1 ex.,同, 15.VIII.2009,leg.S ; 1 ex.,木城町石河内, 17.VIII.2009,leg.S ; 1 ex.,高鍋町, 20.IV.2011,leg.S
- 1 7 アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger* Morawitz
1 ex.,宮崎市高岡町高岡, 6.VI.2007, leg.S ; 1 ex.,都城市美川町西岳中学校, 12.VII.2011
- 1 8 キボシアオゴミムシ *Chlaenius posticalis* Motschulsky
2 exs.,都城市高崎町高崎新田, 15.VII.2012 ; 1 ex.,都城市吉之元町(4730-5783), 25.VII.2012
- 1 9 ノグチアオゴミムシ *Lithochlaenius noguchii noguchii* (Bates)
1 ex.,宮崎市清武町, 30.VII.2010, leg.S
- 2 0 ブロンズクビナガゴミムシ *Odacantha metallica* (Fairmaire)
1 ex.,日向市平岩, 22.IV.2001 宮崎県初記録の可能性あり。
- 2 1 フタモンクビナガゴミムシ *Archicolluris bimaculata nipponica* Habu
2 exs.,宮崎市高岡町高岡, 25.VII.2007,leg.S ; 1 ex.,同, 27. VII.2007,leg.S ; 2 exs.,宮崎市高岡町穆佐, 7.VIII.2009,leg.S
- 2 2 ダイミョウツブゴミムシ *Pentagonica daimiella* Bates
1 ex.,野尻町西角内三ヶ野山,5.VII.1992 ;
- 2 3 コキノコゴミムシ *Coptodera japonica* Bates
3 exs.,西都市三財, 28.VII.2010,leg.S ; 1 ex.,日南市酒谷, 1.VIII.2010,leg.S
- 2 4 ハギキノコゴミムシ *Coptodera subapicalis* Putzeys
1 ex.,北川町上祝子小岩屋, 18.IV.1993 ; 1 ex.,同, 29.VII.1995
- 2 5 コヨツボシアトキリゴミムシ *Dolichoctis striatus* Schmidt-Görel
2 exs.,北川町上祝子小岩屋, 29.VII.1995
- 2 6 カワツブアトキリゴミムシ *Amphimenes piceolus* Bates 1 ex.,延岡市行藤町, 2.III.1991
- 2 7 アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta* (Bates) 1 ex.,西都市三財, 12. V.2007leg.S
- 2 8 ハネビロアトキリゴミムシ *Lebia duplex* Bates

- 1 ex.,北川町上祝子小岩屋, 23.IV.1993 ; 1 ex.,同, 2.VII.1993
- 2 9 アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia idae* Bates
1 ex.,北川町上祝子小岩屋, 29.IV.1993
- 3 0 ジュウジアトキリゴミムシ *Lebia retrofasciata* Motschulsky
1 ex., 北川町上祝子小岩屋, 29.IV.1993
- 3 1 フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata* Morawitz
1 ex., 北川町上祝子大野原谷, 23.IV.1993(黒化型) ; 1 ex., 同, 29.V.1995
- 3 2 キクピアオアトキリゴミムシ *Lachnolebia cribricollis* (Morawitz)
1 ex.,宮崎市高岡町穆佐, 10.VII.2009,leg.S
- 3 3 モリアオホソゴミムシ *Dendorocellus confuses* (Hausen)
1 ex.,宮崎市高岡町穆佐, 14.VIII.2008,leg.S

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

- 3 4 コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner,1931
1 ♀,都城市高城町穂満坊, 30.VI.2013

ガムシ科 Hydrophilidae

- 3 5 ガムシ *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky
5 exs.,延岡市貝畑, VIII.1996,leg.安本潤一 ; 1 ex.,日向市美々津町高松, 19.VIII.2014,leg.小林賢司
- 3 6 ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius)
2 exs.,宮崎市高岡町高岡, 21.VII.2007,leg.S ; 1 ex.,宮崎市高岡町穆佐, 31.VII.2009,leg.S ; 1 ex.,
同, 12.VIII.2009,leg.S ; 2 exs.,宮崎市高岡町押田, 8.IX.2009,leg.長友いぶき ; 1 ex.,児湯郡木城町
石河内, 8.IX.2009,leg.S

シデムシ科 Silphidae

- 3 7 クロシデムシ *Nicrophorus concolor* Kraatz,1877
1 ex.,都城市美川町西岳中学校, 26.VII.2011
- 3 8 オオモモブトシデムシ *Necrodes littoralis* Linnaeus
1 ♂,北川町上祝子落水林道入口, 27.VII.1994

ハネカクシ科 Staphylinidae

- 3 9 フタホシシリグロハネカクシ *Astenus maculipennis* (Kraatz)
1 ex.,都城市高城町穂満坊, 28.XII.2013

クワガタムシ科 Lucanidae

- 4 0 スジクワガタ *Dorcus striatipennis striatipennis* Motschulsky,1861
1 ♂,小林市須木内山, 29.VII.2012

4 1 コクワガタ *Dorcus rectus rectus* (Motschulsky, 1857)

1 ♂, 都城市美川町西岳中学校, 28.VIII.2011 ; 1 ♂, 同, 8.IX.2011 ; 1 ♂, 都城市吉之元町, 21.VII.2012 ; 3 ♂, 同, 26.VII.2012 ; 1 ♂ 1 ♀, 小林市須木内山, 29.VII.2012

4 2 ヒラタクワガタ *Dorcus titanus pilifer* (Snellen van Vollenhoven, 1861)

3 ♂, 都城市吉之元町, 26.VII.2012 ; 1 ♂, 小林市須木内山, 29.VII.2012 ; 1 ♂, 都城市高城町穂満坊, 23.V.2014

4 3 ネブトクワガタ *Aegus laevicollis subnitidus* Waterhouse, 1873

1 ♂, 小林市須木内山, 29.VII.2012

センチコガネ科 Geotrupidae

4 4 センチコガネ *Phelotrupes laevistriatus* Motschulsky, 1866

2 ♂ 2 ♀, 宮崎市高岡町東和石, 9.X.2012 ; 1 ♀, 諸塚村七つ山, 14.X.2012 ; 1 ♀, 延岡市北方町巳, 14.X.2012

コガネムシ科 Scarabaeidae

4 5 ツヤエンマコガネ *Parascatonomus nitidus* (Waterhouse, 1875)

1 ex., 宮崎市高岡町東和石, 12.X.2012

4 6 コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* Waterhouse, 1875

1 ♀, 都城市高城町穂満坊, 15.V.2013

4 7 クロカナブン *Rhomborrhina polita* Waterhouse, 1875 1 ♂, 都城市吉之元町, 21.VII.2012

4 8 カナブン *Pseudotorynorrhina japonica* (Hope, 1841)

1 ♀, 都城市高城町穂満坊, 5.VII.2012 ; 6 ♂ 2 ♀, 都城市吉之元町, 14.VII.2012

4 9 アオハナムグリ *Cetonia roelofsi roelofsi* Harold, 1880

1 ♀, 西都市三財, 14.VIII.2010, leg.S ; 1 ♂, 西諸県郡高原町皇子, 31.VIII.2010, leg.S

5 0 アオドウガネ *Anomala albopilosa albopilosa* (Hope, 1839)

1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 30.VI.2011 ; 3 exs., 都城市吉之元町, 25.VII.2012

5 1 ヤマトアオドウガネ *Anomala japonioca* Arrow, 1913

1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 12.VII.2011 ; 1 ex., 同, 15.VII.2011

5 2 ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (Hope, 1839)

1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 3.VII.2011 ; 1 ex., 同, 6.VII.2011 ; 1 ex., 都城市吉之元町, 25.VII.2012

5 3 サクラコガネ *Anomala daimiana* Harold, 1877

1 ex., 延岡市追内町, 11.VI.1992 ; 5 exs., 北浦町三川内, 3.VIII.1991 ; 2 exs., 都城市美川町西岳中学校, 11.VII.2011 ; 1 ex., 都城市吉之元町, 25.VII.2012

5 4 ヒメサクラコガネ *Anomala geniculate* (Motschulsky, 1866)

1 ex., 宮崎市好隣梅カブトムシの森, 17.VII.2008

5 5 ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* Motschulsky, 1860

- 4 exs., 田野町片井野林道, 17.VIII.1996 ; 1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 15.VII.2011
- 56 ツヤコガネ *Anomala lucens* Ballion, 1871
1 ex., 宮崎市椿峠, 14.VII.1996 ; 1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 2.VII.2011 ; 1 ex., 都城市吉之元町, 25.VII.2012
- 57 ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister, 1844
1 ex., 西都市三財, 9.IV.2010, leg.S ; 6 exs., 都城市美川町西岳中学校, 4.IV.2012 ; 4 exs., 都城市高城町穂満坊, 28.IV.2012 ; 1 ex., 同, 13.V.2012
- 58 ヒメスジコガネ *Mimela flavilabris* (Waterhouse, 1875)
1 ex., 延岡市追内町, 11.VI.1992 ; 4 exs., 北川町上祝子大野原林道, 29.VI.1995 ; 2 exs., 北川町上祝子落水林道, 1.VII.1995 ; 1 ex., 北川町上祝子小岩屋, 28.VII.1995 ; 2 ♂, 延岡市北浦町森山林道, 5.VII.2008 (この2 ♂は、タテハモドキ46号にサクラコガネとして報告した5頭の中に混ざっていた。ここで誤同定をお詫びします。)
- 59 コガネムシ *Mimela splendens* (Gyllenhal, 1817)
1 ex., 延岡市追内町, 11.VI.1992 ; 1 ex., えびの市上江町上江中学校, 25.V.2005
- 60 クロコガネ *Holotrichia kiotoensis* Brenske, 1894
2 ♂ 1 ♀, 日向市富高西川内, 3.V.2001
- 61 オオクロコガネ *Holotrichia parallela* (Motschulsky, 1854)
1 ♂, 北浦町三川内, 3.VIII.1991 ; 1 ♂, 都城市吉之元町, 25.VII.2012
- 62 コクロコガネ *Holotrichia picea* Waterhouse, 1875
1 ♀, 都城市美川町西岳中学校, 29.VI.2011
- 63 サツマコフキコガネ *Melolontha satsumaensis* Nijima et Kinoshita, 1923
1 ♂, 都城市美川町西岳中学校, 30.VI.2011 ; 1 ♂, 同, 4.VII.2011 ; 1 ♀, 同, 27.VII.2011 ; 1 ♂, 宮崎市田野町天神ダム, 13.VII.2012 ; 1 ♀, 都城市吉之元町, 25.VII.2012 ; 1 ♂, 都城市高城町穂満坊, 14.VII.2014
- 64 ヒゲコガネ *Polyphylla laticollis laticollis* Lewis, 1887
1 ♂, 都城市高城町穂満坊, 16.VIII.2013 ; 1 ♂, 都城市高木, 8.IX.2014
毎年、高城町穂満坊近辺で8月末に多く見かけるが、2014年はほとんど見かけなかった。
- 65 ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus tokushimus* Krajcik, 2007
1 ♂, 宮崎市大谷林道, 16.VI.2010, leg.S ; 1 ♀, 都城市美川町西岳中学校, 25.VII.2011
- 66 キラチャイロコガネ *Sericania kirai* Sawada, 1938
1 ♂, 東臼杵郡北方町上鹿川, 17.IV.2004, leg. 安本潤一 (同定: 今坂正一)
- 67 ヒゴシマビロウドコガネ *Gastroserica higonina* (Lewis, 1895)
1 ♂ 1 ♀, 西都市三財, V.2008, leg.S ; 1 ♂ 2 ♀, 児湯郡川南町遊学の森, 5.V.2009, leg.S
- 68 カミヤビロウドコガネ *Maladera kamiyai* (Sawada, 1937)
1 ex., 西諸県郡野尻町三ヶ野山西角内, 5.VII.1992 ; 1 ex., 椎葉村松尾, 10.VIII.1992 ; 1 ♂, 宮崎市高岡町穆佐, 22.VIII.2009, leg.S

タマムシ科 Buprestidae

- 69 シロオビナカボソタマムシ *Coraebus quadriundulatus* Motschulsky, 1866
2 exs., 小林市夷守台入口, 13.V.2012
- 70 ウグイスナガタマムシ *Agrilus tempestivus* Lewis, 1893
5 exs., 宮崎市高岡町瓜田ダム, 9.VI.2010, leg.S
- 71 クロエグリタマムシ *Endelus bicarinatus* Théry, 1932
1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 28.IV.2011 県初記録と思われる。

コメツキムシ科 Elateridae

- 72 オオミドリヒメコメツキ *Vuilletus crebrepunctatus* (Nakane, 1959) (同定: 堤内雄二)
1 ex., 北川町上祝子, 3.V.1987; 2 exs., 同, 15.VI.1989; 1 ex., 北川町上祝子大野原谷, 16.V.1993; 1 ex., 北川町大崩山, 13.V.1995; 1 ♂, 宮崎市田野町, 5.IV.2009, leg.S; 1 ♂, 日南市酒谷, 27.III.2011, leg.S
- 73 ヒラタクシコメツキ *Spheniscosomus koikei* (Kishii et Ohira, 1956)
1 ex., 北川町落水の滝, 5.V.2004, leg. 安本潤一
- 74 ルイスクシコメツキ *Melanotus lewisi lewisi* Schenkling, 1927
1 ♂, 都城市美川町西岳中学校, 2.VII.2011
- 75 クロクシコメツキ *Melanotus senilis senilis* Candèze, 1865
1 ex., 高鍋町小丸川河口, 22.IV.2012

カッコウムシ科 Cleridae

- 76 ヤマトヒメメダカカッコウムシ *Neohydnius hozumii* Nakane
1 ex., 延岡市浜砂町, 23.VIII.1997 (前胸背は黒色)
- 77 キオビナガカッコウムシ *Opilo carinatus* Lewis 1 ex., 宮崎市田野町, 23.IV.2010, leg.S
- 78 ツマグロツツカカッコウムシ *Tenerus hilleri* Harold 1 ex., 木城町石河内, 8.VIII.2010, leg.S

コメツキモドキ科 Languriidae

- 79 キムネヒメコメツキモドキ *Anadastus atriceps* (Crotch)
1 ex., 西都市三財, 22.V.2009, leg.S
- 80 ルイスクメツキモドキ *Languriomorpha lewisi* (Crotch)
1 ex., 宮崎市高岡町瓜田ダム, 9.VI.2010, leg.S

オオキノコムシ科 Erotylidae

- 81 クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (Lewis)
1 ex., 北川町大崩山, 13.VII.1985; 4 exs., 同, 13.V.1995
- 82 ヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunei* Crotch
1 ex., 宮崎市下北方町池内, 25.V.2008, leg.S; 1 ex., 同, 17.VI.2008, leg.S; 3 exs., 宮崎市佐土原

- 町宝塔山, 4.XII.2008, leg.S ; 1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 3.VII.2011 (同定: 堤内雄二、三宅武)
- 83 ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami* Lewis
 1 ex., 西都市三財, 15.VII.2010, leg.S (同定: 堤内雄二、三宅武)
 ※ タテハモドキ 46 号にキオビオオキノコとして報告した、4 個体、1 ex., 川南町遊学の森,
 23.XI.2008, leg.S と、3 exs., 西都市三財, 16.IV.2009, leg.S は、ミヤマオビオオキノコでした。
 ここに訂正します。

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

- 84 ヨツボシゴミムシダマシ *Basanus erotyloides* Lewis
 1 ex., 北方町鬼の目山, 6.III.1988 (同定: 三宅武)
- 85 コクヌストモドキ *Tribolium castaneum* (Herbest)
 2 exs., 都城市高城町穂満坊, 10.VI.2013
- 86 エグリゴミムシダマシ *Uloma marseuli* Nakane
 3♂ 1♀, 宮崎市高岡町穆佐, 14.XII.2008, leg.S ; ; 1♀, 宮崎市好隣梅カブトムシの森, 21.
 VI.2009, leg.S
- 87 ユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgipes* (Marseul)
 1♂, 都城市高城町穂満坊, 23.V.2014
- 88 ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger lunuliger* Marseul
 1 ex., 宮崎市高岡町穆佐, 6.VI.2007, leg.S ; 1 ex., 西都市三財, 15.VII.2007, leg.S
- 89 オオニジゴミムシダマシ *Euhemicera pulchra* (Hope)
 1 ex., 宮崎市内海, 16.V.2007, leg.S ; 2 exs., 宮崎市下北方町池内, 7.VI.2007, leg.S ; 1 ex., 宮崎
 市高岡町高岡, 27.VII.2007, leg.S
- 90 ルリスジキマワリモドキ *Pseudonautes purpurivittatus* (Marseul)
 1 ex., 木城町, 15.VII.2001, leg. 中武文広 ; 1♂, 宮崎市内海カブトムシの森, 23.VII.2008, leg.S
- 91 コマルキマワリ *Amarygmus curvus* Marseul
 2 exs., 西都市三財, 29.I.2009, leg.S (イチイガシの樹皮下より得る)
- 92 キマワリ九州亜種 *Plesiophthalmus nigrocyaneus aeneus* Motschulsky
 1 ex., 西都市三財, 15.VII.2007, leg.S

ハムシダマシ科 Lagriidae

- 93 ニシアオハムシダマシ *Arthromacra kyushuensis* Nakane, 1997
 1♂, 宮崎市大谷林道, 2.V.2011, leg.S
- 94 アカハムシダマシ *Arthromacra sumptuosa* Lewis, 1895
 1♂, 宮崎市大谷林道, 2.V.2011, leg.S

ナガクチキムシ科 Melandryidae

- 95 フタオビホソナガクチキ *Dircaea erotyloides* Lewis, 1895

1 ex., 北川町上祝子小岩屋, 25.VII.1995

9 6 アオバナガクチキ *Melandrya gloriosa* Lewis, 1895 1 ♂, 日南市酒谷, 6.VI.2010, leg. S

ハナノミ科 Mordellidae

9 7 ガロアヒメハナノミ *Tolidopalpus galloisi* (Kôno)

1 ex., 宮崎市下北方, 26.VI.2013, leg. S (同定: 初宿成彦)
(宮崎県初記録の可能性あり; 木野田)

アリモドキ科 Anthicidae

9 8 ヒゴケナガクビボソムシ *Neostereopalpus kyushuensis* Nakane, 1975

2 exs., 北川町上祝子大野原谷, 29.VI.1995 (同定: 今坂正一)

カミキリムシ科 Cerambycidae

9 9 ヒミコヒメハナカミキリ *Pidonia neglecta neglecta* Kuboki, 1982

1 ♀, 木城町尾鈴山板矢谷, 10.V.1987

1 0 0 シコクヒメハナカミキリ *Pidonia mutata* (Bates, 1884)

1 ♀, 延岡市下祝子, 3.V.2010, leg. 安本潤一

1 0 1 チャイロヒメハナカミキリ *Pidonia aegrota aegrota* (Bates, 1884)

1 ♀, 宮崎市田野町, 11.IV.2010, leg. S

1 0 2 トサヒメハナカミキリ *Pidonia approximate* Kuboki, 1977

1 ♀, 西都市三財, 9.IV.2010, leg. S; 1 ♀, 日南市酒谷, 3.IV.2011, leg. S

1 0 3 キュウシュウイヨヒメハナカミキリ *Pidonia hylophila affinis* Kuboki, 1982

1 ♂ 1 ♀, 北方町鬼の目山林道, 24.V.2003, leg. 安本潤一; 1 ♂, 宮崎市田野町, 11.IV.2010, leg. S;
1 ♂, 同, 17.IV.2010, leg. S; 1 ♀, 日南市北郷町, 29.IV.2010, leg. S; 1 ♂, 延岡市北川町下祝子, 3.V.2010, leg. 安本潤一

1 ♂ 1 ♀, 北方町鬼の目山林道の2頭と1 ♂, 延岡市北川町下祝子の1頭は、タテハモドキ46号にて、ニセヨコモンヒメハナカミキリとして報告したが、キュウシュウイヨヒメハナカミキリの間違いでした。ここに訂正いたします。

1 0 4 オオヨツスジハナカミキリ *Macroleptura regalis* (Bates 1884)

1 ♀, 都城市美川町西岳中学校, 18.VII.2012

1 0 5 アオスジカミキリ *Xystrocera globosa* (Olivier, 1795)

1 ♀, 日向市美々津町, 22.VII.2014, leg. 小林賢司

1 0 6 シロスジカミキリ *Batocera lineolate* Chevrolat, 1852

1 ♂, 日向市亀崎, 14.VI.2013, leg. 小林賢司

1 0 7 タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis* (Fabricius, 1787)

1 ♀, 日向市美々津町, 15.VII.2014, leg. 小林賢司

1 0 8 ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis* Bates, 1873

- 1 ♀, 都城市高城町穂満坊, 28.VI.2014, leg. 木野田利子
- 1 0 9 シロスジドウボソカミキリ *Pothyne annulata* Breunin
1 ♀, 都城市高城町穂満坊, 20.V.2014, leg. 木野田利子
- 1 1 0 アトジロサビカミキリ *Pterolophia zonata* (Bates, 1873)
1 ♀, 都城市美川町西岳中学校, 21.VI.2012
- 1 1 1 ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata* (Bates, 1873)
1 ♀, 宮崎市塩路, 1.IV.2013, leg. S
- 1 1 2 ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* (Thomson, 1865)
1 ♀, 日向市美々津町, 8.VIII.2014, leg. 小林賢司
- 1 1 3 シマトゲバカミキリ *Rondibilis insularis* (Hayashi, 1962)
1 ex., 宮崎市大塚町宮崎西高校, 6.V.2010
- 1 1 4 ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853)
1 ex., 都城市高城町有水, 8.VI.2012, leg. 木野田利子 ; 1 ex., 都城市高城町穂満坊, 10.V.2013

ハムシ科 Chrysomelidae

- 1 1 5 キイロナガツツハムシ *Smaragdina nipponensis* (Chûjô)
1 ex., 宮崎市好隣梅カブトムシの森, 21.VI.2009, leg. S
- 1 1 6 アオバネサルハムシ *Basilepta fulvipes* (Motschulsky)
8 exs., 都城市高城町穂満坊, 10.VI.2012
- 1 1 7 トビサルハムシ *Trichochrysea japana* (Motschulsky)
1 ex., 宮崎市高岡町穆佐, 28.V.2007, leg. S
- 1 1 8 アカガネサルハムシ *Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii* (Motschulsky)
1 ex., 宮崎市高岡町瓜田ダム, 9.VI.2010, leg. S ; 2 exs., 都城市美川町西岳中学校, 30.VI.2011
- 1 1 9 セアカケブカサルハムシ *Lypsthes fulvus* (Jacoby)
1 ex., 宮崎市内海, 14.V.2007, leg. S ; 1 ex., 同, 16.V.2007, leg. S
- 1 2 0 ミドリサルハムシ *Colaspoides japanus* Chûjô 1 ex., 西都市三財, 12.V.2007, leg. S
- 1 2 1 モンキアシナガハムシ *Monolepta quadriguttata* (Motschulsky)
1 ex., 延岡市小野町, 28.VII.1981

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

- 1 2 2 ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus* Sharp
1 ex., 宮崎市カブトムシの森, 21.VI.2009, leg. S ; 1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 25.VII.2011
- 1 2 3 フタモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus nigromaculatus* Morimoto
1 ex., 西都市三財, 16.VII.2009, leg. S

オトシブミ科 Attelabidae

- 1 2 4 チビイクビチョッキリ *Deporaus minimus* Kôno

- 1 ex.,日向市富高, 30.V.1995 (同定: 三宅武)
- 1 2 5 カシルリチョッキリ *Neocoenorrhinus assimilis* (Roelofs)
1 ♀,北川町上祝子, 3.V.1995 (同定: 三宅武)
- 1 2 6 ヒメコブオトシブミ *Phymatopoderus pavens* Voss
1 ex., 都城市美川町西岳中学校, 15.VII.2011
- 1 2 7 ヒメクロオトシブミ *Apoderus erythrogaster* Vollenhoven
1 ex.,小林市大王町, 13.V.2012 ; 3 exs.,同, 16.V.2012
- 1 2 8 アカクビナガオトシブミ *Centrocorynus nigricollis* (Roelofs)
1 ♀,都農町尾鈴山キャンプ場, 31.III.2007 本個体は、タテハモドキ46号で、ウスアカオトシブミとして報告したが、アカクビナガオトシブミの間違いでした。ここに訂正します。

ミツギリゾウムシ科 Brentidae

- 1 2 9 ミツギリゾウムシ *Baryrhynchus poweri* Roelofs 1 ♂,西諸県郡高原町皇子原, 20.VII.1980

ゾウムシ科 Curculionidae

- 1 3 0 クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus* (Roelofs) 1 ex.,北浦町三河内, 3.VIII.1991
- 1 3 1 クリシギゾウムシ *Curculio sikkimensis* (Heller) 1 ♂,北川町上祝子小岩屋, 17.IX.1993

ナガキクイムシ科 Platypodidae

- 1 3 2 ヤチダモノナガキクイムシ *Crossotarsus niponicus* Blandford
2 exs.,北川町大崩山, 18.VII.1985 ; 2 exs.,北川町大崩山, 24.VIII.1985 (同定: 三宅武)

キクイムシ科 Scolytidae

- 1 3 3 サクキクイムシ *Xylosandrus crassiusculus* (Motschulsky)
1 ex.,宮崎市下北方町池内, 15.V.2009,leg.S (同定: 三宅武)
- 1 3 4 ルイスザイノキクイムシ *Ambrosidmus lewisi* (Blandford)
1 ♀,北川町大崩山, 18.VII.1985 (同定: 三宅武)
- 1 3 5 トドマツオオキクイムシ *Euwallacea validus* (Eichhoff)
1 ex.,西都市三財, 22.VII.2008,leg.S ; 1 ex.,同, 23.V.2009,leg.S (同定: 三宅武)
- 1 3 6 ミカドキクイムシ *Scolytotplatypus mikado* Blandford
1 ♂,1 ♀,椎葉村松尾, 10.VIII.1992 ; 1 ♀,北川町上祝子小岩屋, 22.IV.1993 ; 1 ♂,同, 29.IV.1993 ;
1 ♀,同, 22.V.1993,leg.石本佳三 ; 1 ♂,同, 24.V.1993,leg.松本聡 ; 1 ♀,北川町上祝子水流,27.V.1993 ; 1 ♂,北川町上祝子小岩屋, 30.IV.1994,leg.黒木重吉 ; 1 ♂,同, 3.V.1994 ; 1 ♂,同, 4.V.1994 ; 1 ♂,同, 29.V.1994 ; 1 ♀,同, 7.V.1995

(きのだ たけし: 都城市高城町穂満坊350-3)

綾町等の甲虫の記録

笹岡康則・木野田 毅

筆者の一人である笹岡は、ここ数年継続して綾町大森岳を中心とする照葉樹林帯の甲虫を調査している。2013 年までは木野田も同行して調査を行った。今回は、笹岡が同定依頼をして分かった種と木野田が預かった標本で同定が終了したものを合わせて 7 6 種を報告する。

採集場所を綾町大森岳林道(4831-0146)は A 1、綾町大森岳林道(4831-0183)は A 2 と表示し、これ以外は具体的な地名を示した。A 1 地点は標高約 4 0 0 m、A 2 地点は標高約 8 0 0 m である。

採集者は全て笹岡である。標本は、そのほとんどを木野田が保管している。

同定にあたり、岸井尚氏、堤内雄二氏、生川展行氏、林靖彦氏、三宅武氏の 5 名の皆様に大変助けていただきました。感謝の意を大いにお伝えしたく、紙面を借りてここにお礼申し上げます。

ハンミョウ科 Cicindelidae

- 1 ニワハンミョウ *Cicindela japana* Motschulsky 1 ex., A 1, 25.IV. 2013

オサムシ科 Carabidae

- 2 ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus* Bates 1 ex., A 1, 2.VI.2011
 3 クビアカモリヒラタゴミムシ *Colpodes rubriolus* Bates 2 exs., 西都市三財寒川, 10.V.2007
 4 クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis* Habu
 1 ex., A 1, 10.VIII.2013
 5 フタホシアトキリゴミムシ *Lebia bifenestrata* Morawitz 1 ex., 西都市三財寒川, 20.V.2007

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

- 6 モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp) 1 ex., A 2, 18.VI.2013
 7 ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhantoides* Sharp 1 ♂, A 1, 18.VI.2013
 8 コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner, 1931
 1 ♀, A 2, 18.VI.2013

ガムシ科 Hydrophilidae

- 9 トゲバゴマフガムシ *Berosus lewisius* Sharp 1 ex., A 1, 5.IX.2013 (同定：生川展行)

チビシデムシ科 Catopidae

- 1 0 カバイロコチビシデムシ *Sciorepoides fumatus* (Spence)
 1 ex., A 1, 1.VI.2012 (同定：林靖彦)
 1 1 ホソムネコチビシデムシ *Mesocatops japonicus* (Jeannel)
 1 ex., A 1, 1.VI.2012 (同定：林靖彦)
 1 2 *Catops shibatai* Hayashi 1 ex., A 1, 6.VI.2012 (同定：林靖彦)

シデムシ科 Silphidae

- 13 クロシデムシ *Nicrophorus concolor* Kraatz, 1877 1 ex., A 1, 24.VI.2011
 14 ヨツボシモンシデムシ *Nicrophorus quadripunctatus* Kraatz
 4 exs., A 1, 21.V.2011; 1 ex., A 1, 4.VI.2011; 1 ex., A 1, 24.VI.2011
 15 コクロシデムシ *Ptomascopus morio* Kraatz 2 ♂ 2 ♀, A 1, 3.VII.2011
 16 オオモモブトシデムシ *Necrodes littoralis* Linnaeus 1 ♀, A 1, 29.VII.2011
 17 チョウセンベッコウヒラタシデムシ *Eusilpha bicolor imasakai* M.Nishikawa
 1 ex., A 1, 9.VIII.2011

ハネカクシ科 Staphylinidae

- 18 トビイロセスジハネカクシ *Anotylus vicinus* (Sharp)
 1 ex., A 1, 4.V.2013 (同定: 三宅武); 1 ex., A 1, 5.V.2013 (同定: 三宅武)
 19 コクロメダカハネカクシ *Stenus melanarius verecundus* Sharp
 1 ♀, A 1, 25.IV.2013 (同定: 三宅武); 1 ♂, A 1, 8.VII.2013 (同定: 三宅武)
 20 ネアカトガリハネカクシ *Medon lewisius* (Sharp) 1 ex., A 1, 13.V.2013 (同定: 三宅武)
 21 シャープキニコハネカクシ *Lordithon sharpianus* (Scheerpeltz)
 1 ex., A 1, 18.VI.2013 (同定: 三宅武)
 22 チャバネキニコハネカクシ *Bolitobius princeps* (Sharp)
 1 ex., A 1, 16.V.2013 (同定: 三宅武)

クワガタムシ科 Lucanidae

- 23 スジクワガタ *Dorcus striatipennis striatipennis* (Motschulsky, 1861)
 1 ♀, A 1, 12.VII.2013
 24 コクワガタ *Dorcus rectus rectus* (Motschulsky, 1857) 1 ♀, A 1, 18.VI.2013
 25 アカアシクワガタ *Dorcus rubrofemoratus* (Snellen van Vollenhoven, 1865)
 1 ♀, A 1, 3.VIII.2013
 26 ネブトクワガタ *Aegus laevicollis subnitidus* Waterhouse, 1873 1 ♀, A 2, 20.VI.2012, 羽化

コガネムシ科 Scarabaeidae

- 27 ナガチャコガネ *Heptophylla picea* Motschulsky, 1857 1 ♂, A 1, 10.VII.2011
 28 ミナミキュウシュウオオトラフコガネ *Paratrichius kyushuensis* Y.Miyake, 1990
 1 ♂, A 1, 3.V.2010 羽化
 29 コヒゲシマビロウドコガネ *Gastroserica brevicornis* (Lewis, 1895)
 1 ♀, 西都市前川林道, 12.VII.2009
 30 マルガタビロウドコガネ *Maladera secreta secreta* (Brenske, 1897) 1 ♂, A 1, 17.VII.2011

タマムシ科 Buprestidae

- 3 1 ツヤケシナガタマムシ *Agrilus nipponigena* Obenberger, 1935
1 ex., A 1, 25.VI.2014 (同定：堤内雄二)
- 3 2 ウグイスナガタマムシ *Agrilus tempestivus* Lewis, 1893
2 exs., 西都市前川林道, 5.VI.2010 ; 1 ex., A 1, 31.V.2014 (同定：堤内雄二)
- 3 3 ブドウナガタマムシ *Agrilus marginicollis* E.Saunders, 1873
1 ♂, A 1, 13.VI.2011 ; 1 ex., A 1, 16.VII.2011 (同定：堤内雄二)
- 3 4 ヤクシマナガタマムシ *Agrilus yakushimensis* Tôyama, 1985
1 ex., 綾町大森岳林道, 16.VII.2011 (同定：堤内雄二)
- 3 5 アオグロナガタマムシ *Agrilus viridiobscurus* E.Saunders
1 ♀, A 1, 31.V.2014 (同定：堤内雄二) ; 1 ♂, A 1, 24.VI.2014 (同定：堤内雄二)
- 3 6 ウエノナガタマムシ *Agrilus uenoi* Y.Kurosawa, 1963
1 ex., A 1, 28.VI.2014 (同定：堤内雄二)

コメツキムシ科 Elateridae

- 3 7 オオサビコメツキ *Lacon maeklinii maeklinii* (Candèze, 1865)
1 ex., A 1, 28.VI.2014 (同定：堤内雄二)
- 3 8 アカアシクロコメツキ *Ampedus japonicus japonicus* Silfverberg, 1977
1 ex., A 2, 18.VI.2013
- 3 9 オオナガコメツキ *Nipponoelater sieboldi sieboldi* (Candèze, 1873)
1 ♂, A 2, 18.VI.2013 ; 2 ♂, A 1, 7.VIII.2013
- 4 0 ヒラタクシコメツキ *Spheniscosomus koikei* (Kishii et Ohira, 1956) 2 exs., A 1, 15.V.2011
- 4 1 ヘリマメコメツキ *Yukoana elliptica* (Candèze, 1873)
1 ♀, 綾町大森岳林道(4831-0468), 25.IV.2013 (同定：岸井尚)

ホタル科 Lampyridae

- 4 2 オバボタル *Lucidina biplagiata* (Motschulsky) 1 ♂, A 1, 7.VIII.2013

カッコウムシ科 Cleridae

- 4 3 イガラシカッコウムシ *Falsotillus igarashii* (Kôno, 1930)
1 ex., A 1, 21.VII.2011 ; 1 ex., A 1, 22.VII.2011 ; 1 ex., A 1, 29.VII.2011 ; 1 ex., A 1, 31.VIII.2011
- 4 4 キオビナガカッコウムシ *Opilo carinatus* Lewis 1 ex., A 1, 9.VII.2011
- 4 5 ムナビロカッコウムシ *Clerus postmaculatus* Nakane, 1963 1 ex., A 1, 9.VII.2011
- 4 6 アリモドキカッコウムシ *Thanassimus lewisi* Jacobson 1 ex., A 1, 15.V.2011
- 4 7 クロフアシナガカッコウムシ *Omadius nigromaculatus* Lewis
2 exs., A 1, 23.VIII.2010 ; 1 ex., A 1, 27.VIII.2010 ; 1 ex., A 1, 1. IX.2010 ; 1 ex., A 1, 3.IX.2010 ;
1 ex., A 1, 27.V.2011 ; 1 ex., A 1, 9.VI.2011
- 4 8 クリイロカッコウムシ *Platytenorus castaneus* (Kôno)

- 1 ♀, A 1, 9.VII.2011 (同定: 三宅武); 1 ex., A 1, 11.VIII.2011 (宮崎県初記録)
 4 9 キムネツツカッコウムシ *Tenerus maculicollis* Lewis 1 ex., A 1, 11.VIII.2011 (ab.higonus)

コメツキモドキ科 Languriidae

- 5 0 ルイスコメツキモドキ *Languriomorpha lewisi* (Crotch)
 4 exs., A 1, 23.X.2009; 2 exs., 西都市掃部岳, 12.XII.2009

オオキノコムシ科 Erotylidae

- 5 1 シリグロオオキノコ *Dactylotritoma atricapilla* (Lewis) 1 ex., A 1, 11.VIII.2011
 5 2 ベニモンムネビロオオキノコ *Microsternus perforates* (Lewis)
 1 ex., A 1, 23.VI.2011; 1 ex., A 1, 12.VIII.2011; 1 ex., A 1, 18.VI.2013
 5 3 ヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunei* Crotch
 1 ex., A 1, 24.VI.2011; 1 ex., A 1, 27.VI.2011; 1 ex., A 1, 9.VII.2011; 1 ex., A 1, 23.VII.2011;
 1 ex., A 1, 11.VIII.2011; 1 ex., A 1, 5.VII.2013
 ヒメオビはミヤマに比べ、複眼が頭の一部で被われることなく、くっきりと見えることで、
 区別は容易である。
 5 4 ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami* Lewis 2 exs., A 1, 10.VII.2011

コブゴミムシダマシ科 Zopheridae

- 5 5 ダルマチビホソカタムシ *Pseudotarthrius lewisii* Wollaston, 1873
 1 ex., A 1, 12.V.2012 (同定: 生川展行)

ナガクチキムシ科 Melandryidae

- 5 6 フタオビホソナガクチキ *Dircaea erotyloides* Lewis, 1895
 1 ♀, A 1, 7.VII.2011; 1 ♀, A 1, 22.VII.2011; 1 ♂ 1 ♀, A 1, 31.VIII.2011; 1 ♀, A 1, 16.VII.2013
 5 7 クロホソナガクチキ *Phloeotrya rugicollis* Marseul
 1 ex., A 1, 30.VII.2011; 1 ex., A 1, 20.VIII.2011; 1 ♀, A 1, 5.VII.2013
 5 8 アオバナナガクチキ *Melandrya gloriosa* Lewis, 1895 1 ex., A 1, 26.V.2013

ホソカミキリムシ科 Disteniidae

- 5 9 ホソカミキリ *Dsitenia gracilis gracilis* (Blessig, 1872) 1 ♀, A 1, 9.VIII.2013

カミキリムシ科 Cerambycidae

- 6 0 キュウシュウイヨヒメハナカミキリ *Pidonia hylophila affinis* Kuboki, 1982
 1 ♂, 西都市三財寒川, 9.V.2008; 1 ♀, 西都市前川林道, 18.IV.2009; 1 ♂ 1 ♀, A 1, 24.VI.2011
 1 ♀, 西都市前川林道の1頭は、タテハモドキ45号でニセヨコモンヒメハナカミキリとして
 報告したが、キュウシュウイヨヒメハナカミキリの間違いでした。ここに訂正します。
 6 1 タテジマホソハナカミキリ *Parastrangalis shikokensis* (Matsushita, 1935)

1 ex., A 1, 29.IV.2013

6 2 ニンフホソハナカミキリ *Parastrangalis nymphula* (Bates, 1884)

3 exs., A 1, 29.IV.2013

6 3 リョウブモモトヒメコバネカミキリ *Epania shikokensis shikokensis* Ohbayashi, 1936

1 ♀, A 1, 25.VIII.2010

6 4 トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis* Bates, 1884 1 ex., A 1, 29.IV.2013

6 5 ガロアケシカミキリ *Exocentrus galloisi* Matsushita, 1933

1 ex., A 2, 22.VI.2013 ; 2 exs., A 1, 5.VII.2013

ハムシ科 Chrysomelidae

6 6 セモンジンガサハムシ *Cassida versicolor* (Boheman) 1 ex., A 1, 4.VI.2011

オトシブミ科 Attelabidae

6 7 キアシホソチョッキリ *Eugnamptus flavipes* Sharp 1 ex., A 1, 14.VI.2011 (同定：三宅武)

6 8 コナライクビチョッキリ *Deporaus unicolor* (Roelofs)

1 ex., A 1, 4.V.2011 (同定：三宅武)

6 9 ウスモンオトシブミ *Apoderus balteatus* Roelofs 1 ex., A 1, 23.VIII.2010

7 0 アカクビナガオトシブミ *Centrocorynus nigricollis* (Roelofs)

1 ♂, A 1, 4.V.2011 ; 1 ♀, A 1, 29.IV.2013

7 1 リュイスアシナガオトシブミ *Ambrosidmus lewisi* (Blandford)

1 ex., 西都市前川林道, 2.V.2010

ゾウムシ科 Curculionidae

7 2 イヌビロシギゾウムシ *Curculio funebris* (Roelofs) 1 ex., 西都市前川林道, 18.IV.2009

ナガキクイムシ科 Platypodidae

7 3 マルオナガキクイムシ *Crossotarsus emancipates* Maruyama

1 ♂, A 1, 22.VIII.2010 ; 1 ♀, A 1, 23.VIII.2010 ; 2 ♀, A 1, 27.VIII.2010 ; 1 ♂ 1 ♀, A 1, 29.VIII.2010 ; 1 ♀, A 1, 18.IX.2010

キクイムシ科 Scolytidae

7 4 サクキクイムシ *Xylosandrus crassiusculus* (Motschulsky) 1 ex., A 1, 29.VIII.2010

7 5 ルイスザイノキクイムシ *Xyleborus lewisi* Blandford

1 ♀, A 1, 25.VIII.2010 ; 1 ♀, A 1, 22.VII.2011

7 6 ミカドキクイムシ *Scolytotlatypus mikado* Blandford

2 ♀, A 1, 11.VIII.2010 ; 1 ♀, A 1, 23.VIII.2010 ; 1 ♂, A 1, 25.VIII.2010 ; 1 ♂, A 1, 29.VIII.2010

(ささおか やすのり：宮崎市島之内 9 4 8 1)

(きのだ たけし：都城市高城町穂満坊 3 5 0 - 3)

宮崎県で採集した甲虫の記録

溝部 忠志

筆者が宮崎県で採集した、記録が少ないと思われる甲虫三種を報告する。

1. ナガスジヒゲコメツキダマシ *Proxyllobius longicornis*

1ex., 東臼杵郡諸塚村黒仁田山山頂付近, 29.VII.2012, 筆者採集 (写真1)

シデの一種をスィーピングして採集した。本種は畑山武一郎氏に識別していただいた。

2. ヒメクチキムシダマシ *Elacatis ocularis*

1ex., 小林市浜ノ瀬, 4.VII.2009, 筆者採集 (写真2)

ハルニレの倒木を見ているときに、服にとまった個体を採集したが、本種がハルニレにとまっていたのかどうかは、観察できていない。本種は大分昆虫同好会の堤内雄二氏に識別していただいた。

3. ヤチダモノクロクイムシ *Hylesinus nobilis*

1ex., 小林市浜ノ瀬, 4.VII.2009, 筆者採集 (写真3)

シカ害予防ネットにとまっていた個体を採集した。本種は大分昆虫同好会会長三宅武氏に識別していただいた。末筆ながら、識別していただいた畑山武一郎氏、大分昆虫同好会会長三宅武氏、大分昆虫同好会の堤内雄二氏に感謝申し上げます。



(写真1)



(写真2)



(写真3)

【参考文献】

宮崎県高等学校教育研究会理科・生物学会「宮崎県の生物」編集委員会, 1992. 宮崎県の生物. iv + 378 pp. [10 pp. 口絵]. 鈺脈社, 宮崎.

(みぞべ ただし: 814-0174 福岡市早良区田隈 3-39-11)

延岡市のチョウデータベース（そこから見えるチョウの変遷）

安本 潤一

今から 15 年程前、宮崎県延岡市は環境基本計画を作成しようとしていた。基本計画策定にあたっては、環境の基本的なデータをまとめることが必要だった。当時、本市は水質等の環境データは蓄積していたが、動植物の自然環境関係のデータは、それぞれの愛好会や専門家が収集、公表をしている状況で、それらを統括的にまとめたものはなかった。

当時、筆者は環境部門の部署にいて、調査の総括とチョウ類の分野を担当することとなった。この報告書は、地形・地質に始まり、植物では植物相、植物群落、動物では哺乳類、鳥類、爬虫・両生類、魚類（淡水魚）、昆虫（トンボ類、蛾類、チョウ類、甲虫類）の分野で 2000 年に「延岡市環境基本計画自然環境調査報告書（以下「延岡市環境基本計画」と略す）として発刊された。その後、2001 年にはサンゴ及びアカウミガメを加えて自然環境補足調査報告書及びデータ集、2011 年には合併した北方町、北浦町、北川町を区域に含めた第 2 次自然環境調査報告書の発刊が続いた。これらは、コンサルタント会社に委託する方法でなく、地元の専門家に調査を依頼し、それらをまとめたいわば「手作り」の報告書であった。昆虫部門では、朝日 延太郎さん、故 山口袈光さん、宮原 義雄さん、怒和 貞賞さん、矢野 直勝さん、小松 孝寛さん、山本 久男さん、中野 淳さん、岩崎 郁雄さん、福山 暢哉さん、木野田 毅さん、柳田 恒一郎さんを始め多くの宮崎昆虫同好会の皆様（元会員含む）に参加していただくと共に多くの方々にご協力をいただいた。皆様に感謝申し上げる。

今回は、その中でチョウデータベースを中心として、そこから見えるチョウの変遷について振り返ってみた。

また、このデータベースと本文の自然環境調査報告書は延岡市のホームページで見ることができる。このデータベースは、本市の 2010 年 10 月頃までの採集や目撃等の日時、場所、数、記録者等が入った生データで構成されている。また無料で閲覧でき、出典さえ明記しておけば自由に使える。（一部乱獲等が憂慮されるデータについては詳細が非公表になっている場合がある。）容量が大きいので、ダウンロードするのにちょっと時間がかかるのが欠点だがかなり便利なものである。おそらくこういうデータベースの公表をしているところはあまりないであろう。チョウだけでなく、報告書にある他の分野も見ることができる。ホームページの入りは文末に記述する。

1. どうやってまとめよう

いろいろな分野のうち、チョウが最も調査が多く行われており、データ数も多くあり恵まれていた。一方で、数が多すぎて苦戦することも多々あった。そのデータは地元同好会誌を中心に個人、学校さらには全国紙、国土交通省等の国のデータまで幅広く発表されていた。そこで、まずは手に入る公表されている文献データ、個人が所有している未発表データなどあらゆるものを集めてみた。それに今回現地で新たに調査したデータを加え、データベースを作成した。

この時、ベースになったのは、前会長の永井 庵さんが中心になって 1963～1964 年に県立延

岡高校でまとめられた「宮崎県北部の蝶 分布資料Ⅰ及びⅡ」である。これはガリ版刷りの資料で、延岡高校の学生さんが中心となって活動した成果を示すと共に、延岡市立岡富中学校、門川町立門川中学校、北方村立北方中学校等の近隣の学校所蔵の標本等も検証されており、大きなエネルギーが投入されているのが見て取れる。なんといっても凄かったのは、生の採集データがそのまま掲載されていたことである。これがなかったら、この仕事はできなかったであろう。これで、1960年代前半までの基礎ができ、その後は「タテハモドキ」と「宮崎の蝶」の2つの同好会誌を中心にデータを集め、あとは力仕事でデータ入力となった。

2. データ数

そうやって集めたデータは、2011年の第2次自然環境調査報告書をまとめる直前には、16,745例となった。これを年代別に見ると以下ようになる。古くは戦前1930年代の5例から始まり、調査が本格化した1990年代及び2000年以降は多かった。（記録されたデータは、複数個体記録されても1例として数えた。以下同様）

～1950年代（1930年代が5、1950～1959年迄が216）	221
1960年代（1960～1969年）	1,776
1970年代（1970～1979年）	986
1980年代（1980～1989年）	1,442
1990年代（1990～1999年）	6,758
2000年代（2000～2009年）	5,365
2010年	195
年代不明	2
合計	16,745

3. 延岡市のチョウ相

3-1. 確認された種

本市チョウ類は、現時点で在来種98種、偶産種13種の111種が記録されている。これは、3北（北方町、北浦町、北川町）を合併する前と比べて、在来種で7種追加された結果である。その7種はキバネセセリ、ウラクロシジミ、オオミドリシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、ヒメキマダラヒカゲ、キマダラモドキ、ヤマキマダラヒカゲである。筆者は、旧延岡市の松山林道にて飛翔中のヤマキマダラヒカゲを採り逃がした経験があり、飛び方から本種であると考えているが標本がないのでこの記録は削除した。残念。

集めた記録の中には、目撃記録のみのもの（6種）あったが、今回は確認種に含めず参考記録とした。中にはツマベニチョウ目撃記録のように他種と見誤る可能性が低いものもあるが除外した。また、タイワンツバメシジミ等一部の記録は、門川町のものも入れているが、門川町で記録された偶産種ナミエシロチョウについては確認種に入れていない。

3-2. 稀なチョウ（在来種）

○記録が1回しかない種

① ～⑤の5種である。1頭だけの記録もあるが、複数個体もある。

①キバネセセリ

1965年7月26日、前会長の永井 庵さんによる延岡市北川町大崩山（以下 延岡市を省略）での記録。一度に5♂採集で、溪谷沿いの花に訪花していたとのことである。県北部では珍品の本種を5♂とは凄い。

②スジグロチャバネセセリ

1988年6月16日、児玉 重信さんによる北方町霧子山での記録。2♀3♂を採集し、同一日にヘリグロチャバネセセリも採集されている。筆者は、2000年6月25日に同地を調査したが、環境が当時と変わっているためか（草原がなくなっている？）未発見であった。宮崎県下では本種の方がヘリグロチャバネセセリより分布域が広いところから、まだどこかに生息している可能性もある。

③ヒサマツミドリシジミ

1984年1月7日、児玉 重信さんによる延岡市桧山林道におけるウラジロガシからの採卵記録。この記録はキシマミドリシジミの採卵中に偶然採卵されたという。当地には、ウラジロガシやイチイガシも残っているので調査する必要があるかもしれない。

④オオウラギンスジヒョウモン

1972年6月24日、怒和 貞賞さんによる北川町上祝子林道における1♂。西臼杵郡や熊本県ではそれほど珍しくない本種も本市では珍品だ。

⑤キマダラモドキ

1965年7月8日、故 俵 慧さんによる北方町上鹿川における1♂の記録。高千穂町の熊本県に近い場所ではよく見られる本種も本市では珍品中の珍品である。

○記録が10回以下の種

⑥ヘリグロチャバネセセリ

もっとも古い記録が、1959年7月3日、永井さんによる行簾山の1頭で、その後、児玉さんにより霧子山で1981年に2♀1♂、1988年に3♀7♂が、高平山で1981年に1♀1♂が得られている。筆者は、2011及び2012年に高平山の調査を行った際、何回か調査したが未発見であった。霧子山についても、スジグロチャバネセセリと共に2000年に1回だけではあるが調査したが見つからなかった。

⑦クロシジミ

1959年7月3日、永井さんによる行簾山の1♀2♂が旧市内唯一の記録で、その後1981年6～7月に北浦町古江飯塚山において朝日さんにより計7♀3♂が採集されている。この当時は、行簾山には草原の環境が見られたという。また、古江にも茅場のような人為的な草原があったという。本種や前述のヘリグロチャバネセセリ、後述のオオウラギンヒョウモン等は草原への嗜好も強く、このような環境に依存していた可能性が高い。クロシジミは、その後30年以上も記録がなく本市では絶滅したと思われる。

⑧シータテハ

1964年6月4日に永井さんが北川町上祝子で2♂採集された記録がもっとも古い。その後、

1986年には旧市内の桑平町において児玉さんらにより幼虫や蛹が採集された。筆者は2008及び2010年に北川町上祝子で越冬個体を目撃しているほか、2013年には北川町替崎にて幼虫を採集している（未発表）。ここに挙げられた「稀なチョウ」の中では、祝子川の上流域や北川の中～上流域に比較的安定して生息していると思われる。

⑨ オオウラギンヒョウモン

本市では合計して10頭（3♀5♂と性別不明2頭）の記録がある。もっとも古い記録は、1958年6月の北方町速日峰における故 俵さんによる2♂、旧市内では1961年6月の永井さんによる行藤山の1♂である。また、もっとも新しい記録は、1980年7月の故 山口さんによる延岡市愛宕山の記録でその後30年以上記録がない。延岡市の場合は、1960年代以前には大淀川などに本種が多産していた宮崎市等とは異なり、もともとかなり稀な種であったように思われる。近年記録もなく、絶滅したと思われる。

3-3. 減っているチョウ

第2次自然環境調査報告書では、本市のチョウの増減について解析したが、その内、いくつかの主な種について紹介する。

① ヒョウモンチョウ類

この仲間は、唯一多化性のツマグロヒョウモンを除いては減少傾向が見られる。記録が1例しかないオオウラギンスジヒョウモンは別にしても、オオウラギンヒョウモンは絶滅したと考えられる。クモガタヒョウモンは、2000年代に入って1♂（2009年9月5日 北浦町歌糸 筆者採集）のみの記録である。

草原性でもともと生息域が狭く数の少ないウラギンスジヒョウモンは、高平山と鏡山が確実な産地であったが、前者では2012年のルートセンサス調査にも引っかかりず、鏡山近郊では2000年の北浦町森山林道での記録が最後となっている。近年放牧が行われなくなり草刈りが行われていない高平山と公園化して頻繁に草刈りが行われている鏡山のどちらとも少し危ない感じがするのである。

もう1種の草原性ヒョウモンのウラギンヒョウモンは、北方町等の内陸部の比較的高標高地（上鹿川等）では特に珍しくはないが、低地ではほとんど見られなくなった。

本市ではツマグロヒョウモンを除いて、もっとも数の多いメスグロヒョウモンとミドリヒョウモンは少ないながら低地でも見ることができる。近年は後者より前者の方が多く感じますが、いずれにしても減少傾向が見られ、今後注目していく必要がある。

② タイワンツバメシジミ

本種は、宮崎県内でも近年大きく減少しており、本市においても同様である。1980年代前半までは、旧市内各地や北方町各所に記録が見られたが、1990年代には多産地である門川町遠見山で激減し、現在は北浦町や熊野江町の一部に少数見られるのみとなった。

③ ウラナミジャノメ、ツマグロキチョウ

この2種は、本市では河川敷や里地に主に生息し、特に2000年以降の減少が著しい。里地の荒廃や河川敷での過度な草刈りの影響が心配される。特にウラナミジャノメではかつての河川

敷内産地の多くでは、その姿を見ることができない。

④ コムラサキ

ヤナギ類を中心とした河畔林を主な生息場としており、宮崎県 RDB 改訂版（2010 年度版）では準絶滅危惧種から絶滅危惧Ⅱ類に引き上げられた。本市でも、台風等における河畔林の荒廃やその防災工事に伴う影響で減少傾向が見られていたが、最近は河畔林が復活してきたところから、以前より状況が良くなっているように感じる。しかしながら、中小河川では開発や河川整備等により河畔林の衰退が目につく。今後もモニタリングを続けていきたい。

3-4. 多いチョウ・増えているチョウ

○本市で多いチョウ

本市で記録の多いチョウベスト3は、順にツマグロヒョウモン、キタキチョウ、ヤマトシジミである。この後は、アゲハ、モンシロチョウ、ヒメウラナミジャノメが続く。いずれも、分布が広く多化性で都市化にも強い。続いてアオスジアゲハ、モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、スジグロシロチョウが多く、以上が本市普通種ベストテンとなる。

○本市で増加しているチョウ

1990 年を境にそれ以降増えている種として、チャバネセセリ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハ、ヤクシマルリシジミ、ヒメウラナミジャノメがあげられ、以上がベスト5である。その後、イチモンジセセリ、キタキチョウ、ベニシジミ、テングチョウ、モンキアゲハが続いてベストテンである。2000 年以降では、テングチョウ、イチモンジセセリ、ヒメウラナミジャノメ、キタキチョウの増加が著しいことが注目される。

3-5. 本市に侵入してきたチョウ・各地で北上を続けるチョウ

① タテハモドキ

本種はもともと九州本土には土着していなかったが、1958 年に大隅半島で大発生した後、本県には 1960 年に日南海岸、1963～1964 年に宮崎市、1965 年に日向市に北上し、本市では 1973 年に初めて記録された。その後、市内各地に分布を拡大すると共に 1990 年代頃まで個体数を増加させたが、2000 年以降は 1990 年代に比べ減少しているようである。

② ヤクシマルリシジミ

本種は 1960 年代に宮崎県南部から宮崎市にかけて分布を拡大していたが、本市では 1979 年に初めて記録された。その後 1980 年代前半までは記録も多くなく、1989 年頃から急速に分布の拡大、個体数の増加が見られた。2000 年以降は 1990 年代と比べその増加スピードは鈍ったものの、市内で普通に見られる種となった。

③ ツマグロヒョウモン・ナガサキアゲハ・サツマシジミ等

これら 3 種のチョウは、全国的に北上傾向が見られる。本市においては、1990 年代まではそれ以前と比べて増加傾向を示していたが、2000 年以降はやや減少傾向が見られる。

イシガケチョウも北上傾向が見られる種であるが、本市においては大きな増加傾向は見られない。

3-6. その他ちょっと気になるチョウ、地味な凄い記録

① ヤマトスジグロシロチョウ

かつてエゾスジグロシロチョウとして扱われていた本種は、高千穂町では多産する産地もあるが、本市では、高平山、愛宕山、霧子山など限られた産地で少数記録されているに過ぎなかった。しかしながら、2000年以降祝子町や天下町（未発表）などの市街地に近い場所でも記録され気になっている。手元のデータを元に追加調査を行い、近いうちにまとめたいと考えている。

② サカハチチョウ

昔の記録に凄いものがある。旧市内の山月町（1963年4月5日1頭）と村上 勝さんによる緑が丘（1979年7月1日1♂）の採集記録である。山月町は岡富山が近くなので可能性があるかもしれないが、緑が丘は標高20m以下で山もない。きっともう採れないであろう。

③ ジャノメチョウ

本種は旧市内では、熊野江町（鏡山南東側）が比較的安定した生息地（筆者も2014年確認、未発表）であるほか、行藤町で目撃記録がある珍しい種である。このような中、1961年6月には市街地の古城町で1頭の採集記録がある。たぶん愛宕山付近と思われるが、もう出そうもない記録である。

3-7. 偶産種

本市には土着していないが、迷チョウとして記録された種は目撃記録のみの種を除いて13種を確認している。

○稀に記録される偶産種

カワカミシロチョウ（1995年5月6日1♀上伊形町）、ウスコモンマダラ（1998年5月8日1♀差木野町）、シロウラナミシジミ（1986年9月27日1♂愛宕山）の3種は過去に1度しか記録のない非常に稀に飛来する迷チョウである。

スジグロカバマダラは、市で公表されている第2次自然環境調査報告書には1例（1990年10月1日1♀三須町）しか記録がないが、その後、福岡県の西田 圭志さんによって複数記録されていて、現地で2次発生が行われているようだとのことであつた。（西田さんからは標本も頂いている。）

ヤエヤマムラサキは4例（4頭）の記録があるが、全て1984年6～9月に市内数ヶ所（上伊形町、愛宕山、赤水町）で、故 山口 袈光さんにより採集されている。上記のカワカミシロチョウ、シロウラナミシジミ、門川町のナミエシロチョウ（1995年7月8日門川町庵川牧山1♂）も山口さんの採集であり、彼はこの他にも多数の迷チョウを採集している迷チョウハンターであつた。また、これらの種は、スジグロカバマダラを除き、本市での2次発生はしていないと思われる。

ルリウラナミシジミは、2009年に初めて記録され、本市でもクズで2次発生したと思われ12例の記録があつたが、その後現在（2014年10月）まで確認されていない。

○比較的記録の多くある偶産種

ウスイロコノマチョウ (38 例)、メスアカムラサキ (28 例+ 1 ♂報告書発刊後)、リュウキ
ユウムラサキ (14 例)、アオタテハモドキ (11 例) はよく記録される偶産種である。アオタテ
ハモドキは 1999 年を最後に姿を見せていない。

○近年記録が増加している偶産種

カバマダラ (39 例+4 例報告書発刊後)、クロマダラソテツシジミ (51 例+3 例報告書発刊
後未発表含む)、ウスキシロチョウ (10 例+3 例報告書発刊後) の飛来が近年増えている。

カバマダラは 2000 年に入ってから記録が多く、2008～2010 年までは毎年記録されたが、それ
以後は 2013 年に成虫 (平原町 柳田さん) と卵 (野田町 筆者) が確認された。

クロマダラソテツシジミは 2008 年に本市で初めて確認され、それ以後もよく現れ 2 次発生も
確認されている。2014 年も本市北浦町 (川野 雅喜さん確認) 及び新浜町 (筆者採集) に飛来
している。

ウスキシロチョウも 2000 年以後記録が多いが、本市には食樹がないので 2 次発生はできない。
毎年 7 月中～下旬頃よく記録される。

4. データのアクセス方法

①延岡市 (延岡市役所) のホームページから入れる。

②「自然環境調査データ」で検索するとデータベースへ

「自然環境調査報告書」で検索すると報告書本文へ行く。

④ の方法として

くらしの情報>環境保全>2011 年 12 月 6 日 自然環境調査データ、自然環境調査報告書 又
は 組織別>市民環境部>生活環境課>011 年 12 月 6 日 自然環境調査データ、自然環境調査
報告書

【参考文献】

延岡市(2000) 延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書

延岡市(2000) 延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書データ集

延岡市(2001) 延岡市環境基本計画 自然環境補足調査報告書及びデータ集

延岡市(2011) 第 2 次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書及びデータ集

宮崎県総合博物館 (1993) 宮崎一チョウの世界

(やすもと じゅんいち：延岡市野田町 5125-1)

表 延岡市におけるチョウのリスト (在来種98種、偶産種13種 計111種 但し目撃のみの種6種、門川町で記録された1種を含まない。)

和名	学名	宮崎県RDB	国RDB	記録がある年代			
				～'69年	'70～'79年	'80～'89年	'90～'99年 2000年～
セセリチョウ科 15種							
ミヤマセセリ	<i>Erynnis montanus</i> (Bremer)	NT-g		●	●	●	●
ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i> (Menetries)			●	●	●	●
アオバセセリ	<i>Choaspes beniaminii</i> (Guerin-Meneville)			●	●	●	●
キバネセセリ	<i>Burara aquilina</i> (Speyer)	VU-r				●	
コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i> (Murray)			●	●	●	●
ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i> (C.&R. Felder)			●	●	●	●
スジグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus leoninus</i> (Butler)	NT-r	NT				
ヘリグロチャバネセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus</i> (Bremer)	NT-r		●	●	●	●
ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i> (Bremer)			●	●	●	●
キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i> (Murray)			●	●	●	●
クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia</i> (C.&R. Felder)			●	●	●	●
オオチャバネセセリ	<i>Polytremis pellucida</i> (Murray)			●	●	●	●
ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i> (Butler)	NT-g		●	●	●	●
チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i> (Fabricius)			●	●	●	●
イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i> (Bremer&Grey)			●	●	●	●
アゲハチョウ科 11種							
ジャコウアゲハ	<i>Byasa alcinous</i> (Klug)			●	●	●	●
アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
ミカドアゲハ	<i>Graphium doson</i> (C.&R. Felder)	OT-1		●	●	●	●
アゲハ(ナミアゲハ)	<i>Papilio xuthus</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
キアゲハ	<i>Papilio machaon</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
モンキアゲハ	<i>Papilio helenus</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
クロアゲハ	<i>Papilio protenor</i> (Cramer)			●	●	●	●
オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i> (Janson)	NT-g		●	●	●	●
ナガサキアゲハ	<i>Papilio memnon</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
カラスアゲハ	<i>Papilio bianor</i> (Cramer)			●	●	●	●
ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i> (Menetries)			●	●	●	●
シロチョウ科 7種							
モンキチョウ	<i>Colias erate</i> (Esper)			●	●	●	●
キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i> (de l'Orza)			●	●	●	●
ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i> (Boisduval)		VU	●	●	●	●
ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i> (Butler)			●	●	●	●
モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i> (Menetries)			●	●	●	●
ヤマトスジグロシロチョウ	<i>Pieris nesis</i> (Fruhstorfer)	NT-r		●	●	●	●

和名	学名	宮崎県RDB	国RDB	記録がある年代			
				～'69年	'70～'79年	'80～'89年	'90～'99年 2000年～
シジミチョウ科 28種							
ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i> (Murray)			●	●	●	●
ムラサキシジバメ	<i>Narathura bazalus</i> (Hewitson)			●	●	●	●
ウラキシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i> (Butler)	NT-g		●	●	●	●
アカシジミ	<i>Japonica lutea</i> (Hewitson)	改訂で削除(前NT-g)		●	●	●	●
ミスイロオナガシジミ	<i>Antigius attila</i> (Bremer)	改訂で削除(前NT-g)		●	●	●	●
ウラクロシジミ	<i>Iratsume orsedice</i> (Butler)	NT-r			●	●	●
アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brilliantus</i> (Staudinger)	NT-g			●	●	●
メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus</i> (Bremer)	NT-g		●	●	●	●
ヒサマツミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i> (Nagami&Ishiga)	VU-r			●	●	●
キリシマミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus ataxus</i> (Westwood)	NT-g		●	●	●	●
エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i> (Matsumura)	NT-g		●	●	●	●
オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i> (Murray)	NT-g		●	●	●	●
フジミドリシジミ	<i>Sibataniazephyrus fujisanus</i> (Matsumura)	NT-g			●	●	●
カラスシジミ	<i>Strymonidia w-album</i> (Knoch)	NT-g			●	●	●
コソババメ	<i>Callophrys ferrea</i> (Butler)	NT-g		●	●	●	●
トラフシジミ	<i>Rapala arata</i> (Bremer)	NT-g		●	●	●	●
ゴイシシジミ	<i>Taraka hamada</i> (H. Druce)	NT-g		●	●	●	●
ベニシジミ	<i>Lycæna phlaeas</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i> (Bremer & Grey)	EN-r	CR+EN	●	●	●	●
ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha</i> (Kollar)			●	●	●	●
ヤクシマルリシジミ	<i>Gelastrina puspa</i> (Horsfield)			●	●	●	●
サツマシジミ	<i>Celastrina albocaululea</i> (Moore)			●	●	●	●
ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i> (Linnaeus)			●	●	●	●
スギタニルリシジミ	<i>Celastrina sugitanii</i> (Matsumura)	NT-g			●	●	●
ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i> (Pallas)			●	●	●	●
タイワンツバメシジミ	<i>Everes lacturnus</i> (Godart)	EN-g	CR+EN	●	●	●	●
ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta</i> (Moore)			●	●	●	●
テングチョウ科 1種							
テングチョウ	<i>Libythea celtis</i> (Laicharting)			●	●	●	●
マダラチョウ科 1種							
アサギマダラ	<i>Parantica sita</i> (Kollar)			●	●	●	●

和名	学名	宮崎県RDB	国RDB	記録がある年代					
				～'69年	'70～'79年	'80～'89年	'90～'99年	2000年～	
タテハチヨウ科 24種									
ウラギンシジビヨウモン	<i>Argyrogonome laodice</i> (Pallas)	EN-g	NT	●	●	●	●	●	●
オオウラギンシジビヨウモン	<i>Argyrogonome ruslana</i> (Motschulsky)	NT-g			●				
メスグロビヨウモン	<i>Damora sagana</i> (Doubleday)			●	●	●	●	●	●
クモガタビヨウモン	<i>Nephargyninis anadyomene</i> (C. & R. Felder)	NT-g			●	●	●	●	●
ミドリビヨウモン	<i>Argynnis paphia</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
ウラギンビヨウモン	<i>Fabriciana adippe</i> (Denis & Schiffmuller)	サトウラギンビヨウモン EN-g、ヤマウラギン ビヨウモンNT-g		●	●	●	●	●	●
オオウラギンシビヨウモン	<i>Fabriciana nerippe</i> (C. & R. Felder)	EN-g	CR+E	●	●	●	●	●	●
ツマグロビヨウモン	<i>Argyreus hyperbius</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
イチモンジチヨウ	<i>Ladoga camilla</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
コムスジ	<i>Neptis sappho</i> (Pallas)			●	●	●	●	●	●
ミスジチヨウ	<i>Neptis phillyra</i> (Menetries)	VU-r		●	●	●	●	●	●
サカハチチヨウ	<i>Araschnia burejana</i> (<i>Bremer</i>)			●	●	●	●	●	●
キタテハ	<i>Polygonia c-aureum</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
シータテハ	<i>Polygonia c-album</i> (Linnaeus)	NT-g		●	●	●	●	●	●
ヒオドシチヨウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i> (Denis & Schiffermuller)	NT-g		●	●	●	●	●	●
ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
アカタテハ	<i>Vanessa indica</i> (Herbst)			●	●	●	●	●	●
ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
タテハモドキ	<i>Junonia almana</i> (Linnaeus)			●	●	●	●	●	●
スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus</i> (Doyere)			●	●	●	●	●	●
インガケチヨウ	<i>Cyrestis thyodamas</i> (Boisduval)			●	●	●	●	●	●
コムラサキ	<i>Apatura metis</i> (Freyer)	VU-g		●	●	●	●	●	●
ゴマダラチヨウ	<i>Hestina japonica</i> (C. & R. Felder)			●	●	●	●	●	●
オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i> (Hewitson)	NT-g	NT	●	●	●	●	●	●
ジャノメチヨウ科 11種									
ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i> (Butler)			●	●	●	●	●	●
ウラナミジャノメ	<i>Ypthima motschulskyi</i> (Butler & Grey)	NT-g	VU	●	●	●	●	●	●
ジャノメチヨウ	<i>Minois dryas</i> (Scopoli)	NT-g		●	●	●	●	●	●
クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i> (Butler)			●	●	●	●	●	●
ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i> (Butler)	NT-r		●	●	●	●	●	●
キマダラモドキ	<i>kirinia fentoni</i> (Butler)	NT-r	NT	●	●	●	●	●	●
サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i> (Menetries)			*1	●	●	●	●	●
ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope niponica</i> (Butler)			*1	●	●	●	●	●
ヒメジャノメ	<i>Mycalesis gotama</i> (Moore)			●	●	●	●	●	●
コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i> (Stoll)			●	●	●	●	●	●
クロノマチヨウ	<i>Melanitis phedima</i> (Cramer)			●	●	●	●	●	●

*1 キマダラヒカゲとしてあり

〈偶産種〉

13種(但し、目撃のみの種6種、門川町で記録された1種を含まない。)

和名	学名	備考	記録がある年代			
			～'69年	'70～'79年	'80～'89年	'90～'99年 2000年～
セセリチョウ科						
☆コウトウシロシタセセリ	<i>Tagiades trebellius</i> (Hopffer)	目撃記録のみ			▲	
アゲハチョウ科						
☆シロオビアゲハ	<i>Papilio polytes</i> (Linnaeus)	目撃記録のみ			▲	
シロチョウ科						
ウスキシロチョウ	<i>Catopsilia pomona</i> (Fabricius)		●		●	●
☆ウラナミシロチョウ	<i>Catopsilia pyranthe</i> (Linnaeus)	目撃記録のみ			▲	▲
☆ツマベニチョウ	<i>Hebomoia glaucippe</i> (Linnaeus)	目撃記録のみ、県RDB: Vu-r			▲	
★ナミエシロチョウ	<i>Appias paulina</i> (Cramer)	門川町で1羽が採集(参考記録)				●
カワカミシロチョウ	<i>Appias albina</i> (Boisduval)					●
マダラチョウ科						
ウスコモモンダラ	<i>Tirumala limniace</i> (Cramer)					●
カバマダラ	<i>Anosia chrysippus</i> (Linnaeus)				●	●
スジガロカバマダラ	<i>Salatura genutia</i> (Cramer)					●
☆オオゴマダラ	<i>Idea leuconoe</i> (Erichson)	目撃記録のみ				▲
ジミチョウ科						
ルリウラナミジミ	<i>Jamides bochus</i> (Stoll)					●
シロウラナミジミ	<i>Jamides alecto</i> (C. Felder)				●	
クロマダラソテジミ	<i>Chilades pandava</i> (Horsfield)					●
タテハチョウ科						
☆ヤエヤマイチモンジ	<i>Athyma selenophora</i> (Kollar)	目撃記録のみ				▲
アオタテハモドキ	<i>Junonia orithya</i> (Linnaeus)			●	●	●
メスアカムラサキ	<i>Hypolimnas misippus</i> (Linnaeus)		●	●	●	●
リュウキュウムラサキ	<i>Hypolimnas bolina</i> (Linnaeus)				●	●
ヤエヤムラサキ	<i>Hypolimnas anomala</i> (Wallace)				●	
ジャノメチョウ科						
ウスイロノマチョウ	<i>Melanitis leda</i> (Linnaeus)			●	●	●

(注)

- ☆目撃記録があるのみで採集記録がない種類、参考記録として扱う
- ★本市では採集記録はないが隣接の門川町で採集記録のある種類

記録のある年代では▲で記した。

延岡市及びその周辺のタイワンツバメシジミの現状と経緯

安本 潤一

1. はじめに

タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus* は、延岡市近隣では、延岡市（北方町、北浦町、北川町を含む）、門川町、日向市、日之影町に記録がある。しかしながら、全国的にも減少が著しく、国 RDB 絶滅危惧 I 類（CD+EN）、県 RDB 絶滅危惧 I B 類（EN-g）に位置づけられている。当地でも 1996 年以降、多産地であった門川町遠見山において激減し、さらに近年では、安定した生息地であった延岡市北浦町の産地が次々に消滅していくなど、危機的な状況が見られている。

今回筆者は、延岡市を中心に市のデータベースによる生息状況の推移及び最近の現地調査についてまとめた。なお、本報告では主に 2011 年以降の調査データ及び未発表のデータ（未発見のデータが多い）を本文中に示し、既に公表されている市のデータベース掲載データは、参考のため文末の表にまとめて示した。（2014 年に延岡市のホームページに掲載されている表を一部修正）

2. 各年代における生息状況

2-1. 1960 年代

延岡市での本種のもっとも古い記録は、1962 年 9 月 9 日に延岡市北方町（当時北方村、以下現在の地名で延岡市を省略して表記する。）川水流で 3♀6♂、旧市内の高野町で 1♀2♂が永井庵氏によって採集されたものである。'60 年代は、'62、'63 年に記録が集中し、旧市内では高野町、大峽町、赤水町、3 北では北方町川水流、曾木、北浦町古江、北川町鏡山、市棚、可愛岳で記録されている。広い地域で、多数ではないが複数個体の記録が多い。

2-2. 1970 年代

'78 及び'79 年の記録が残っている。この時代の調査は岩崎郁雄氏によって調査されている記録が大部分で、旧市内では行藤山、西階町、小川町、吉野町、上三輪町、北方町では蔵田、川水流周辺、早日渡、山口原周辺等、他に北浦町古江峠、北川町森谷谷で記録が見られ、吉野町、上三輪町では多数の個体が確認されている。

2-3. 1980 年代

延岡市で本種の記録がもっとも豊富なのは、1980 年代と 1990 年代半ばであるが、1985 年頃を境に記録の内容が異なっている。'80 年代前半においては、旧市内では上伊形町、赤水町、櫛津町、西階町、上三輪町等でよく記録されている。北方町では、'70 年代の産地の他、二子山林道でも記録された。北浦町では古江飯塚山の記録が多かった。北川町では家田、長谷でも卵や幼虫が見つかった。このように、'80 年代前半では、かなり広範囲から記録されている。

ところが、1985 年以降は門川町遠見山から多数の記録が見られるようになり、その一方、他に

は北浦町古江と赤水町(1頭目撃、卵確認)からのみとなり、記録地が限られる傾向が見られた。

以下、筆者の未発見データである。これは延岡市のデータベースに載っていないデータである。

1985年9月8日	延岡市上伊形町(シバハギ少数)、赤水町	未発見	未発表
1985年9月15日	延岡市上伊形町	未発見	未発表
1988年9月11,15,17日	延岡市高平山	未発見	未発表

2-4. 1990年代

1990年代に入ると、記録された個体数が多いが産地数が極端に減少する。門川町の遠見山がその大部分を占め、他は土々呂町、上伊形町、赤水町となる。北浦町の産地は調査がされていないため、記録が出ていないと思われる。(2000年以降は北浦町の記録が多くなる。)

多産地の門川町遠見山は、1995年迄は多数の個体が確認されていたが、1996年以降は、以下に示した筆者の記録(1999年)を含めて4例(2♀2♂)のみの記録となり激減した。この状態は現在も続いており、遠見山周辺で少数個体を確認した等の話は何度か聞いているが、ほぼ壊滅状態に変わりはない。'90年代半ばの当地は、公園としての整備は行われていたが、シバハギは普通に見られた。激減後の筆者のデータである。

1996年9月7日	門川町遠見山	未発見	未発表
1997年9月7日	門川町遠見山	未発見	未発表
1999年9月5日	門川町遠見山	1♀採集	データベースにあり

2-5 2000年以降

2000年代に入ると、その記録は大部分が北浦町及び隣接する熊野江町からのものとなった。他は、妙見町と北川町鏡山の麓である。妙見町の生息地は小さなシバハギの群落であり、2008年10月に幼虫1頭を確認したが、翌年9月に調査をしたが成虫は未発見であった。その後は観察していない。

2008年10月13日	延岡市妙見町	幼虫1頭確認	シバハギ確認	データベースにあり
2009年9月6日	延岡市妙見町	成虫未発見	シバハギ確認	未発表

鏡山は、2009年に1♂を採集したが、2013年に再調査した際にはシバハギさえ発見できなかった。

2009年9月5日	北川町鏡山麓	1♂採集	シバハギ確認	データベースにあり
2013年9月10日	北川町鏡山麓	成虫未発見	シバハギ未確認	未発表

門川町遠見山についても、以下2回調査を実施したが未発見であった。

2000年9月10日	門川町遠見山	未発見	未発表
2002年9月8日	門川町遠見山	未発見	未発表

一方、北浦町の産地は、2000年代の前半は比較的状况が良かった。これらの産地は大きく分けて①大分県境～直海、②森山林道(熊野江町側)、③森山林道(北浦町側)④古江峠(トンネル付近)⑤いやざめ～仏の越付近、⑥梅木付近、⑦市振～直海の7ヵ所である。それぞれの状況は以下の通りである。

①大分県境～直海

県境に近いところで、脇道にシバハギが生えていてそこが生息地となっている。有名なポイントのようで当時はよく県外の採集者を見かける場所であった。ここは北浦町の中でも発生が早い場所であり、通常の年であれば8月下旬には既に成虫が見られた。当地は2005年までは毎年1回の調査で10頭程度の成虫が確認されていたが、2007年には3♂確認、2010、2012、2013年には未確認であった。シバハギも近年は少なくなっている。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2007年9月1日	北浦町直海	3♂確認	未発表
2010年9月4日	北浦町直海	未確認	未発表
2012年9月1日	北浦町直海	未確認	未発表
2013年9月6日	北浦町直海	未確認	未発表

② 森山林道（熊野江町側）

林道の脇に小規模なシバハギ群落が数ヶ所に点在している生息地である。2009年までは少数ながら確認できたが、2014年は未確認であった。森山林道から熊野江線に下った所にシバハギが多数見られる場所があるが、ここはなぜか成虫ほとんど見られず過去1回のみ確認できた。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2006年9月9日	熊野江町森山林道	1♀1♂確認	未発表
2010年9月4日	熊野江町森山林道	未確認	未発表
2013年9月10日	熊野江町森山林道	未確認	未発表
2014年9月9日	熊野江町森山林道	未確認	未発表

③ 森山林道（北浦町側）

2000年代前半、森山林道沿いには点々と生息地があった。小規模な場所が多い中、その内の1ヶ所は林道から少し入った広場で、シバハギも多く広い生息地であった。この場所は2000年～2002年迄は1度に20頭程度見ることができると多産していたが、2003、2004年には激減し、2005年以降は見つかっていない。この周辺の小規模な生息地は2008年迄は確認されたが、それ以降3回の調査では未発見であった。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2005年9月3日	北浦町森山林道	未確認	未発表
2006年9月9日	北浦町森山林道	未確認	未発表
2010年9月4日	北浦町森山林道	未確認	未発表
2013年9月10日	北浦町森山林道	未確認	未発表
2014年9月9日	北浦町森山林道	未確認	未発表

④ 古江峠（トンネル付近）

2008年迄は、個体数はそれほど多くないが確認できた場所である。2010、2012年は未確認であり、2012年にはシバハギも見えたらうず消滅したと思われる。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2006年9月9日	北浦町古江トンネル	3♀9♂確認	未発表
2010年9月4日	北浦町古江トンネル	未確認	未発表
2012年9月9日	北浦町古江トンネル	未確認 シバハギも未確認	未発表

⑤ いやざめ～仏の越付近、

数ヶ所の産地が点在していて、1ヵ所を除いては小規模な生息地である。2010年迄は安定して確認できたが、2012年には1♂のみの確認、2013年には全く確認できなかった。2014年はより広い範囲を探し、やっと2♀2♂を確認した。2010年以前に比べるとかなり減少していると思われる。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2006年9月9日	北浦町いやざめ～仏の越付近 F 地点	1♂採集	未発表
2006年9月10日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	4♀2♂確認	未発表
2007年9月8日	北浦町いやざめ～仏の越付近 T 地点	4♂確認	未発表
2007年9月24日	北浦町いやざめ～仏の越付近 O 地点	1♂採集	未発表
2010年9月4日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	未確認	未発表
2012年9月1日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	未確認	未発表
2012年9月9日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	1♂確認	未発表
2013年9月6日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	未確認	未発表
2014年9月10日	北浦町いやざめ～仏の越付近 U 地点	2♀2♂確認	未発表

⑥ 梅木付近

2008年迄は比較的安定した生息地があったが、2010年には1♂のみの確認となり、2013年には確認できなかった。2014年は1♀を確認したが、以前に比べると大きく減少していると感じた。未発表及び2011年以降のデータのみ以下に示す。

2010年9月4日	北浦町梅木周辺 O 地点	未確認	未発表
2013年9月6日	北浦町梅木付近 O 地点	未確認	未発表
2014年9月10日	北浦町梅木付近 O 地点	1♀確認	未発表

⑦ 市振～直海

2007年の調査で見つけた所であるが、シバハギの規模も小さく安定した生息地ではなさそうである。これ以降、調査はしていない。未発表の記録を以下に示す。

2007年9月24日	北浦町市振～直海	1♂採集、1♀目撃	未発表
------------	----------	-----------	-----

3. まとめ及び考察

延岡市を中心としたタイワンツバメシジミの生息状況推移は、年代によって以下のように変化し、現在は非常に厳しい状況となっている。

- ・1980年代半ばまでは、延岡市旧市内、北方町、北浦町、北川町の広い範囲で記録が見られ、広範囲に生息していたと考えられた。

- ・1985年～1995年頃までは、門川町遠見山の記録が卓越的に多くなり、多産したことを示した一方、旧市内の記録は大きく減少した。これは、調査が総合的に実施されなかったことも一因ではあるが、'80年代半ば以前まで生息していた旧市内等の産地が減少したことにより、遠見山に記録が集中したと考えられる。

- ・1996年以降は、門川町遠見山の記録が激減し、その後少数の記録はあるが、当地は現在も復活していない。

- ・2000 年に入ると、北浦町の生息地が比較的良い状況にあることがわかり、調査の結果、多くの産地が見つかった。しかしながら、これらの産地は 2003 年～2010 年頃の間大きく減少した。
- ・2010 年以降は、北浦町の多くの産地は消滅又はそれに近い状況となり、林道の脇等のシバハギ小群落の生息地が少数点在しているに過ぎない状況である。

【参考文献】

- 岩崎郁雄(1987) 宮崎県北部のタイワンツバメシジミ分布とその発生期、成虫の一知見、タテハモドキ 22 号
- 安本潤一(2000) 延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書、チョウ類、延岡市
- 安本潤一(2000) 延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書データ集(チョウ類)、延岡市
- 安本潤一(2001) 延岡市環境基本計画 自然環境補足調査報告書及びデータ集(チョウ)、延岡市
- 安本潤一(2011) 第2次延岡市環境基本計画 自然環境調査報告書及びデータ集、チョウ類、延岡市
- 宮崎県総合博物館(1993) 宮崎ーチョウの世界

(やすもと じゅんいち：延岡市野田町 5125-1)

年	月	日	種名	数	♂	♀	卵	幼虫	蛹	確認方法	記録地(地名)	標高(書面)	(h)	記録者	備考
1962	9	9	タイワンハヤシ	6	2	3				採集	北方村川水流			永井 庸	宮崎県北側の壁 I
1962	9	9	タイワンハヤシ	6	2	1				高野	高野			永井 庸	宮崎県北側の壁 I
1962	9	16	タイワンハヤシ	2	1					採集	北山村古江			永井 庸	宮崎県北側の壁 I
1962	9	16	タイワンハヤシ	5	1					採集	北山村鏡山			延岡高次	宮崎県北側の壁 I
1962	9	16	タイワンハヤシ	2	1					採集	大畑町			延岡高次	宮崎県北側の壁 I
1962	9	22	タイワンハヤシ	3						採集	北山村市瀬			延岡高次	宮崎県北側の壁 I
1963	8	26	タイワンハヤシ	1	1					採集	赤久町			小川道男	宮崎県北側の壁 II
1963	9	22	タイワンハヤシ	2						採集	赤久町			永井 庸	宮崎県北側の壁 II
1963	9	22	タイワンハヤシ	8						採集	赤久町			永井 庸	宮崎県北側の壁 II
1963	9	24	タイワンハヤシ	1						採集	赤久町			網谷 憲一	宮崎県北側の壁 II
1963	9	28	タイワンハヤシ	1						採集	北山村可夢岳			前田邦夫	宮崎県北側の壁 II
1963	10	4	タイワンハヤシ	3						採集	赤久町			和国友子	宮崎県北側の壁 II
1978	9	9	タイワンハヤシ	2						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	17	タイワンハヤシ	7						採集・目録	北山村紫谷			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	23	タイワンハヤシ	2						採集	北方町山口原(山口原橋～稲田橋間)			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	30	タイワンハヤシ	2						採集	行徳山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	10	2	タイワンハヤシ	1						採集	行徳山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	10	2	タイワンハヤシ	1						採集	北山村古江峠			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	5	タイワンハヤシ	1						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	5	タイワンハヤシ	2						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	8	タイワンハヤシ	3						採集	行徳山190～200m			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	8	タイワンハヤシ	1						採集	行徳山190～200m			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	11	タイワンハヤシ	1						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	15	タイワンハヤシ	2						採集	北方町山口原(山口原橋～稲田橋間)			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	16	タイワンハヤシ	1						採集	小川町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	16	タイワンハヤシ	1						採集・目録	北方町唐立			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	16	タイワンハヤシ	2						採集	北方町唐立～黒仁田			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	16	タイワンハヤシ	1						採集	吉野町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	16	タイワンハヤシ	多数						採集	吉野町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	22	タイワンハヤシ	1						採集	上鶴町鹿越			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	22	タイワンハヤシ	1						採集	北方町釜水流～下崎			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	22	タイワンハヤシ	1						採集	北方町下崎～笠下			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	24	タイワンハヤシ	5						採集	北方町蔵田～南久保山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	24	タイワンハヤシ	12						採集	北方町釜水流～上崎			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	9	24	タイワンハヤシ	1						採集	北方町草日蔵・布引林道			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	10	7	タイワンハヤシ	1						採集	北方町南久保山～角田			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	10	9	タイワンハヤシ	10						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1978	10	28	タイワンハヤシ	5						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	21	タイワンハヤシ	1						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	23	タイワンハヤシ	1						採集	北方町蔵田～南久保山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	23	タイワンハヤシ	1						採集	北方町二子山林道			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	23	タイワンハヤシ	2						採集	北方町山口原			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	24	タイワンハヤシ	1						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	26	タイワンハヤシ	1						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	26	タイワンハヤシ	2						採集	北方町二子山林道			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	26	タイワンハヤシ	2						採集	北方町山口原			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	26	タイワンハヤシ	1						採集	北方町山口原 稲田橋付近			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	28	タイワンハヤシ	1						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	31	タイワンハヤシ	4						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	8	31	タイワンハヤシ	1						採集	北方町山口原			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	1	タイワンハヤシ	1						採集	鶴見山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	3	タイワンハヤシ	13						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	3	タイワンハヤシ	4						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	3	タイワンハヤシ	1						採集・目録	北方町二子山林道			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	3	タイワンハヤシ	8						採集	北方町二子山林道			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	3	タイワンハヤシ	3						採集	北方町山口原			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	5	タイワンハヤシ	3						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	6	タイワンハヤシ	1						採集	西畑町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	6	タイワンハヤシ	2						採集	愛宕山			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II
1980	9	6	タイワンハヤシ	2						採集	上伊形町			岩崎朝雄	宮崎県北側の壁 II

年	月	日	種名	数	♂	♀	卵	幼虫	蛹	確認方法	記録地(地名)	地図番号(a)	(b)	記録者	備考
1980	9	6	多イワシノミ					3		採集・目録	北方町・二子山林道			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♀完全中汚、幼虫若齢3頭確認。
1980	9	6	多イワシノミ				1	+	+	採集・目録	北方町・二子山林道			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀完全新鮮。
1980	9	6	多イワシノミ				2	+		採集・目録	北方町・二子山林道			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♂中破新鮮。卵は確認。
1980	9	6	多イワシノミ				6	13		採集・目録	北方町・山口原			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♂中破新鮮。卵は確認。
1980	9	6	多イワシノミ				1			採集・目録	北方町・山口原(山口原橋～稲田橋間)			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♀完全新鮮。卵は確認。
1980	9	7	多イワシノミ				2	1		採集	上伊形町			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀完全新鮮。卵は確認。
1980	9	7	多イワシノミ				10	13	+	採集	北方町・古江峠	4831-65	30	村上 勝	宮崎の塚24号
1980	9	7	多イワシノミ				+	+		採集	北方町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 鮮度は小破小汚～大破中汚、他11♂6♀確認。小破小汚～大破中汚。
1980	9	7	多イワシノミ				+	+		採集	北方町・家田 長谷			岩崎朝雄	タチハモトキム22 4♀(完全新鮮～小破中汚)
1980	9	9	多イワシノミ				1	3		採集	西郷町			岩崎朝雄	タチハモトキム22 4♀(完全新鮮～小破中汚)
1980	9	12	多イワシノミ				4			採集	北方町・山口原			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♂中破新鮮。卵は確認。
1980	9	14	多イワシノミ				1	2		採集	北方町・早日渡・布引林道			岩崎朝雄	タチハモトキム22 1♀完全中汚、1♀小破小汚、1♀小破小汚、1♀(小破小汚)がキツネノマゴで吸蔵。
1980	9	14	多イワシノミ				2	+	+	採集	北方町・二子山林道			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚、他1♀(大破中汚)目撃。
1980	9	14	多イワシノミ				3			採集	北方町・山口原			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚、1♀大破中汚
1980	9	20	多イワシノミ				1			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚
1980	9	20	多イワシノミ				1	1		採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚
1980	9	20	多イワシノミ				1			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚
1980	9	21	多イワシノミ				1			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 2♀小破中汚
1980	9	21	多イワシノミ				1			採集	北川町・家田 長谷			岩崎朝雄	タチハモトキム22 幼虫2頭1頭確認。
1980	9	27	多イワシノミ				19			採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢17頭、中齢2頭
1980	9	28	多イワシノミ				1			採集	鶴見山	4831-55	98	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	9	28	多イワシノミ				1			採集	鶴見山	4831-65	98	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	10	4	多イワシノミ				4			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	10	10	多イワシノミ				多数			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	10	10	多イワシノミ				1			採集	上三輪町小切畑～産蔵			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	10	11	多イワシノミ				1			採集	鶴見山	4831-55	97	村上 勝	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	10	18	多イワシノミ				4			採集	西郷町			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1980	11	1	多イワシノミ				1			採集	上伊形町	4831-65	31	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1981	8	15	多イワシノミ				3	1		採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1981	8	15	多イワシノミ				3	1		採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1981	8	31	多イワシノミ				19	7		採集	鶴見山	4831-55	98	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1982	8	30	多イワシノミ				10	2		採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1982	9	9	多イワシノミ				3	8		採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1982	9	19	多イワシノミ				1			採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1982	9	19	多イワシノミ				3	1		採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1982	9	28	多イワシノミ				4			採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1983	8	22	多イワシノミ				4			採集	北川町・古江峠			岩崎朝雄	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1983	9	16	多イワシノミ				1			採集	上伊形町	4831-65	30	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1983	9	16	多イワシノミ				2			採集	上伊形町	4831-65	31	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1983	10	1	多イワシノミ				1			採集	鶴見山	4831-55	94	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1983	10	1	多イワシノミ				4	3		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1984	9	16	多イワシノミ				1	2		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1985	9	16	多イワシノミ				1			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1985	9	19	多イワシノミ				1			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1985	9	19	多イワシノミ				4	5		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1985	10	19	多イワシノミ				3	1		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1986	9	7	多イワシノミ				2			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1987	9	5	多イワシノミ				3	1		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1987	9	5	多イワシノミ				1	1		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1988	9	15	多イワシノミ				5	2		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1988	9	15	多イワシノミ				7	5		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1989	9	10	多イワシノミ				3	2		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1989	9	15	多イワシノミ				2	1		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1989	9	15	多イワシノミ				1			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1989	9	24	多イワシノミ				1	5		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1989	10	1	多イワシノミ				1	3		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1990	9	2	多イワシノミ				1			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1990	9	4	多イワシノミ				8	1		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1990	9	10	多イワシノミ				8	4		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1991	9	14	多イワシノミ				5	3		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1992	9	6	多イワシノミ				2			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1992	9	6	多イワシノミ				2			採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより
1992	10	3	多イワシノミ					10		採集	赤次郎峠の浜	4831-55	97	山口 菱光	タチハモトキム22 終齢3.3令、ハハキより

年	月	日	種名	数	♂	♀	卵	幼虫	蛹	確認方法	記録地(地名)	地図番号(a)	(b)	記録者	備考
1993	9	11	多イワシノハナシジ			2				自家	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	8	24	多イワシノハナシジ		3					採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1994	8	24	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1994	8	28	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1994	8	29	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1994	9	3	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	9	4	多イワシノハナシジ		4	1				採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	9	8	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	9	8	多イワシノハナシジ		8					採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1994	9	10	多イワシノハナシジ		2					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	9	10	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1994	9	11	多イワシノハナシジ	12						採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1994	9	15	多イワシノハナシジ	8						採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1994	9	15	多イワシノハナシジ		4					採集	上伊勢町	4831-65	30	山口・俊光	市外
1994	9	24	多イワシノハナシジ			5				採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1995	9	9	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1995	9	9	多イワシノハナシジ	38						採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1995	9	9	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	77	安本・洲	市外
1995	9	9	多イワシノハナシジ		2					採集	門川町・連黄山	4831-55	77	安本・洲	市外
1995	9	12	多イワシノハナシジ	50						自家	門川町・連黄山	4831-65	87	山口・俊光	市外
1995	9	13	多イワシノハナシジ	4						採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1995	9	14	多イワシノハナシジ	12						採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1995	9	15	多イワシノハナシジ		1	1				採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1995	9	15	多イワシノハナシジ	14						採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1995	9	16	多イワシノハナシジ		2					採集	門川町・連黄山	4831-55	77	安本・洲	市外
1995	9	19	多イワシノハナシジ	15						採集	門川町・連黄山	4831-55	87	山口・俊光	市外
1995	9	26	多イワシノハナシジ		1					採集	鶴見山	4831-55	97	山口・俊光	市外
1996	9	11	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	86	山口・俊光	市外
1997	9	7	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
1999	9	5	多イワシノハナシジ			1				採集	門川町・連黄山	4831-55	86	安本・洲	市外
1999	9	12	多イワシノハナシジ							採集	門川町・連黄山	4831-55	86	安本・洲	市外
2000	9	23	多イワシノハナシジ		1					採集	門川町・連黄山	4831-55	76	中野・淳	市外
2001	9	1	多イワシノハナシジ	15	3					自家	北浦町			安本・洲	市外
2001	9	8	多イワシノハナシジ	5	5					自家	北浦町			安本・洲	市外
2002	9	7	多イワシノハナシジ		9					自家	北浦町			安本・洲	市外
2002	9	7	多イワシノハナシジ	22	3					自家	北浦町			安本・洲	市外
2002	9	7	多イワシノハナシジ		5	1				採集	熊野江町	4831-06		安本・洲	市外
2003	8	30	多イワシノハナシジ							採集	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2003	8	30	多イワシノハナシジ	16	3					自家	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2003	8	30	多イワシノハナシジ		1					採集	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2003	8	30	多イワシノハナシジ	4						採集	熊野江町	4831-06		安本・洲	市外
2003	9	6	多イワシノハナシジ	4	2					採集	北浦町			安本・洲	市外
2004	9	5	多イワシノハナシジ		1	2				採集	北浦町			安本・洲	市外
2005	9	3	多イワシノハナシジ	7	4					自家	北浦町			安本・洲	市外
2007	9	1	多イワシノハナシジ		3					採集	北浦町			中野・淳	市外
2007	9	1	多イワシノハナシジ		1					採集	北浦町	4831-16		中野・淳	市外
2007	9	22	多イワシノハナシジ		3	3				自家	北浦町	4831-16		中野・淳	市外
2007	10	5	多イワシノハナシジ	多数						採集	北浦町	4831-16		中野・淳	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ		2					採集	北浦町	4831-16		安本・洲	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	18	3					自家	北浦町	4831-16		安本・洲	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	1						採集	北浦町	4831-16		安本・洲	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	5	2					自家	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	1						自家	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	3	1					採集	熊野江町	4831-06		中野・淳	市外
2008	9	6	多イワシノハナシジ	2						自家	熊野江町	4831-06		安本・洲	市外
2008	10	13	多イワシノハナシジ		2					採集	熊野江町	4831-06		安本・洲	市外
2009	9	5	多イワシノハナシジ		1					自家	妙皇町	4831-65		安本・洲	市外
2009	9	5	多イワシノハナシジ		9					自家	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2009	9	5	多イワシノハナシジ		1					採集	北浦町	4831-06		安本・洲	市外
2009	9	5	多イワシノハナシジ		1					採集	熊野江町	4831-06		安本・洲	市外
2010	9	11	多イワシノハナシジ		4	5				自家	北浦町	4831-16		安本・洲	市外
2010	9	11	多イワシノハナシジ							自家	北浦町			安本・洲	市外
1980	8	26	Evres sp.			1				自家	北方町・山口原(山口原橋～細田橋間)			岩崎博雄	タチハモトキム22

宮崎県中南部におけるタイワンツバメシジミの発生状況とその変遷 (2000～2014 年)

小岩屋 敏

- 1) それぞれの生息地で筆者自身が現認した確認頭数の変化を時系列的に記録・報告する。確認頭数とは、〔採集個体数＋ネットに入れて本種と確認したのち放した個体＋それら以外にタイワンツバメと視認できた個体〕の合計数。2014 年の〔 〕内の数は、推定発生数。例えば、シバハギが見られる生息域の一部しか調査できなかった場合に、調査した面積の割合を考慮したうえでこの推定発生数を算出した。また、発生初期の段階で調査した場合には、その後発生数が増えることを考慮して推定発生数を推認したケースもある。なお、本種やシバハギが確認できなかった地域についても極力報告する。なお、文献や伝聞による知見は「注」及び概括を参照されたい。
- 2) －は、調査しなかったことを意味する。
- 3) ×は、調査したがシバハギ自体が見つからなかったことを意味する。
- 4) ▲は、少数のシバハギはあったが、本種の卵・幼虫・成虫とも発見できなかったことを意味する。
- 5) △は、一定数～多数のシバハギがあったが、本種の卵・幼虫・成虫とも発見できなかったことを意味する。
- 6) ○は、少数の成虫か卵か幼虫を確認できたことを意味する。
- 7) ◎は、多数の成虫か幼虫を確認できたことを意味する。

(1) 門川町～宮崎市北部

	2000 年	2002 年	2006 年	2007 年	2008 年	2014 年	
門川町遠見山	－	9 月 9 日△	－	－	10 月 3 日△	－	注 1
日向市塩見 (2ヶ所)	－	－	－	－	10 月 3 日×	－	
日向市平岩山ノ田	－	－	－	－	10 月 3 日▲	9 月 28 日△	注 2
日向市鵜毛～耳川	－	－	－	－	－	9 月 28 日△	注 3
日向市耳川～笹尾	－	－	－	－	－	9 月 28 日▲	注 3
都農町観音滝付近	－	－	－	－	－	9 月 28 日×	
都農町和田橋北部丘陵	－	－	－	－	－	9 月 28 日×	
都農町水洗付近	－	－	－	－	－	10 月 19 日▲	注 4
都農町水洗～尾鈴神社	－	－	－	－	－	10 月 19 日▲	注 4
都農町都農ワイナリー	－	9 月 3 日×	－	－	－	－	
川南町込ノ口～細	9 月 13 日×	－	－	－	－	－	注 5
川南町青鹿キャンプ場	9 月 13 日△	9 月 3 日▲	－	10 月 6 日○ 約 20 幼虫	－	9 月 28 日▲	注 6

川南町青鹿ダム堰堤	9月13日△	9月3日△	—	10月6日△	—	—	注7
川南町椎原付近	9月13日▲	—	—	—	—	—	
木城町川原～白木八重 牧場	9月13日×	—	—	—	—	—	注8
木城町岩渕大池	9月13日△	—	—	—	—	—	
新富町唐ヶ山公園～三 納代	9月13日×	—	—	—	—	—	
宮崎市石崎浜	—	—	9月13日▲	—	—	—	注9
宮崎市市民の森	—	9月3日▲ 9月15日▲	—	—	—	—	注10
宮崎市垂水公園	—	9月15日×	—	—	—	—	注11

注1) 1995年までは多産していたが、1996年から激減。理由の一つは旱魃の影響といわれるが、確かな原因は分からない。現在は公有地の常として定期的な(＝過剰な)草刈が行われており、シバハギも著しく衰退し、裸地に小さな株がパラパラと残っているだけ。幼虫の休眠場所として必要なススキ・チガヤ草原とシバハギが隔離されたので、今後も本種の発生はあまり期待できない。

注2) 平岩金ヶ浜では1983年に8♂が記録されているが、その報告(後藤、1983)によれば、当時は近隣のあちこちにシバハギが繁茂していた様子がうかがわれる。今回シバハギ群落を確認した場所は、広域農道「尾鈴サンロード」がループする地点の休憩所の空地。草刈があまり行われていないらしく、2m×6mもの大群落もあったが、残念ながら成虫も卵も発見できなかった。

注3) 「尾鈴サンロード」沿いを中心に探索。左右にも入り込んで調査したが、シバハギは3ヶ所で散見したのみ。鶉毛近くの道傍の1ヶ所だけはかなりシバハギが繁茂していたが、ツバメシジミばかりが目についた。

注4) 水洗西方の都農町川北地区では、1996年に岩田(2000)が本種の記録を出している。今回シバハギを見つけたのは、最近まで放牧地として使われていた標高400mの丘の上と、尾根に沿って北上する町道から西に分かれたダートの林道。後者はかなり有望に見えたが、度重なる草刈のせいか株が小さく結実量が少ない。残念ながら幼虫を発見することはできなかった。

注5) 名貫川沿いの地域。1950年代に記録されて以来、追加記録は出ていないと思われる。なお、尾鈴山の裏側にあたる板谷谷は1984年時点で多産することが報告されている(岩崎、1985)が、現在の状況は不明。

注6) この地域では、2000年以降筆者自身が確認した唯一の生息地であったが、過剰な草刈のせいでシバハギが衰退。2014年は幼虫を確認することができなかった。なお、近辺の別の場所では笹岡康則さんが生息を確認している。本人の発表を待ちたい。

注7) 小岩屋(2010)が図示した場所(月刊むし469号、p.18の写真8)。シバハギは安定して

繁茂しているが、過剰な草刈のため本種は全く見られない。

注 8) 高橋 (1976)・岩田 (2000、1994 年採集) によって記録されているが、筆者の探索 (2000 年) ではシバハギを見つけることができなかった。高橋は付近一帯の数ヶ所で記録を出しているのに、まだどこかに生息地が残っていることを期待したいが――。

注 9) 「おびたしい個体数が見られた場所」(岩田、2000) はこの場所と推察できるが、旱魃の影響により 1995 年以降は極端に減少したという。2006 年にはわずかながらシバハギが見られたが、現在は全く発生していないと聞いている。

注 10) 1985 年に報告された生息地。1998 年までは確実に生息していたようだが、その後の記録は聞かない。2002 年の調査では、シバハギは比較的広範囲に残っているものの、度重なる草刈のせいか株自体は貧相で種子も少ない。生息の可能性はあまりないと感じた。

注 11) 1967 年筆者によって記録されたが、それ以来探索がなされていないと思う。2002 年の調査ではシバハギすら全く発見できなかった。今となっては「こんなところにも生息していたのか」と感慨深い。なお、宮崎市街地に近い区域では、南方町大迫池堰堤や垣下地区の荒地、芳土地区井上病院向いの草地などでシバハギを確認したが、むろんこれらの場所では本種の生息はほぼ絶望的。

概括

この地域でどの程度本種の生息地が残存しているかについては、はなはだ心もとない。日本有数の畜産地帯として古くから開拓されていた地域であり、新しく開墾が行われたり道路が開削される余地が少なく、本種の食草であるシバハギの好む「遷移初期の環境」が新規に供給されにくい地域といえる。それでも、公有地の草原的環境や放棄された牧場などにシバハギが細々と残っていたが、1990 年代からのエンジン付き草刈機の普及で「過剰な草刈」が行われるようになり、シバハギの更なる後退をもたらしたと考えられる。また、キャタピラの軌道に沿って播種されるシバハギの特性から、ダートの林道や農道には繁茂の余地が残されるが、道路が舗装されてしまうとシバハギは育つことができない。

1990 年代にはまた、斑点米を防ぐために農水省がイネ害虫のカメムシ類の駆除を日本全国に号令し、公有地の頻繁な草刈を事実上強制するとともに、ネオニコチノイド系農薬の使用を推進したが、そのことも本種の存続には直接の脅威になったのではないかと考える。

ある程度の草刈はやむをえないとしても、幼虫が育っている時期の 9 月末～10 月前半にシバハギを根元から刈り取ってしまうと、本種は簡単に死滅する。行政サイドが本気で本種を絶滅危惧種として保護しようというのであれば、少なくとも公有地の草刈の時期をもっと真剣に考慮すべきであろう。

なお、延岡市以北については安本潤一さんの報告を待ちたい。

(2) 綾・国富・高岡方面

	2002 年	2006 年	2007 年	2008 年	
国富町本庄古墳群付近	—	9 月 13 日×	—	—	
綾町綾南川右岸付近	8 月 25 日×	—	—	—	注 12
高岡町上倉永平谷林道	—	—	9 月 30 日○ 卵・1 齢幼虫	11 月 1 日▲	注 13
高岡町高岡温泉～瓜田ダム	—	—	9 月 30 日×	—	
高岡町瓜田ダム～へり山林道	—	—	9 月 30 日▲	—	
野尻町萩の茶屋一帯	8 月 25 日×	—	—	—	

注 12) 1967 年に筆者が 7 卵採集した綾南川右岸の斜面を中心に探索した。発見当時の採草地は黒々とした杉林に変貌しており、全くシバハギを確認することができなかった。

注 13) この区域で唯一本種の卵・幼虫を発見した場所。翌年シバハギの種子を集めに出かけたところ、ただ 1 本見つけていた大株は根元から刈り取られ、ほかの場所のシバハギも衰退していた。現在の状況は不明。

概括

この地域も、古くから開拓されているうえに都市化が著しく、本種の生息地が残存する可能性は小さい。前地域同様、新しく開墾が行われたり道路が開削される余地が少なく、本種の食草であるシバハギの好む「遷移初期の環境」が新規に供給されにくい地域である。岩田（2000）は生息地として国富町三名（1996 年）・綾町南俣（1995 年）・旧野尻町紙屋（1995 年）を報告しているが、現在の状況は悲観的というほかない。この数年笹岡さんが精力的に探索しているので、報告を待ちたい。

(3) 旧清武町及び宮崎市西南部（加江田川の西）

	2002～2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	
宮崎市 丸目～大久保	2006 年 10 月 10 日○ 卵少々 2007 年 9 月 8 日▲ 10 月 1 日○ 1♀	9 月 10 日○ 1♂	10 月 5 日○ 1 幼虫	—	9 月 11 日▲	—	9 月 12 日▲	注 14
清武総合スポーツ施設付近	2007 年 10 月 1 日×	—	—	—		—	—	
宮崎市今泉 の開削草原	2007 年 10 月 1 日○ 1♀、3 幼虫 2008 年 9 月 12 日○ 7♂1♀	—	—	9 月 8 日○ 3♂	9 月 11 日○ 5♂	9 月 10 日△ 9 月 27 日○ 卵多少	9 月 12 日○ 成虫約 10 頭 (♀含) [50～100 頭]	注 15

宮崎市今泉の清武HC付近	—	9月10日△ 10月13日○ 幼虫約10頭	10月1日◎ 幼虫多数	9月8日△	9月11日▲	—	9月12日▲	注16
宮崎市丸目付近	—	—	9月13日▲	—	—	—	—	
宮崎市今泉荒平山①	—	9月10日○ 5♂	9月13日○ 成虫数頭	9月8日○ 成虫数頭	9月11日○ 1♀	9月10日×	9月12日×	注17
宮崎市今泉荒平山②	—	9月10日○ 5♂4♀ 10月13日◎ 幼虫多数	9月13日○ 成虫約20頭	9月8日○ 数頭(♀含) 10月12日○ 1幼虫	9月11日△	9月10日△	9月12日△	注18
宮崎市今泉～石坂	—	—		—			9月16日▲	注19
宮崎市石坂～伯田	—	—		—			9月16日×	
宮崎市伯田林道①	—	—	10月5日○ 5幼虫	—	9月11日▲	9月10日×	9月16日×	注20
宮崎市伯田林道②	—	—	10月5日◎ 約50幼虫	—	9月11日○ 4♂	9月10日△	9月16日○ 4♂1♀ [50～100頭]	注21
宮崎市鏡洲椿山峠～椿山キャンプ場	2002年 8月25日×	—	9月13日×	—	—	—	—	
宮崎市鏡洲①	—	—	9月13日○ 12♂ 9月26日◎ 成虫・卵多数 10月10日○ 約40幼虫	9月8日○ 約40頭(♀含) 10月12日◎ 幼虫多数	9月9日△ 9月11日△ 9月24日○ 1♂1♀、卵なし	9月27日○ 卵まらず	9月17日◎ 約60頭 [200～300頭]	注22
宮崎市鏡洲②	—	—	—	—	—	—	9月17日○ 約30頭 [70～100頭]	注23

注14) 開削されたダート道や法面に沿ってシバハギが茂っていたが、現在はクズの群落に覆われて著しく衰退。本種も多分局所的には絶滅したと思われる。

注15) 小岩屋(2010)が図示した場所(月刊むし469号、p.18の写真4)。現在の状況を写真3に示す。50m×100mほどの広大な開削平坦面と斜面のほぼ一面にシバハギが茂っているが、本種はなかなか「大爆発」しない。ぼつぼつ杉の植林が始まってはいるが、まだかなりの部分が手付かずの草原として残されており、旧清武町一帯の本種の中心的な生息地であることは間違いない。今後の変遷を見守りたい。

注16) 小岩屋(2010)が図示した場所(月刊むし469号、p.18の写真5)を含む一帯。この場所は東九州自動車道の工事に伴いシバハギが一時的に繁茂して、本種の幼虫もかなりの数が見られた(前記写真5の右下に大きな株が写っているが、この株では2010年に100頭以上の

幼虫を観察)。しかし道路の開通と同時にこの場所も開削されて絶滅。付近にはほかに何ヶ所か小さな発生地が存在したが、いずれも同時期に消滅。

注 17) 舗装された林道の道傍に小さなシバハギ群落があったが、頻繁な草刈で消滅。

注 18) 林道の道傍と法面のシダ類ブッシュの中にシバハギが繁茂し、一時はかなりの成虫や幼虫が見られたが、頻繁な草刈等の影響で急速に衰退。更に 2012 年以降は杉林の伐採に伴い重機や木材の置場となったため、シバハギは存続しているものの本種は全く見られなくなった。

注 19) 上田 (1970) により 1 匹の記録がある。現在はほぼ杉林に覆われているが、一部伐採跡にシバハギが見られた。精査すれば本種が見つかる可能性は高い。

注 20) 伐採跡の若い杉林。一時幼虫が発見されたが、杉の生長と草刈に伴い現在はシバハギ自体がほぼ消滅。

注 21) 伐採跡に植栽された壮年の杉林。ダートの林道は現在ほとんど通行がなく、普通のセダンでは走れないほど道が荒れている。林道両側の杉林はノバラ・ススキ・クズ等のブッシュが酷くて全く踏み込めないが、日当りのある林道面では 500m ほどの区間にわたってシバハギが断続的に繁茂し、あちこちに成虫や幼虫が見られる (写真 4)。今後しばらくは本種の発生が期待できるので、この地域の中核的な生息地として重要な場所。

注 22) 若い伐採地跡で、杉ではなくクヌギを植栽 (写真 5)。2010・2011 年には多数の成虫や幼虫が見られた核心的生息地。しばらく草刈が行われずシバハギがブッシュに覆われそうになったのと、幼虫の寄生率が異常に高かった (約 90%) ことで、2012 年には成虫の個体数が激減したが、幸い 2013 年に適度な草刈が行われたのと、寄生のダメージからの「揺り戻し」？で、2014 年はまた多数の成虫が乱舞するのを確認できた。

注 23) 2014 年に見つけた、前記クヌギ植栽地から少し離れた真新しいダートの林道。明るい道端や草原にシバハギが繁茂し、本種が乱舞していた。これから数年間は多数の発生が見込めよう。なお、近隣の斜面にはまだ多くの伐採跡地が残っており (写真 6)、本種もしばらくは安泰だろうと楽観的に考えている。

概括

(1) の地域と異なり、畜産業が占める土地の割合は小さい。また赤江地区や木花台地区一帯が大規模に開発された以外、(2) の地域ほどには都市化も進んでおらず、本種が生き残る余地は大きい地域と考えられる。本地域では戦後間もなく植栽された杉林が、更新されるべき時期を過ぎようとしており、現在急ピッチで伐採作業が行われている。したがって伐採地跡やダートの林道など、シバハギの繁茂する環境が今後も供給され続けることが期待できる。2012 年と 2013 年には成虫の発生数が一時的に激しく落ち込んだが、これは幼虫に対する寄生率の異常な高さに起因するものと考えられ、実際今年は本地域や次地域のいくつかの場所で回復傾向が顕著にみられている。

(4) 宮崎市南部(加江田川の東)～日南市北部

	2000年～ 2006年	2007年～ 2008年	2009年～ 2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	
加江田	2003年 9月15日○ 約10頭 2004年 9月14日× 2005年 9月13日×	—	—	—	—	—	—	注24
加江田 内山 採石場	2006年 10月10日○ 1♀	2008年 9月14日○ ♂少	—	—	9月9日△	—	9月16日○ 1♂2♀ [20～30頭]	注25
知福川	2003年 9月15日×	—	—	—	—	—	—	
青島 好隣梅	2000年 9月5・11日△ 2002年 9月15日○ 20頭 2004年 9月8日○ 1♂	—	—	—	—	9月27日○ 1♂1♀	9月16日○ 1♀ [20～30頭]	注26
青島 パーキング	2006年 9月30日○ 卵少々	2007年 9月20日○ ♂少 2008年 9月14日○ ♂少	2010年 10月15日○ 幼虫少	—	9月10日○ 1♂	9月27日○ 卵少	9月16日○ 1♂1♀ [10頭]	注27
同南西谷	2006年 9月30日○ 卵少々	2007年 9月20日○ ♂少	—	—	—	—	—	注28
折生迫① (道脇)	2006年 9月30日◎ 約30♀	2007年 9月12日○ ♂少	2010年 9月9日△	10月19日 △	9月10日△ 9月24日○ 2♀	9月27日○ 2♂1♀	9月16日△ 10月17日 ○幼虫2頭	注29
折生迫②	2006年 9月30日○ 卵少	—	—	—	—	—	9月16日▲	注30
折生迫③	2006年 9月30日○ 1♀	—	—	—	9月24日▲	9月27日▲	9月16日△	注31
カブトムシ の森	2006年 9月11日○ 約10頭	2008年 8月31日○ 1♂2蛹4終齢	2010年 9月9日○ 1♂	10月19日 △	9月9日△ 9月24日△	9月27日▲	9月16日△	注32

大谷林道 ③ (窪地)	2002 年 9 月 15 日○ 1♀ 2004 年 9 月 8~14 日○ 約 30 頭. 2006 年 9 月 11 日○ 約 10 頭 9 月 30 日 ♀少	2007 年 9 月 12 日○ ♂少	—	—	9 月 24 日▲	9 月 27 日×	9 月 16 日×	注 33
大谷林道 ④	2002 年 9 月 15 日○ 1♂		—	—	—	9 月 27 日×	9 月 16 日×	
川越広場 =Ka 広場 (小岩屋、 2000)	2002 年 9 月 15 日○ 約 20 頭 2003 年 9 月 5 日○ 9♂ 9 月 9~10 日○ 約 50 頭 2004 年 9 月 14 日○ 8♂ 2005 年 9 月 11~13 日◎ 約 80 頭 2006 年 9 月 11~13 日◎ 約 400 頭 9 月 30 日◎ 約 70♀	2007 年 4 月 20 日○ 休眠幼虫約 30 頭 9 月 7~12 日◎ 約 300 頭 9 月 20 日 約 30 ♀. 2008 年 9 月 11~14 日◎ 約 90 頭	2009 年 10 月 13 日◎ 幼虫多数、 2010 年 9 月 9 日△ 10 月 15 日○ 幼虫少	10 月 19 日○ 幼虫約 10 頭	9 月 10 日△ 9 月 24 日○ 卵少	9 月 27 日○ 1♂1♀	9 月 16 日○ 4 ♂ [30~50 頭]	注 34
川越第 2P	2007 年 9 月 12 日○ 30 頭	—	—	—	—	—	—	注 35
大丸川	—	—	—	—	9 月 10 日△ 9 月 24 日○ 卵少	9 月 27 日○ 1♀	9 月 16 日○ 1♂1♀ [20~30 頭]	注 36
内海① (伐採跡)	—	—	—	—	9 月 10 日△ 9 月 24 日○ 2♀	9 月 27 日○ 卵少	9 月 16 日○ 2♂ [20~30 頭]	注 37
内海② 別荘分譲 地	2003 年 9 月 15 日○ 30 頭 2004 年 9 月 13 日○ 少 2005 年 9 月 13 日○ 2♂	—	2009 年 9 月 13 日○ ♂少 2010 年 10 月 15 日○ 幼虫少	10 月 19 日 ○ 幼虫約 10 頭	9 月 10 日○ 1♂1♀ 9 月 24 日○ 3♀	9 月 27 日○ 1♂2 ♀	9 月 16 日○ 3♂ [30~50 頭]	注 38

道の駅フェニックス	2006 年 9 月 30 日○ 卵少々	—	—	—	9 月 10 日△	—	10 月 17 日 ▲	注 39
野島河内	2004 年 9 月 13 日×	—	—	—		—		
伊比井河内	2004 年 9 月 13 日×	—	—	—		—		
鶴戸神宮	2004 年 9 月 13 日×	—	—	—		—		

注 24) ハーブ工房の敷地内。2004 年以降はシバハギがきれいに刈られるようになり、本種も消滅したと思われる。

注 25) 小岩屋 (2010) が図示した場所 (月刊むし 469 号、p. 18 の写真 3)。発見当初からシバハギの量も本種の発生数もあり変わらず、期待ほどには「爆発」しない。なお、今年 9 月 16 日に当地で交尾しているペアを採集したところ、帰宅後に♂のほうはただのツバメシジミであることが分かった (写真 7)。本種の異種間交尾はこれまで報告されていないので、本稿で報告しておく。ただし大変残念なことに、♂が小型の汚損した個体であったため自然状態ではそれと気付くことができず、撮影もしていない (悔しい！)。

注 26) 採集地案内にも掲載されている有名産地だが、広範囲にシバハギが繁茂しているにもかかわらず密度は濃くない。ただ今後も発生継続が期待される安定した生息地という意味では、貴重な場所といえよう。

注 27) 毎年細々と発生を続けていたが、クズやセイタカアワダチソウに覆われ、シバハギの消滅は時間の問題。

注 28) 小岩屋 (2010) が図示した場所 (月刊むし 469 号、p. 18 の写真 9)。シバハギ自体は結構あるのだが、公有地らしく 10 月にも草刈が行われるので、周縁部でかろうじて発生が確認できる程度。

注 29) 標高僅か 20m の発生地。2006 年頃はかなりの多産地だったが、ブッシュに覆われて近年数を減じた。またこの場所は好隣梅や「カブトムシの森」と並ぶ有名産地らしく、いつも人の歩いた形跡がある。この草地の管理を委託されている地元の方 (怒和さんを知っていた) には「10 月は草刈しないでくれ」と依頼しているが、今後どうなるか。

注 30) 人家敷地内の斜面。頻繁な草刈の影響でシバハギの株は小さい。以前卵を確認したが、今後も期待薄。

注 31) 地元企業の資材置場。2006 年に本種の発生が認められたが、その後消滅。以前よりシバハギは繁茂しているので今後に期待。

注 32) 2011 年以降採集者が入るようになり、本種も激減。またクヌギが茂って日照が減りシバハギ自体が衰退したが、重機による 2 度の表土攪乱実験とクヌギの間伐で、「眠っている種子」を刺激してシバハギを活性化することに成功した (月刊むし 469 号、p. 21 の写真 18)。そういう意味では貴重な実験場だったが、クヌギの伸長で再び林内が暗くなったため今後の発生

はほとんど期待できず、当地を保護の象徴として扱うことにはもはや意味は見出せない。

注 33) 大谷林道が大丸川に落ち込む少し手前の引込み道。2004～2006 年頃は良好な生息地だったが、結局クズに覆われてシバハギが完全に消滅。本種もいなくなった。

注 34) 小岩屋 (2010) が図示した場所 (月刊むし 469 号、p. 16 の写真 2、p. 19 の 10～14)。2 度重機が入って更地になり、そのたびに、裸地⇒全面シバハギ⇒本種の大爆発 (2 度目は小爆発) ⇒ダンチク等で被覆⇒シバハギの衰退、というプロセスが繰り返された。そういう意味ではまたとない本種の増殖の実験場であった。

注 35) 対岸の河岸段丘の荒地にシバハギが広がっていたが、現在はススキ・クズに覆われて現場に辿り着くことができない。

注 36) 小規模ながら密にシバハギが繁茂する。杉の植林が行われているので、あと数年で消滅か。

注 37) 若い伐採地への侵入路。ブッシュが茂りつつあり、やがて消滅？

注 38) 売れ残った分譲地を中心にシバハギが散在。定期的にほどほどに草刈が行われるので、毎年コンスタントに発生するが大爆発はしない。発生の核として重要な場所。

注 39) 後背の斜面にシバハギが見られたが、斜面上部は過剰な草刈で、また更に奥はブッシュの繁茂でシバハギ自体が衰退している。本種の消滅は多分時間の問題。

概括

前地域同様都市化の影響は少なく、本種が生き残る余地は大きい地域と考えられる。ただし伐採による環境の変化はあまり期待できない。2012 年と 2013 年には成虫の発生数がかなり落ち込んだが、これは過剰な草刈によるシバハギ群落の衰退と幼虫に対する寄生率の異常な高さが原因と考えられ、実際今年はいくつかの場所で回復傾向がみられる。

(5) 旧田野町～都城市

	2000～2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	
旧田野町 西工業団地周辺	2006 年 10 月 10 日×	—	—	—	—	—	注 40
旧田野町尾脇	2006 年 10 月 10 日○ 幼虫 10 数頭 2007 年 9 月 8 日△ 2008 年 9 月 10 日◎ 成虫多数 2009 年 10 月 11～12 日◎ 幼虫多数	9 月 9 日◎ 約 60 頭 10 月 1 日◎ 成虫数頭 ・幼虫多数	9 月 8 日○ 数頭 10 月 12 日◎ 幼虫多数	9 月 10 日△	9 月 10 日△	9 月 12 日○ 2♂1♀、卵少 [50 頭]	注 41
旧田野町 井倉川左岸林道		—	—	—	—	9 月 12 日×	

旧田野町 持田～鰐塚山	2002 年 8 月 25 日×	—	—	—	—	—	注 42
旧田野町 持田～倉谷		9 月 29 日×	—	—	—	—	注 43
旧田野町 楠原付近	2002 年 8 月 25 日×	—	—	—	—	—	注 44
別府田野川左岸 林道	—	—	—	—	9 月 10 日○ 2♂	9 月 12 日○ 1♂、卵少 [20 頭]	注 45
旧田野町 片井野川	2002 年 8 月 25 日×	—	—	—	—	—	
旧田野町 片井野トンネル	2006 年 10 月 10 日▲	10 月 1 日○ 成虫 1♂1♀ 幼虫約 30 頭	9 月 8 日○ 約 10 頭	9 月 9 日○ 1♂1♀	9 月 10 日○ 2♂	9 月 12 日○ 1♀、卵少[30 頭]	注 46
旧田野町 倉谷～大戸野越	2002 年 8 月 25 日×	—	—	—	—	—	
旧田野町 天神ダム	2002 年 8 月 25 日×	—	—	—	—	—	注 47
道の駅山之口～ 青井岳	2007 年 10 月 1 日×	—	—	—	—	—	注 48
旧山之口町 五十山	—	—	—	—	—	10 月 14 日×	
道の駅山之口	2007 年 9 月 30 日○ 幼虫約 40 頭	10 月 1 日○ 幼虫約 30 頭	—	9 月 9 日△	—	10 月 14 日○ 幼虫 1 頭	注 49
旧山之口町 古大内川林道	—	—	—	—	—	10 月 14 日×	
旧山之口町 野上付近	—	—	—	—	—	10 月 14 日○ 幼虫 3 頭	注 50
旧山之口町 東岳川左岸	—	—	—	—	—	10 月 14 日×	
旧山之口町 あじさい公園	2000 年 9 月 5・11 日△ 2007 年 10 月 1 日○ 1♂	10 月 1 日○ 幼虫約 10 頭	—	9 月 9 日△	—	10 月 14 日×	注 51
三股町 榊安森林公園	—	—	—	—	—	10 月 14 日×	
都城市 鷹ヶ岡林道	—	—	—	9 月 9 日○ ♂数頭	—	10 月 14 日▲	注 52
旧北郷町 板谷～大戸野越	—	—	—	—	—	8 月 13 日×	注 53

- 注 40) シバハギは未発見。売れ残った広大な更地にヤハズソウが大繁茂し、シルビアシジミの一大発生地となっていた。そのシルビアシジミが 2013 年に突然激減した原因は正確には分らないが、ネオニコチノイド系農薬の蓄積や、タイワンツバメ同様寄生蜂の異常な増殖が関係している可能性が高い。
- 注 41) 小岩屋 (2010) が図示した場所 (月刊むし 469 号、p. 18 の写真 6 と 7)。下部の農道両脇と上部の伐採跡地に分けられる。ともに 2011 年までは好適な生息環境を維持していたが、上部では頻繁な草刈と杉・桜・もみじ等の植栽で次第にシバハギが衰退。2012・2013 年は全く成虫が見られなかった。しかし 2014 年ようやく回復の兆しが見られたので、この区域の中核的な生息地として復活することを期待している。なお、2011 年には農道脇の大株で 100 頭以上の幼虫が得られたが、飼育の結果は 90%以上が寄生蜂にやられていた。したがって、この寄生率の異常な高さも 2012・2013 年の不作につながったものと思われる。上部の草原では 2010 年に 2 株のヒメノハギを発見し、本種の卵も多数確認した。
- 注 42) 古く 1960 年代から生息地として知られた地域だが、現在は全くシバハギがみられない。
- 注 43) 倉谷部落付近もかつて多産地として知られていたが、現在はシバハギすら見つからなかった。
- 注 44) 1967 年に見つかった場所。現在は鬱蒼とした杉林で、草原的な環境は皆無。
- 注 45) 広大な伐採地跡の林道最奥部でシバハギを発見。発生数は多くない。
- 注 46) 片井野一帯は 1970 年初頭から広く生息地が知られていたが、現在はほとんどの場所でシバハギが衰退・消滅し、唯一この場所だけが旧田野町内のほかの生息地からやや孤立した形で残っている。2013 年初めには周囲の杉林がほぼ皆伐され、重機のキャタピラ跡や材木置場跡一面にシバハギの若芽が吹き出していた (写真 8)。今後の爆発に期待。
- 注 47) いかにもシバハギのありそうな環境が続くが、未発見。ダム東斜面上部には官製の土砂捨て場があり、2002 年に大量のシバハギ種子を播いたが、少し発芽しただけに終わった。現在は??
- 注 48) 青井岳は 1950 年代に記録があるが、現在はシバハギ自体未発見。ここから山之口方面にかけてシラス採土場や伐採地跡などの良さそうな環境が続くが、シバハギが見つからない。
- 注 49) 後背の急斜面基部に現在も少数のシバハギの株が残っているが、2007 年の発見当初に比べると見る影もない。過度の草刈で消滅は時間の問題か。
- 注 50) 今年ようやく見つけた新産地。シラスの小さな崖に数株のシバハギがへばりつき、幼虫がいた。いつまでもつか?
- 注 51) 2010 年以前に少数の発生を確認したが、過剰な草刈でシバハギが完全に消滅した。
- 注 52) かつての「大産地」(伝聞による)。2012 年にはわずかのシバハギしか発見できず、成虫も数頭見ただけ。
- 注 53) 途中は広大な伐採地跡と杉の植林地帯が広がる。これまで 2 度調査したが、今のところシバハギなし。でもどこかに残っている可能性はあると思う。

概括

(3)の地域同様、戦後間もなく植栽された杉林が更新されるべき時期を過ぎようとしており、現在急ピッチで伐採が行われている。したがって伐採地跡やダートの林道など、シバハギの繁茂する環境が今後も供給され続けることが期待できる。2012年と2013年には成虫の発生数が一時的に激しく落ち込んだが、これは既に何度も述べたように、幼虫に対する寄生率の異常な高さが主因と考えられ、実際今年は本地域のいくつかの場所で回復傾向がみられる。ただし、都城盆地東部の生息地は軒並み減少・消滅の危機にさらされており、近い将来この区域からタイワンツバメがいなくなる可能性は否定できない。

(こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6)

参考文献

- 小岩屋 敏、1969. 宮崎市周辺におけるタイワンツバメシジミの既知山地・新産地. 宮崎の蝶 (2) : 1-3.
 大塚 勲、1969. タイワンツバメシジミの新産地. 宮崎の蝶 (3) : 32.
 上田 恭一郎、1970. 1970 ; 夏の採集日記より. 宮崎の蝶 (5) : 25.
 永井 あつし、1972. タイワンツバメシジミの産地. 宮崎の蝶 (9) : 18.
 長渡 達夫、1974. 片井野でタイワンツバメシジミを採集. 宮崎の蝶 (12) : 18.
 高崎 浩一郎、1976. タイワンツバメシジミ、清武町木原に棲息. 宮崎の蝶 (16) : 6.
 高橋 宏、1976. タイワンツバメシジミの新産地. 宮崎の蝶 (16) : 15.
 後藤 俊明、1983. タイワンツバメシジミの新産地. 宮崎の蝶 (30・31) : 33.
 岩崎 郁雄、1985. タイワンツバメシジミの分布記録. 宮崎の蝶 (33) : 18-19.
 岩崎 郁雄、1985. 宮崎市市民の森にタイワンツバメシジミが棲息. 宮崎の蝶 (34) : 18.
 岩田 靖、1997. 宮崎県南の蝶類分布調査ノート (158) 都城市 (その4). めも蝶7 (5) : 68.
 岩田 靖、2000. 宮崎県南部のタイワンツバメシジミ. 月刊むし (357) : 10-13.
 小岩屋 敏、2010. 虫屋が実践する昆虫の保全 (10) -宮崎県のタイワンツバメシジミ. 月刊むし (469) : 16-22.
 など



写真1：台湾ツバメシジミ♂
(旧清武町、2014年9月12日)



写真2：台湾ツバメシジミ♀
(旧田野町、2014年9月12日)



写真3：旧清武町今泉の生息地 (2014年9月12日)



写真4：宮崎市伯田林道の生息地 (2014年9月16日)



写真5：宮崎市鏡洲の生息地 (2014年9月17日)



写真6：鏡洲から西方の伐採地を望む (2014年9月17日)



写真7：左から台湾ツバメシジミ♂、台湾ツバメ♀
と交尾していたツバメシジミの小型の♂、普通サイズの
ツバメシジミ♂



写真8：旧田野町片井野トンネル付近の生息地
(2014年9月12日)

宮崎県のゴマシジミの調査記録

小岩屋 敏

(*確認頭数は、ネットしたのち放した個体を含む)

<u>2002年</u>	(場所)	(確認頭数)	(備考)
8月16日	五ヶ所国見	全く見ず	「立入禁止」の看板を観察
<u>2006年</u>			
8月05日	トンネル出口右側(怒和ボ)	全く見ず	ワレモコウ1本のみ。明らかに早すぎた
8月08日	トンネル～三秀台～笹の原	全く見ず	ワレモコウがほとんどない
8月13日	トンネル出口右側(怒和ボ)	全く見ず	まだ早すぎ?
<u>2008年</u>			
8月18日	宮の上A(小岩屋ボ)	2♂1♀	♂も羽化したて。ワレモコウはそこそこある
	宮の上B～C	9♂3♀	飛び古した個体もいた(3♂2♀放蝶)
	原山～神原の東草原	全く見ず	ワレモコウなし
8月19日	宮の上A(小岩屋ボ)	2♂1♀	♂も羽化したて
	宮の上C	全く見ず	
	宮の上D	1♂2♀	まだ新鮮。ワレモコウはそこそこある
	宮の上C～Dより南の草原	全く見ず	ワレモコウ少ない
8月20日	宮の上C	2♂3♀	2♀放蝶
	宮の上D	全く見ず	
	笹の町南東の草原	全く見ず	ワレモコウなし
	トンネル～三秀台の南側草原	全く見ず	ワレモコウなし
	三秀台～種畜場	全く見ず	ワレモコウなし
8月26日	ひめゆり館の南方草原	全く見ず	1ヶ所ワレモコウが多かったがー
8月27日	宮の上A(小岩屋ボ)	1♂2♀	1♀放蝶
	宮の上B～C	3♂5♀	3♀放蝶
8月29日	トンネル出口右側(怒和ボ)	1♂2♀	2♀放蝶

(未調査区域)

- 1) 本村～岳部落の北方草原
- 2) 岳より奥、内の日の草原
- 3) 下畑～上畑の北方草原(小規模)
- 4) 笹の原～国見間の草原

2009年以降の記録及びその後の変遷については、稿を改めて報告したい。

(こいわや さとし: 宮崎市下北方町俣萩680-6)

鹿児島・宮崎・熊本3県でのホシボシキチョウの採集・飼育記録と生態

小岩屋 敏

下記のように、2ヶ所でホシボシキチョウを採集・飼育し、また生態の一端を観察することができたので、報告する。

(1) 鹿児島・宮崎両県にまたがる霧島山系北端の沢原高原(450~550m)〔自衛隊演習地〕

2014年9月29日、3♂2♀(うち1♀は宮崎県えびの市尾八重野、残りは鹿児島県湧水町)

2014年9月30日、4♀(全て鹿児島県湧水町、2♀は笹岡康則さん採集・筆者所蔵)

2014年10月4日、1♀・約10卵・8幼虫(1齢初期~終齢初期)(全て鹿児島県湧水町、1♀は小岩屋航採集・筆者所蔵)

(2) 熊本県上益城郡山都町大矢野原(450m)〔自衛隊演習地〕

2014年10月7日、1♂1♀

採集の経過

沢原高原はオオウラギンヒョウモンの生息地として有名になったが、筆者は一度しか行ったことがなかった。10数年前、鹿児島昆虫同好会前会長の福田晴夫さんと栗野のウスイロオナガシジミ調査に赴き、そのあと沢原にご案内いただいた。演習中の自衛隊員から「地元の方ですか?」と聞かれたことしか記憶にない。

宮崎のホシボシキチョウは、昨年初めて鹿昆の中峯芳郎さんが沢原高原の宮崎県側から1♂の記録を出した(岩崎郁雄編宮崎むし情報〔600-1〕、2013)。やっぱ宮崎県内でも真剣に探さなきゃイカンなあ、でも野外で飛んでいるホシボシはいったいどんな風に見えるのか。ともかく一度既知産地に出かけて探してみよう。と、まずは数日前鹿昆のメーリングリストに「採れた!」と報告のあった沢原高原に出かけた。

9月29日、高速を栗野で出て栗野岳温泉の手前を左折し、沢原高原に入る。左のダート道に進入するつもりが、あっという間に分岐点を通り過ぎて右側のダート道に入ってしまった。まあいい。時折飛ぶのは全部キタキチョウ。数百メートル進むと、野営している自衛隊の皆さんが見えた。付近の道沿いにはいくつか小さな黄色いチョウが飛んでいるが、これもキタキチョウか飛び古したツマグロキチョウ夏型の雌雄。でも後者はホシボシと食草が同じだから、ホシボシに一步近づいたといえる。

昼飯を食っている自衛隊の皆さんに近寄って「左下のダート道に出るにはどう行ったらいいか?」と聞くが、分からないらしい。みな「何しに来たのか」という顔。仕方なく前進。普通のセダンでは登れなさそうな急なダートの坂道を登りきると、またばらばらとキチョウ類が飛ぶ。走っては止め走っては止め、ネットしながら高台に上がる。なかなか見晴らしがよい。大回りして左折すると目的地に到達しそう。なおも付近を徘徊していると、ややくすんだ黄色いチョウがよたよたと道の脇を飛んできた。路上の小さな草に止まっては飛ぶ。産卵行動らしい。採ってみ

ると、待望のホシボシキチョウの♀だった。時刻は12時30分。なんだかあつけない。止まった草はヤハズソウのよう。当然卵はない。付近にカワラケツメイは見当たらない。採った♀を生かして吹き流しに入れ、車の中にぶら下げる。地図で確認すると、県境から300mほど宮崎県側だった。

なおも前進しながら左折し鹿児島県側に進入して、キチョウ類を採る。ここでもキタキチョウか、飛び古したツマグロキチョウ夏型の雌雄。羽化したてのピカピカのツマグロキチョウ秋型♂も。やがて、左側が広く裸地になっている窪地風の地形が現れた。ホシボシキチョウはサバンのチョウらしいので、ここはなかなかよさそうだ。車を停めて窪地に進入。13時から30分の間に、2♂1♀のホシボシを採集することができた。ここにはキタキチョウやツマグロキチョウも多かった。ほかには入り口付近でミドリヒョウモンの♀とゴイシジミ。

なおも進むと、当初の目的地だったダート道に到着。ネットを持ったおじさんが一人いた。「いますか?」と聞くと「いません」との答え。別れて更に前進。演習地の看板が立っているゲートから引き返し、200mほど走った道端で、何となくあやしいキチョウ。採ってみるとホシボシの♂。14時30分だった。どこかこの近辺で発生しているのだろうが、一向にカワラケツメイが見つからない。カワラケツメイを見つけないければ、卵や幼虫は探しようがない。

さすが高原。3時を過ぎると風が冷たい。キチョウ類も飛ばなくなった。親がいなけりゃ草を探すしかない。初めに♀を採った地点に戻って付近を探す。ようやくバラバラと生えているカワラケツメイを見つけた。高さ10~20センチほどのヒョロヒョロした株が、メドハギやササやカヤ類などいろんな雑草に紛れて、道傍の側溝の底や側壁に生えていた。なかには30センチほどの株もあるけど、よっぽど気合を入れて探さないと見つからない。

よしよしこれで少なくともさっきの♀が生んだ卵は簡単に見つかるじゃろ。この辺の卵も幼虫も全部ワシのもの、とほくそ笑んだが世の中そうは甘くない。とにかくカワラケツメイが多すぎる。無数にある。砂浜で昆虫針を探すようなものである。20分ほどで諦める。帰途は宮崎側を下り、駐屯地の裏を抜けてえびの高原から降りてきた道路へ合流。広域農道を快調に飛ばし、高原町から高速に入って帰宅した。

翌30日、家を出てまもなく笹岡さんから電話。「仕事を抜けてホシボシ採りに行きたい」。宮崎西で拾って、昨日のコースで沢原へ。今度はすんなり左のダートを進む。昨日の窪地を二人でウロウロして、仲良く2♀ずつ採集(12時~12時半に3♀、14時に1♀)。私の2♀は生かす。卵・幼虫は依然として発見できない。いったいどこへ隠れているのか。なお、あちこちでワレモコウを見る。笹岡さんは来年の8月下旬、ゴマシジミ探しに沢原に来るそうだ。帰途、オオウラギンヒョウモンの♀を1頭。でも、飼育するのが面倒になって、翌日自宅の前で放免した。来年は家でオオウラギンが採れるかも(???)。

10月4日。息子を連れて3度目の沢原へ。窪地の入口で路上を薄黄色いチョウが飛んでいる。「採ってみろ」と息子に下知。運よくホシボシの♀だったが、結局この日成虫はこの1頭のみ。息子がススキ原を漕いでいるあいだ、私は卵・幼虫の探索。前回の調査で、側溝や草原内の背の高いカワラケツメイはダメだと分かったので、カンカン照りのダートの路面に単独で生えている、

高さ5～10センチほどのごく小さなカワラケツメイに目を付ける(写真1)。この作戦は見事にハマった。早が飛んでいたすぐ近くの小さな株で、すぐに産みだしたの卵が見つかった(写真2の丸囲み)。その時は気づかなかったが、この株には中齢幼虫も同居していた(写真2の矢印)。若い莢の上で脱皮直後の幼虫も見つかった(写真3)。側溝に生えている株の場合も、10センチ以上の背の高い株では何も見つからないが、それ以下の株では若齢幼虫(写真4)や、終齢初期の幼虫(写真5)も見つかった。1時間ほどで、10個以上の卵と8頭ほどの幼虫が見つかった。もちろん、すべてがホシボシというわけにはいかないだろう。成虫の比で言えば、ホシボシキチョウよりツマグロキチョウのほうが5～6倍は多い。つまり、20頭前後の卵と成虫が全てうまく育ったとしても、その中でホシボシの羽化してくる数はせいぜい20頭の2割で4頭まで。へたをすると1～2頭しか羽化してこないかもしれないし、全部ツマグロだった、ということもあり得る。ここは自分の悪運に賭けるのみ。

飼育の結果は？

鹿昆のメーリングリストによると、熊本県の山都町でもホシボシの成虫が採れたとある。山都町といってもかなり広いが、多分大矢野原の自衛隊演習地だろう。天気具合を見て、10月7日、息子を連れて九州自動車道を走る。人の尻ばかり追うのは面白くないので、まず、大昔ホシボシの記録のある阿蘇南内輪の旧久木野村に向かう。ここには広い草原やゴルフ場や放牧地がある。もしホシボシが飛んできているなら、間違いなく世代を継いでいるだろう。

まずは土地勘のあるグリーンピア南阿蘇へ。好天に恵まれ、キチョウ類があちこちに飛んでいる。でも採る蝶採る蝶全部キタキチョウ。やがてツマグロが混じるようになったが、結局ホシボシはおらず。ついで、7、8年前たくさんツマグロが飛んでいた南阿蘇カントリークラブの南外周道路へ。でも、かつてカワラケツメイが茂っていた丘は雑草と灌木に覆われて、見事に「終わって」いた。

気を取り直して俵山南の峠を越え、吉無田高原を横目に一路大矢野へ。演習地に到着したのは午後1時。帰路の時間を考えると、探索できるのは2時間ちょっと。あちこち走り回る余裕はない。それに、轟音をたててアパッチが飛び回っている。演習地の端の、民間の車も走り回っている道路に車を停めて、路肩で採集することにした。初めはキタキチョウとツマグロばかりで、「こりゃ外れかな」という感じだったが、運よく13時30分にちょっと切れのある早を、また14時30分に新鮮な1♂を採集することができた。息子は残念ながらオケラ。

「犬の散歩時間に遅れる」とグズる息子を叱咤して、これも10年ほど前にびっしりカワラケツメイが繁茂していた旧清和村郷野原の草原に最後の執念を賭けたが、トマトハウスと杉林に変貌していた！

どのくらいの割合でホシボシが採れたかという、沢原、大矢野原ともに、おおよそキチョウ類20～25頭採るとホシボシが1頭入る、といった感じか。飛んでいる時に本種と分かることはまずないので、ひたすらキチョウ類を採りまくる。なかなかツライ採集ではある。それでも、採ればいいけど。午前中の南阿蘇では、二人で合計50～60頭くらいは採ったけど、結局ゼロ敗だった。

もう一つ「誤算」があった。カワラケツメイはそのへんにいくらでも生えている。とイージーに考えていたら、とんでもない考え違いだということが分かった。自宅付近の人家の周りや田んぼのあぜにあるのは、全てクサネム。沢原から抜いてきたカワラケツメイの株は、根ごとバケツに突っ込んでもほとんどがそのまま萎びてダメになる。こういう1年草は秋口には枯れるのだから、なるほど一筋縄ではいかないわけだ。結局台風の当日も含めて、3日おきにわざわざ片道1時間かけて椿山峠の手前まで新鮮なカワラケツメイを採りに行くはめになってしまった。

生かして持って帰った♀も、薄めた蜂蜜をやっても少ししか吸わない。萎びた葉に産卵した様子もなく、数日後には死んでしまった。

鹿昆の文献などでいろいろ調べると、秋口に九州に飛んできた♀を産卵させて飼育するには、春に種を蒔いて鉢植えのカワラケツメイをたくさん用意しておくのが正しいやり方らしい。なるほど。勉強になるなあ。

ところで、飼育の結果は次のようになった。

10月16日、ホシボシキチョウ1♀羽化

10月22日、ホシボシキチョウ1♂羽化

10月24日、ホシボシキチョウ1♂1♀羽化

10月27日、ホシボシキチョウ1♂羽化

10月29日、ホシボシキチョウ1♀羽化

つまり、全然ツマグロキチョウが羽化してこないのである。現場にはあんなにたくさんツマグロの成虫がいたのに、なぜ9月下旬の卵や幼虫にはツマグロが混じっていないのか???

生態図鑑を開いても、理由が分からない。そこであれこれ考えたあげく、あるアイデアが浮かんだ。それは「標高500m前後の内陸山地帯では9月後半には涼しくなるので、ツマグロ（の夏型生き残り♀）は卵巣の機能が低下して、産卵も行わない」という仮説である。9月下旬から羽化してくる秋型のツマグロ新成虫は、むろん越冬後にしか産卵しないのだから問題ない。一方、生態図鑑によれば、ホシボシのほうは低温になっても卵巣成熟が抑制されず、10月下旬でも産卵するという。（それならば、今後も9月下旬以降にカワラケツメイから卵や幼虫を見つけたら、それは全てホシボシということになるわけだ）

なるほど。一件落着。フィールドワークは面白いなあ。

ところが、ここでマズイことが起こった。残りの蛹3頭になって、まさかこの期に及んでツマグロが羽化してくるはずないよな〜と、ほんのちょっと余計な心配をしていたら、そのまさかが起こったのだ。

11月1日、ツマグロキチョウ1♂羽化（夏型!）

11月3日、ツマグロキチョウ1♀羽化（夏型!）

室内の長日条件で飼育していた関係上夏型が羽化してくるのは当然として、なんでツマグロが羽化してきたのか？ 答えはただ二つ。一つは、9月下旬の沢原高原でも、まだツマグロは産卵していたというもの。ただし、羽化した成虫の比からすれば、ホシボシに比べて産卵のペースがかなり落ちていたことは確かだろう。二つ目は、椿山峠から採ってきたカワラケツメイにツマグロの卵が付いていた、というもの（少しはチェックしたんだけど）。椿山峠は標高300mくらい

だが海に近いので、沢原に比べればかなり暖かい。まだツマグロが産卵していてもおかしくはない。

ともあれ、最後の蛹がどちらになるか？ 来年もホシボシは沢原や大矢野に飛んでくるか？なぜ宮崎の平野部には飛んでこないのか？（見つけてないだけかもしれないが）

まだ、調べたいこと、知りたいことが山ほどある。フィールドワークはホントに面白い。



写真1：ホシボシキチョウの卵や幼虫を見つけた現場。
路面や側溝にカワラケツメイの小さな株が散在する



写真2：ホシボシキチョウ卵（丸囲い）と
中齢幼虫（矢印）がいた小さな株



写真3：莢で脱皮直後のホシボシキチョウ中齢幼虫



写真4：複葉先端部で摂食中のホシボシキチョウ若齢幼虫



写真5：中脈上に静止するホシボシキチョウの終齢幼虫



写真6：摂食中のホシボシキチョウの老熟幼虫（側面）



写真7：ホシボシキチョウの蛹（無紋型）

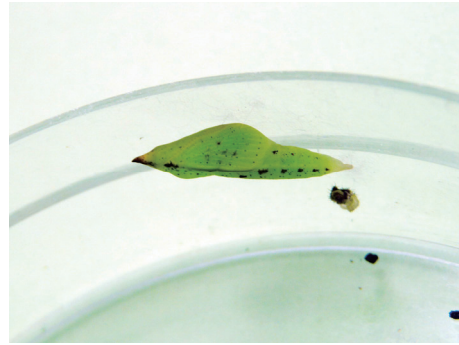


写真8：ホシボシキチョウの蛹（有紋型）



写真9：沢原産ホシボシキチョウの♂♀（左）とツマグロキチョウ夏型の♂♀（右）
それぞれ上が♂、下が♀。左下の♀は宮崎県産



写真10：熊本県大矢野原産ホシボシキチョウの♂♀
（左が♂）。沢原産とは少し斑紋の出方が違う



写真11：飼育羽化した鹿児島県沢原産の
ホシボシキチョウの♂♀（左が♂）

（こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6）

五ヶ瀬町鞍岡本屋敷でウラゴマダラシジミの原野型を採集

小岩屋 敏

筆者は本屋敷地内において、次のように本種を採集することができたので報告する。採集した個体は全て完璧な原野型！ほかに何頭かの♂を目撃したが、全て原野型と判定できる個体であった。

2014年6月19日、本屋敷～波帰（700m）、1♀（写真2・3の右下、写真6の右）

2014年6月20日、同、1♂（写真2・3の左上、写真6の左下）

2014年6月24日、同、2♂（写真2・3の左下と右上）

これまでのいきさつ

この地域での本種の最初の記録は、実に50年以上も前の1963年にさかのぼる。宮崎昆虫同好会前会長の永井あつしさんが、1963年6月6日、本屋敷の谷筋で2♂を採集された。写真1がその時の1♂である。羽化したての、見事な森林型！

その次は1969年3月8日、波帰奥の標高950m地点で筆者が「ミヤマイボタ」から2卵塊9卵（2卵＋7卵）を発見したが、残念ながら全て寄生されていて1卵も孵化することはなかった。以来、波帰の奥、本屋敷～国見峠、笠部～道の上などで細々と探索を続けたが、イボタ類は多少見つかるものの、いずれも単独で生えていることが多くて、とてもウラゴマが継続して生息を続けるほどの場所は見つからなかった。こういう状況が10数年続いた後、高崎（1985）は「西臼杵郡五ヶ瀬町白岩山麓本屋敷と波帰の（ウラゴマダラ）生息地は伐採のため消滅し——」と結論を出すに至っている。

その後も倉本川や小川川、荒谷～白滝方面、祇園山、熊本県蘇陽町（現山都町）白石・神の前地区など、思い付く限りの地域を探索したが、どの地域でも半日探してイボタがやっと1～2本あるかどうか、という厳しい状態。1日車で走り回って全くイボタが見つからない日も珍しくない。数年前には、かつて怒和貞賞氏が「イボタが多い」（宮崎の蝶16号、1976）とメモされた渡瀬地内の小さな谷を、木合屋部落奥の狭い林道を詰めた上流部からと、五ヶ瀬川本流の分岐部から岸壁下を遡上する二つのコースで調査したけど、何とイボタ1本すら見当たらなかった。全て鹿に食われたのだろう。

というわけで、本当に鞍岡のウラゴマダラは絶滅したか、例えかろうじて残存しているにしても、もう私が生きているうちに見るチャンスはないだろうとほとんど諦めていた矢先、とんでもないニュースが舞い込んだ。2009年6月下旬のとある日、鹿児島県の二町さんから「波帰で新鮮なウラゴマダラの♀を採った！」というメールが飛び込んできたのだ。すぐに電話。

二町さんの話によると、『福田晴夫さんとヤマキマダラヒカゲの調査で鞍岡に来て、波帰の少し下の、道路と小さな沢の出会い付近でネットを振っていたところ、沢の上流から白いチョウがフラフラ飛んできた。採ってみたらウラゴマ♀だった』そうだ。やっぱりいたのだ！ しかも、当然と予想していた森林型の♀ではなく、白色部が広い原野型だという。そんな馬鹿な！ でも添付メールで写真を送ってもらったら、非の打ちどころのない原野型だった。これは非常にマズ

イ。永井さんが採ったものが2頭とも森林型だった以上、この地の早も森林型でないとマズイ。月刊むし 473 号 (2010) に掲載された私の小論文だって、鞍岡はちゃんと森林型の領域に入っているのだ。マズイぞ！ あの辛い探索行をまた繰り返さなきゃなんのか——でも、羽化したのの早もが採れたからには、すぐ近くに発生木があるに違いない。今度こそあの赤い卵を鞍岡で見つけるのだ。あ〜でもない、こ〜でもない、あれこれ考えているうちにいつしか眠りに落ち、脳みその中をウラゴマダラが乱舞するのであった。

因みに、二町さんは悩んだ挙句このピカピカの早を生かして産卵させようと努力したのだが、不運なことに未交尾だったらしい。

辛い探索の日々は続く

2009 年 12 月 18 日。前夜は延岡泊まり。勇躍向かった鞍岡は、例年になく積雪が早い。路上で 10 センチ、雪溜まりだと 20〜30 センチ。二町さんが早もを採った地点から小さな沢に取り付き、木につかまり雪を蹴立てて斜度 30 度〜40 度の急斜面を這い上がる。いくら探してもイボタ 1 本見つからない。とうとう 300m 上の林道に出てしまった。林道を 1 キロ進むが伐採跡ばかり。諦めて下る。波帰部落近くで、道端のモミジからミスジチョウの越冬幼虫を 3 頭拾う。良かった、これでゼロ敗食らわずにすんだ。二町ポイントから少し下り、腐食した鉄板橋を渡って対岸へ。オニグルミやシオジの林を抜けて遡上。雪を被って湿った岩に足を取られながら 200m ほど歩くと、ようやく待ちに待ったサイゴクイボタが現れた。でも、高さはせいぜい 30〜50 センチほど。あちこちの枝を鹿に食われたらしく、ほとんど幹ばかりの何とも情けない樹形。まだ生きてはいるけど、今にも枯れそう（実際、2014 年にはもうどこにもイボタは見当たらなかった。波帰谷下流部のイボタも絶滅した）。数本のしょぼいイボタを空しく睨んで、今回も諦めムード。あ〜、鞍岡のウラゴマはイヤだイヤだ。でもこのままウラゴマゼロはあまりにも辛い。昼から熊本県津留に回ってヤナギイボタで 8 卵採ってようやく落ち着く。

2010 年、2011 年と徒に時は過ぎ、「卵がダメなら成虫があるさ」と気を取り直して鞍岡に出かけたのは 2014 年。まず、景気付けにと、カミさん連れて 6 月 7〜8 日に椎葉村や高森方面でウラゴマ蛹を探す、2 日で 10ヶ所以上回ったのに尾手納で 2 生蛹（のち 2 ♀羽化）と津留で 1 死蛹だけ。イボタ類の花は低地でもまだほとんど咲いておらず、例年より 1 週間遅れ。菅尾の孤立イボタはとうとう根元から切られた。原山のヤナギイボタはすぐそばまで杉林が皆伐。乾燥が酷くなってもウラゴマは産卵しないだろう（生き残っていればの話だが）。下生えのイボタ・クロウメモドキは大全滅。幸先が悪い。8 日の 4 時前ようやく本屋敷に到着。波帰奥までの谷筋で 3ヶ所停車して谷沿いの対岸を凝視するが、確実にウラゴマダラと思えるシジミはとうとう見るこ

とができなかった。もしいるとしても、まだ少し羽化には早いか。

6 月 14 日。一人で鞍岡本屋敷へ。永井さんが記録した 1963 年 6 月 6 日から 51 年と 8 日目。この谷にまだウラゴマが生き残っているのなら、そろそろ早もが出てくるタイミングだ。運よく、波帰大橋の真下でピカピカのメスアカミドリを採る。でも標高 800m ではまだウラゴマは出ていないかも。二町ポイントから少し下って、2009 年冬にイボタを見つけた対岸の竹林を凝視する。白い花の周りを何かが飛んでいる。距離は約 50m。白い花はヤナギイボタ?? でも、葉が大き

ぎるし、花の感じもちょっと違う。双眼鏡でよく観察。アワブキの花らしい。残念。しかし、梢をチラチラ飛んでいる白っぽいシジミはどうみてもウラゴマダラのみ！！ やっぱりいたか。とりあえず成虫に目を付けたのは正解だったが、どうやって採ろうか？ 地上からの高さは7～8m。ジュラルミンの4本竿やカーボンの5本竿では全然届かない。とりあえず、例の鉄板橋を渡ってアワブキの木の下まで行ってみた。アワブキの花では吸蜜はしないが、白い花が気になるのか、その周りをよく飛ぶ。かと思うと、時折咲き始めた栗の花に向かう。高さ10数mの栗の大木の梢を、2頭のウラゴマダラが活発に飛翔する。ただただ見上げるだけ。次は8m竿を持ってくるしかないけど、果たして敏捷に飛び回るみがネットに入るだろうか。今日のところはこれまで。車に戻って握り飯を食いながら、カミさんに電話。

「いや～、みがブンブン飛んでるけど、高くて全く手が出ん」

「ホントにウラゴマダラなの？」

「お前、誰に向かってモノ言うてる、ワシは業界では神様なんやぞ！」(スイマセン)

「あっそう」

しょうもない会話を続けていると、30mほど離れたこちら側の崖の上に、白い花の咲いている4mほどの灌木が目に入った。ヒョウモンやスジグロチョウが周りを飛んでいる。もしやヤナギイボタ？？？

「あ、なんかヤナギイボタみたいな木があるわ。ちょっと待ってくれ」

携帯を握りしめて崖に向かう。それは3分咲きのヤナギイボタだった。

「やっぱヤナギイボタじゃ！ほかにないかもっと探してみるわ」

「ホントにヤナギイボタなの？」

「ワテはプロだす！！」

「はいはい、気を付けて」(いつもだいたいこんな会話)

それから30分。50m離れて5mほどのヤナギイボタ。200m離れて10m近い見事なヤナギイボタ老木(写真4)。更に20m離れて杉林から頭一つ抜け出した10mの老木が見つかった。老木の1本は5分咲き、最も高い1本はほぼ満開。

やったやった、これでもう採ったも同然！うす暗くなった現場を離れ、気持ちよく帰途についた。

ついに♀を採る！

ようやく天気が回復。6月19日、カミさんを連れて自宅を出る。まずは余裕かまして原野型ウラゴマの既知産地である桑野内へ。数年前ヤナギイボタ壮年木を含む竹林やブッシュがばったり切られた斜面を撮影。もとのブッシュになりつつあるが、もうここでウラゴマが発生することはないだろう。せっかく見つけた生息地が、伐採によって次々に消滅するのは哀しいものがある。九州中部のウラゴマは大珍品なのに。せめて記録だけは残しておきたい。

12時半、目的地に到着。斜面を這い登って、満開に近い老木の根元に到達。急な斜面に生えているため、8mの繋ぎ竿でも上部には全く届かない。梢から垂れ下がった枝先にかろうじて届く程度。クソ重い長竿に悪戦苦闘しながら白い花の塊を叩く。バラバラと花が落ちてくる。ふと、低

い位置の枝から、シジミにしては大きすぎる白いものが飛び出して、よたよたと真横に飛翔しながら、竹に絡んだカラスウリの葉の辺りに止まった。

嫁が「蛾だ!」と叫ぶ。シャクガと思ったらいい。でも、鈍重な直線の飛翔はシャクガとは違う。

「ウラゴマだ!」と叫んで、斜面を這い上がり、距離を合わせて 4m のカーボン竿を振ると、風を受けて膨らんだメッシュのネットのなかで、黒いシルエットがバタバタと暴れていた。

「おら、ウラゴマの♀じゃい!」と、無言の嫁に見せる。前翅の一部が切れてはいるが、新鮮で巨大なウラゴマダラの♀。二町さんが採ったのと同様の、見事な原野型。そのまま生かして小型シャーレに收容する。時刻は午後 1 時 30 分。1, 2 度、てっぺんの周りをのびのびした個体が飛び回るが、全く手が出ない。更に斜面を這い登って、木の上側に回り込む。一面に茂る竹や灌木が邪魔になって動きが取れないので、ノコと剪定鋏で片っ端から切り払う。30 分かけてネットを振り回せる空間と、二人がしゃがみこめるくらいの隙間を作り、ウラゴマ♂との空中戦に備える。

更に何度か♂が飛んできたけど、花には全然止まらない。飛翔中を狙っても、早すぎてネットが追いつかず、飛翔の軌跡を追いかけているだけ。空しく数時間を浪費してギブアップし、本屋敷の民宿白岩に投宿した。

空中戦で♂も採る

翌 20 日。朝から♂が飛ぶことはない。この日も余裕かましてまず荒谷部落はずれの 3 m ほどのサイゴクイボタを見に行く。木は健在だが、ほとんど食痕がない。何度探しても、この木では卵も幼虫の食痕も見つからないが、奇跡を信じて探し続けるのみ。次は祇園山を越えて、向かいの大石部落のはずれへ。道端の植栽されたタダイボタも健在だったが、だいぶ刈り込まれている。もちろん何もいない。

午後、ようやく♂が飛んでくる。てっぺんの花の周りを高速で飛翔しては、隣の杉の木に沿って次第に高度を上げ、遠ざかっていく。1 度は花に止まったが、あと 1 m ほど届かない。空しく眺めること数分、一か八か思い切ってネットを飛ばしてみたが、直径 50 センチのスプリングにうまく入ったかに見えた個体は、バタバタと飛び去ってしまった。残ったネットが竿ごとヤナギイボタの枝に絡んでしまって落ちてこない。10 分ほど悪戦苦闘して、ようやく取り戻す。

午後 3 時、運よくネットの届く手前側の花に止まった♂を採ることができた。見事な原野型の♂!

ヤナギイボタの枝とともに吹き流しに放した♀は、帰宅するまでの 28 時間で 23 卵産んでいた。順調!

6 月 23 日、嫁と日帰りでもた現場へ。夕方から池内小で学校関係者評議委員会があるので、採集時間は 12 時から 14 時半まで。何度か花に止まったが、遠すぎて取れず。この日の「収穫」は、嫁のズボンを這っていた直径 6 ミリほどのマダニ 1 匹 (写真 5 の右)。

6 月 24 日、またも嫁付き日帰り採集行。明日からは 3 日連続昼間の会議なので、この日が今年最後のウラゴマ成虫採集になるだろう。天気はまずまず。12 時から 17 時まで現場に居座り、まず 13 時 45 分に空中戦で 1 ♀、続いて 15 時 15 分に花に止まった 1 ♀を採ることができた。もち

ろんマダニも1匹追加。今度も嫁のズボンを這っていた。胸部背面が白くなる型（写真5の左）で、昨日のとは多分別種だろう。夕刻、日の当たっている杉の梢に沿って、キラキラ光りながらひが飛び回るのを、名残惜しく眺めながら帰路についた。こうして、アドレナリン出ずっぱりの2014年6月が過ぎていった。

今後の課題など

今のところ原野型対森林型＝5対2である。今回は一定数の卵を確保できたので、飼育個体による原野型と森林型の割合がどうなのか、ぜひチェックしてみたい。これまで九州で両型が安定して出現する個体群は、唯一椎葉村尾手納付近の個体群だけであり、その比は原野型対森林型＝1対15であった（小岩屋、2010）。本地域の鞍岡個体群はそれに次ぐ第2の両型混合個体群ということになる。

また、写真6で分かるように、本個体群の雌雄は、自然状態で非常に大きい。左上の椎葉村尾手納産の♀は野外採集の蛹から羽化したものなので、これがそのまま尾手納個体群の自然状態の大きさと判定できるが、鞍岡個体群は♂で既にこの♀と同等の大きさがある。♀に至っては、恐らく九州のウラゴマダラとしては最大の大きさと思われる。一生懸命真面目に飼育して、巨大な個体を羽化させてみたいものである。



写真1：1963年に本屋敷で採集された♂
(典型的な森林型)



写真4：ヤナギイボタの老木



写真2：2014年に本屋敷～波埴間で採集された4頭
(表面)



写真3：2014年に本屋敷～波埴間で採集された4頭
(裏面)



写真5：マダニ2種



写真6：椎葉村産♀（左上）と
本屋敷～波帰間で採集された♂♀の比較

(こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6)

コラム2 怪我の功名？

5年前、脚の膝関節を手術して満足に歩けない状態になっています。しかし、それが幸いしたのか、そこら辺の路傍でスウィーピングしたり、道路脇の立枯れ木のスプレイングをしたりと身体に合った採集をするようになって「新たな境地が開けた」と負け惜しみを言っています（笑）。

原因はこうでした。5年前の3月、ショッピングセンターの入り口のガラスドアに正面からぶつかって・・・思わず振り返って受け身を取ったのがいけなかった。靴底が滑らず膝関節だけグルリ・・・と。自分で半月板をそぎ落としてしまった・・・まさにFITにかかった昆虫のよう（笑）。術後、4月一杯リハビリしながらの入院生活をして「まだ無理」という医者忠告を振り切って5月連休前に退院しました。連休頃に出るクビボソハムシの仲間を追加採集したい一心でした。前年、アザミで採ったルリクビボソハムシの小型種が「新種」と久留米の今坂氏に進言して、当時、北大でLemaを研究していた松村洋子博士に調べてもらっている最中でした。連休中に数頭採って送り、おかげで翌年、「Journal of Natural History」に連名で記載報告ができました。「ササキクビボソハムシ」の誕生秘話です。「たかが虫のため」そのために脚は未だに完治しないまま。定年後も車を脚代わりに野山を駆け巡っていますが「路傍採集？」でも結構面白い出会いが毎年続くので、当分再手術はお預けです。

(佐々木茂美)

鰐塚山系並松山南部（旧北郷町）でキリシマミドリシジミ成虫を採集

小岩屋 敏

2014年8月10日と11日、下記のようにキリシマミドリ成虫を採集することができた。本種は鰐塚山地一帯に記録はあるが、いずれの地でも密度はあまり濃くない。

2014年8月10日、2♂2♀ 並松山南部斜面（550m）

2014年8月11日、5♂ 同

台風11号に乗ってタッパンルリが飛んできているかも、と甘いことを考えて鰐塚山頂を目指したが、田野側の林道は前日までの大雨で崖崩れが多発し持田以南で通行止め。仕方なく東方向に山越えして県道28号線に出て、田野・北郷境界の大戸野越からダートの板谷林道に乗り入れ、北郷側のトンネル入口へと向かう。台風の大風や大雨の影響であちこちに小規模な泥流跡や吹き飛んだ枝が散乱しているが、何とか走り抜ける。もう少しで広渡川最上流部横谷から北へ遡上する鰐塚登山道に合流しようという地点で、右側から落ち込む小谷の泥流が杉の倒木を巻き込んで林道を塞いでいる。高さ50センチもの、土石と木の塊。ランクルでもどうにもならない。立ち往生していると、じきに別の車が来た。工事関係者らしい。「すぐ向こうまでブルが来ているので、呼んでくる」と言うので、いっしょに徒歩で林道を下る。300mほど歩くと登山道に合流。そこから鰐塚山頂方面に100m上がった道端の真新しい伐採地跡が崩落し、ついさっきまで登山道を塞いでいたらしい。今はブルが土砂を排除して車1台通れるほどの隙間ができています。ブルの運転手さんの話では「一昨日山頂のテレビ塔の保守点検に上がった職員がここの山崩れで下山できなくなり、2日間山中に閉じ込められた」そうだ。荒れ狂う風雨の中で、さぞかし心細かったことだろう。

「すぐそちらに取り掛かる」と言うので、いっしょに泥流の現場に戻る。ブルが仕事している間、ぼーっと辺りを眺めていると、マテバシイの樹上を目まぐるしく飛び回る金緑色のきらめきが目に飛び込んできた。たまに梢に止まる。高さは8mくらい。持っているネットでは全く届かない。もう1頭。2頭で激しく絡み合ってどこかへ飛んでいった。あまりの速さに視線がついていけない。数分後、1頭が戻ってきた。

「ヒサマツかな？？」。

50年近く前、京都の杉峠で採集した♂の雄姿が蘇る。頂上に登るのは止めて、今日はヒサマツ採集だ。でも、とにかく高くて速い。1時間ほどむなしく空を見上げた挙句、少し場所を変えることにした。300mほど戻ると谷が狭まって、谷床と道路がほぼ同じ高さになる。対岸のアカガシの梢や、こちら側のツクバネウツギの梢を舐めるように、金緑色の閃光が走る。メスアカミドリやエゾミドリのように狭い空間を占有するのではなく、幅10m、高さ5m、長さ50mほどの空間を縦横無尽に走り回る。その広い空間のどこかに、突然静止する。

悪戦苦闘してようやく採集すると、それはヒサマツではなくて飛び古したキリシマだった（写真1の左上♂）。見事にボロボロ。でも、野外採集のみだ。飼育した個体と違って、そのボロボロさ加減には何ともいえない趣がある（？）。更に1♂。これはまずまず。道脇を片っ端から叩いたら、♀が飛び出した。飛んでる♀は実に変わった色合い。いきなり眼前を横切られると何が何だか分

からない。蛾かと思った。焦って、タデの葉上に止まったのを見事に取り逃がす。老人になると、信じられないドジがちよいちょい起こるものだ。でもまたすぐ別のタデに止まった。やっとゲット。50m ほどの道沿いを行ったり来たり。「これが最後」と3回目を叩いたら、シイからまた♀が落ちてきた。2回目までは動かなかったとしたら、よほどしっかり葉にしがみついていたのか。今日はこれで終わり。

キリシマのボロでもいいや。やっぱ成虫採集は面白い。翌日もノコノコ出かける。こんどはしっかり8mの長竿。マデバシイの梢に静止するのを、次々に5♂採集する。いずれも、いわくありげなアヤシイ傷がある。少し下の、谷が開けた明るい場所では、裏面が少し褐色っぽい♂がウラジログシの梢に執着している。距離は15mほど。石を投げると、ムラサキシジミよりはやや大きな黒っぽい個体も飛び出した。ヒサマツミドリ雌雄の可能性が高いが、結局確認はできなかった。もちろん、ボロでも裏面が白く光るキリシマミドリの♂も飛び回る。3♂がからんで乱舞するのはなかなか見ものだった。

さて、ボロの個体9頭全てを図示したのは深いワケがある。しばしば、左右対称な位置に不自然な切れがあるのだ。例えば、写真1の右上♀の後翅。左下♂の肛角部も怪しい。左上のボロボロ♂に至っては、少し位置や大きさに違いはあるものの、前翅に1対、後翅に3対も左右相同の切れがある。2枚目写真の右の1頭や、中央上の1頭にも前翅に同様の左右対称な切れ。タップンルリの報告でも述べたように、小型のチョウはトンボの格好の攻撃対象になる。この谷でも、多数のウスバキトンボやオニヤンマが空間を遊弋したり突起物に静止して待ち構え、目にもとまらぬ速さで飛翔するキリシマミドリに向かって、これまた目にもとまらぬスピードでアタックするのを何度も目撃した。アヤシイ切れはトンボのアタックの結果に違いない。そこで、実際にウスバキトンボを捕まえて、ルリシジミの前翅を齧らしてみた。その結果、多少の変異はあるけれども、キリシマ♂の切れとよく似た切れになった。オニヤンマの場合にはやや凹凸のある横幅の広い切れになり、この形状は1枚目ボロボロ♂の右後翅外縁や、2枚目左上♂の右後翅内縁部の切れに相似する。むろんトンボはじっと動かない目標には反応しないので、左右対称の切れの意味は、羽を閉じて静止した瞬間を攻撃されたものと考えられる。片側だけの不自然な切れは、飛翔中に攻撃されたものか。鳥に攻撃された場合のくちばし型のキズや切れはビーク・マークと呼ばれるが、トンボに攻撃されたと思われる切れは何と呼ぼうか。平凡にドラゴン・マークか？

鰐塚のてっぺんで毎日ぼーっと虚空を見上げていると、小型のチョウを狙って文字通り数百頭（あるいは数千頭？）のトンボが空中戦を仕掛け、それを避けるためにチョウたちが時には急降下し、時には右往左往し羽ばたいて捕食から逃れようとするシーンを半日に10数回も目撃することができる。ある時にはアサギマダラさえもオニヤンマに急襲され、アサギとはとても思えないバタバタと狂ったような飛翔で天空に昇っていった。

トンボに食われるチョウの数は、きっと私たちが考えているよりはるかに多い。キリシマ♂たちの向う傷は、そのことを雄弁に語っているように私には思える。

もう一つ、別の疑問。ここのキリシマたちは、毎年この谷を人知れず乱舞していたのだろうか。それが、偶然に台風の崩落で足止めを食らったおかげで、人目に触れることになったのか。それとも、台風の激しい西風に吹き飛ばされて、たまたま東西に走るこの狭い谷間に吹き溜まっただ

けなのだろうか。来年になれば、多分その答えを得ることができる。7 月半ばにまたこの谷に戻るのが待ち遠しい。

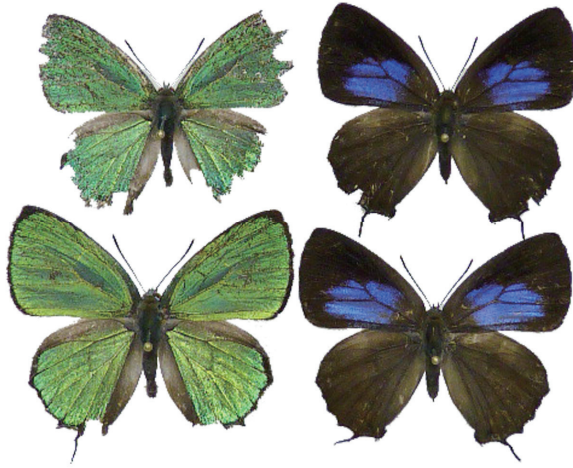


写真1：2014年8月10日に採集したキリシマミドリの♂♀



写真2：2014年8月11日に採集したキリシマミドリの♂

(こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6)

日本のタッパンルリシジミは迷蝶である！！

小岩屋 敏

まず、2010 年～2014 年の著者の、宮崎県鰐塚山での探索記録を報告する。特に何も書いてない場合は全て山頂での記録。

2010 年

- 7 月 26 日、タッパンルリシジミ 2♂
- 7 月 27 日、タッパンルリシジミ 2♂ 1♀
- 7 月 30 日、採れず（強風）
- 8 月 01 日、採れず（強風）
- 8 月 02 日、タッパンルリシジミ 4♂ 1♀
- 8 月 03 日、採れず
- 8 月 04 日、採れず（雨）
- 8 月 06 日、採れず
- 9 月 29 日、採れず（中腹まで。タデの花でルリシジミ 3♂ 5♀）

2011 年

- 6 月 17 日（中腹まで。サツマシジミ 1♂、ルリシジミ 5♂）
- 6 月 22 日、採れず（サツマシジミは多い。ルリシジミは見ず）
- 6 月 29 日、採れず（サツマシジミ 1♀、ルリシジミ多い。ヒサマツミドリ♂目撃）
- 7 月 14 日、採れず（サツマ・ルリシジミ・ヤクシマルリシジミともにゼロ）
- 7 月 25 日、採れず（サツマ 1♂目撃、ルリシジミ・ヤクシマルリは見ず）
- *後日、7 月 31 日に 2♀が採れたと聞いた。調べた限りではこれが 2011 年度唯一の記録

2012 年

- 7 月中下旬に 3 回山頂に上がったが、採れず（詳しい記録はつけていない）
- *ほかにも確かな記録はない

2013 年

- 7 月 20 日、採れず（サツマ・ルリシジミ・ヤクシマルリ見ず）
- 7 月 24 日、採れず（同）
- 8 月 02 日、採れず（ヤクシマルリ 1♂。サツマ・ルリシジミ見ず）
- *ほかにも確かな記録はない

2014 年（小岩屋敏・小岩屋航 2 人分）

- 7 月 21 日、タッパンルリシジミ 1♂（ルリシジミ 1♂・ヤクシマルリ 1♂）

7月22日、タッパンルリシジミ 6♂ (ルリシジミ 4♂・ヤクシマルリ 2♂1♀)
 7月23日、採れず (強風)
 7月24日、タッパンルリシジミ 4♂1♀
 7月25日、タッパンルリシジミ 2♂1♀ (ルリシジミ 6♂)
 7月26日、タッパンルリシジミ 1♂ (サツマ1♀)
 7月27日、採れず
 7月28日、タッパンルリシジミ 1♂
 7月29日、採れず (サツマ・ルリシジミもほとんど見ず)
 8月10日、採れず (台風直後で林道崩壊、山頂に上がれず)
 8月11日、採れず (ガスで全くダメ)
 8月13日、採れず (ルリシジミ 2♀)

タッパンルリは迷蝶か、土着種か？

それを判定するには、とりあえず状況証拠を丁寧に検証していくしか方法はない。

(1) 2010年の成果が全国に知れ渡ったのち、次の3年間、2011年～2013年は大勢の蝶愛好家が鰐塚山頂に集結した。7月20日過ぎから8月初めの土日は10数人の虫屋で山頂付近は「満員」。ウィークデイでも、天気がまずまずなら地元を中心に毎日数人が山頂付近にたむろした。延べ人数で言えば、1シーズンで100人は下るまい。それでも、2011年にкаろうじて2♀が得られただけで、2012年・2013年にはタッパンルリは1頭も採集されなかった。もし土着種なら、これだけの人数が狭い生息地に集まったのに、2年間でたった1頭のタッパンすら網に引っ掛からないということは確率的にありえない。これが、タッパンルリは土着種ではないという状況証拠の1番目。

(2) 仮に土着種なら、一般的なパターンとして、発生初期にはしりの新鮮な個体が出てきたのち発生数は緩やかに増加し、発生のピークでまだ多くの新鮮な個体が見られ、やがてだんだん数が減っていく。最後の個体が姿を消すまで、どのシジミでも通常1世代で1ヶ月くらいの間は成虫が見られる。

逆に迷蝶だとすれば、突然降ってわいたように一定数の新鮮な個体が現れ、日が経つにつれて次第に汚損しながら数を減じ、比較的短期間に姿を消すはずだ (そもそも、わざわざ遠くから飛んできたのなら、ある場所へ定住する性質は希薄だと判断できる)。そのことを実地に調べるには、とにかく「遠くから飛んできた」年に、然るべき場所に居座って、そこにいる個体をできるだけたくさん採集して、発生期間と数と鮮度の変化を経時的に記録するしかない。そのためには、鰐塚山頂一帯で一番成虫が採れそうな場所を特定し、タッパンが採れなくなる日までそこに延々と居座ることが必要だ。

チベットから帰国した7月20日の夜、安本さんと笹岡さんから「タッパンが採れた！」と聞いて、私は早速そのアイデアを実行することにした。7月21日、チベット疲れの体を引きずりな

がら、山頂一帯をくまなく歩いてタッパンの動きを観察。その結果、2010年の時とはタッパンの行動パターンが明らかに違っていることが分かった。2010年はかなり広い範囲に現れたが、今年は自衛隊レーダーサイト方面の引っ込み道には現れず、山頂付近のわりに狭い区域を回飛しているようだ。回飛コースの途中には5分咲きのリョウブとノリウツギが1本ずつあり、たまにタッパンが訪花するが、リョウブのほうは足場が悪いうえに逆光なので、ノリウツギに狙いを定める。山頂から10mほど下の急斜面に潜り込み、約3mの高さにびっしり生えたノリウツギ・シロモジ・イヌツゲ・サルナシ・コアカソなどのブッシュを切り払い、汗びっしょりになって5m四方の空間を作った(写真1)。

毎日、眼前のノリウツギを中心に、タッパンルリが梢から梢へと直線的に敏捷に飛び回る。ごくたまに奥のシロモジ葉上に静止するが、すぐに飛び立つ。少し大型のルリシジミは、ブッシュの凹凸にぴったりフィットして上下左右にせわしなく飛び回るので、タッパンとは飛翔中に識別できる。ヤクシマルリはその中間だが、個体数は少ない。

こうして、7月21日から29日まで連続9日間、すぐ上の道路際に息子が陣取り、私自身はこの場所に座り込んでひたすらタッパンが飛んでくるのを待ち続けた。このあいだ大勢の蝶屋さんが私より早く山頂に上ってきたが、私に敬意を表して下さったのか、Iさんを唯一の例外として、ほかには誰一人としてこの場所を先に占拠する人はいなかった。皆様方には心から「ありがとう」と御礼を申し上げたい。

唯一の誤算は7月26日の午後。この日は宮崎市主催の「えれこっちゃ宮崎総踊り」。自治会長になって10年、今年はとうとう宮崎市自治連の理事にも祭り上げられた。9年間皆勤賞の私としては、どうしても午後1時過ぎには山を下りて総踊りに参加しなければならない。11時05分にタッパン1♂探って、思い切り後ろ髪を引かれながら下山したところ、私の後に居座ったIさんの5♂2♀を始めとして、合計10数頭のタッパンがその日の午後2時から4時のあいだに採れたのだった！

発生期間と数と鮮度はどうだったか？

まず発生期間だが、2010年は鰐塚山最初の♀の記録(写真のみ)が7月22日だから、最後に採れた8月02日までわずかに12日間。2014年は、鰐塚山で最初に採れた日が7月20日、最後が7月28日だから、更に短くわずかに9日間。もしここで発生しているとしたら、どう考えたって採れる期間が短すぎる。一斉にどこからか飛んできて、またどこかに飛んでいったと考えるほうがはるかに合理的だ。これが迷蝶説の2番目の状況証拠。

次に、経時的な数の変化。これはやや判断が難しい。

2010年は7月22日の鰐塚1♀(多分♂もいたのだろうが)のあと、7月25日に高隅山で8♂、続いて鰐塚山で26日に2♂(写真2・3)、27日に合計6頭(写真4～6)。ここから漸減すれば素晴らしいが、8月2日に一気に10頭(写真7～11)。そして、この日を境にタッパンは忽然と姿を消した。同時にアサギマダラもいなくなった(小岩屋、2010)。多分仲良くいっしょにどこかへ飛んでいったのだろう。ただし、高隅山では8月3日に最後?の2♂が得られている(写真12、板垣治氏提供)。



写真1：9日間居座ったKポイント

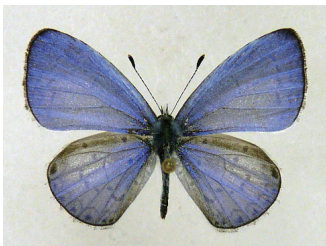


写真2 (7月26日)

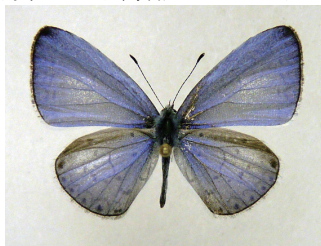


写真5 (7月27日)

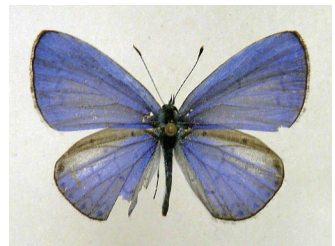


写真8 (8月2日)

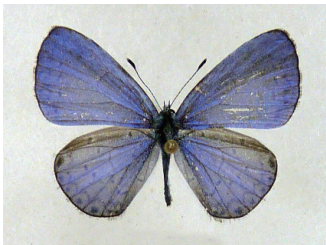


写真3 (7月26日)

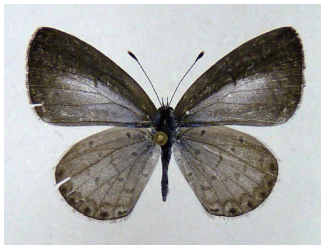


写真6 (7月27日)

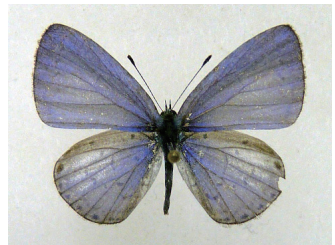


写真9 (8月2日)

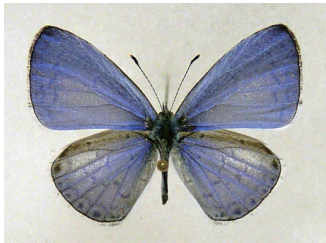


写真4 (7月27日)

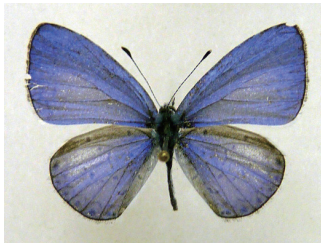


写真7 (8月2日)

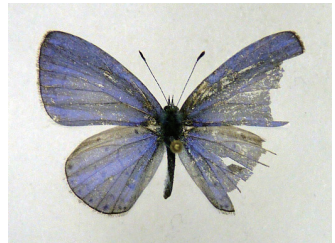


写真10 (8月2日)

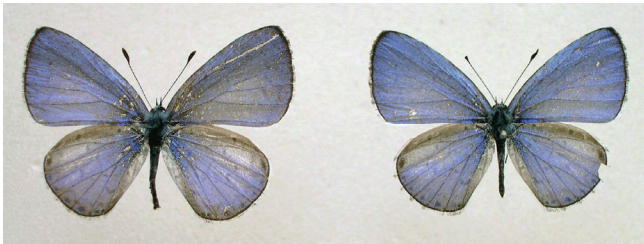


写真12 (8月3日、高隅山産)

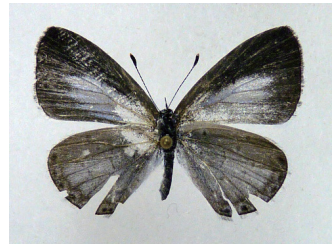


写真11 (8月2日)

2014 年はどうか。7 月 17 日に高千穂峰で 1 ♀ が採れたあと、鰐塚山では 7 月 20 日に 2 ♂、21 日に 1 ♂、22 日に 7 ♂、24 日に 5 頭と続いて、26 日に少なくとも 13 頭！その後は 27・28 日に 1 ～数頭採れたあと、29 日以降は全く採れなくなった。

問題は、26 日の 13 頭をどう考えるかだ。私自身の採った個体はそれまでと同じく小さな ♂ だが（写真 21・22 左下）、ほかの人に見せてもらった ♂ ♀ は、それまでのものよりやや大型で、裏面亜外縁の波状線が目立っていた（写真 13・14）。そして、それと同じような特徴を持った ♂ は、私も 28 日に 1 ♂ 採集することができた（写真 21・22 右）。I さんの個体はまだ見せてもらっていないが、ひょっとしたらこの「やや大型」個体群は、26 日新たに飛来してきた個体群だったのではないかな（＝それまでの個体とは出発地が違う）、とひそかに憶測している。といっても、なんら具体的な証拠があるわけではないが――



写真 13・14：裏面亜外縁の波状線が目立つ ♀（7 月 26 日、大阪の林秀行さん採集）

最後に、鮮度の問題。これは割に分かりやすい。2010 年の 10 頭（写真 2～11）を採れた順に並べてみると、♂ も ♀ もあとになるほど明らかに鮮度が落ち、へんな傷が増えている。つまり、どの個体も鮮度がパラレル。同時期に一斉に日本に飛来し、日々に褪せてきた感じがはっきり分かる。土着種であれば、徐々に個体数が増えて、発生のピークで新鮮な個体と褪せた個体が混じり合うことになるが、そういう傾向は感じ取ることができない。これが迷蝶説の 3 番目の状況証拠である。

2014 年の個体も、後になるほど鮮度が悪くなり傷が増えている。7 月 22 日採集の 1 ♂（写真 17・18 左下）は傷だらけで鮮度も悪いじゃないか、と言われそうだが、実はこの個体は駆け出しの愚息が採集したもの。うまく潰すことができず、ネットの中でいつまでも暴れてこんなになってしまった。この個体のすぐ上の ♂ も息子のせいで少し鱗粉が剥けている。7 月 24 日以降は鮮度が落ちただけでなく、トンボに攻撃されたとおぼしい切れも増えた。つまり、2010 年と同じく、どの個体もある時点における鮮度はパラレル。28 日採集の「やや大型」1 ♂ のみ鮮度はまづまづだが、その理由は前述したように、この ♂ を含む別の個体群が 26 日新たに空から降ってきたのではないかな、と私は考えている。この話に具体的な物証はない。ただ、長年フィールドでチョウを追いかけてきた人間の勘。外れていたらゴメン。

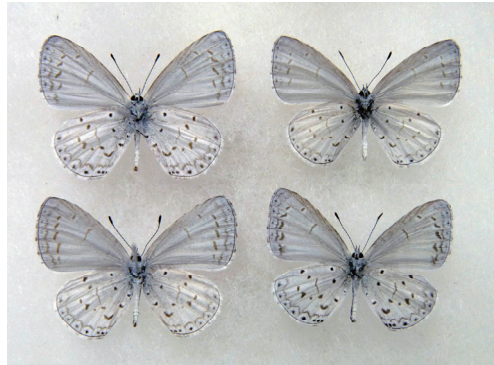


写真15・16：2014年鰐塚産タッパン（左：表面、右：裏面）左上：7月21日、ほかの3頭：7月22日

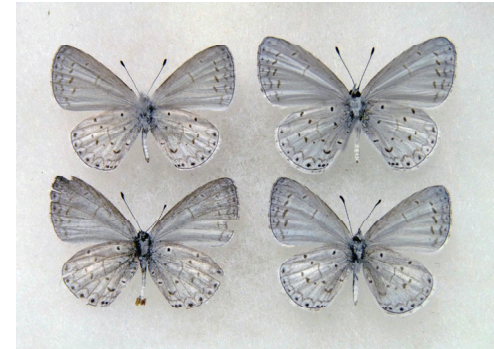
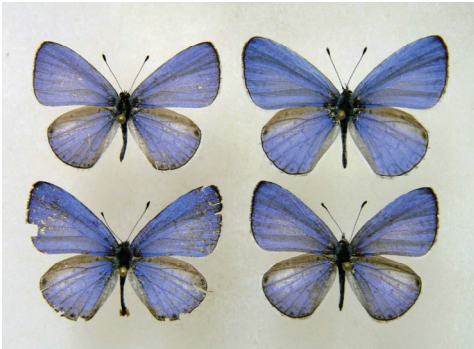


写真17・18：同、左2頭・右上：7月22日、右下：7月24日

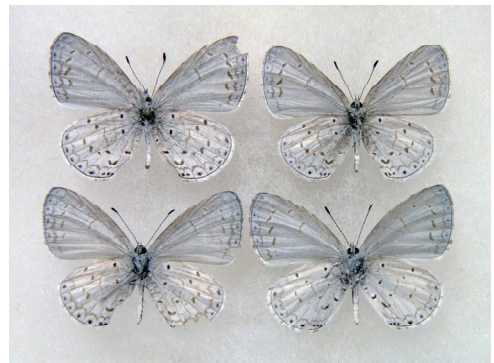
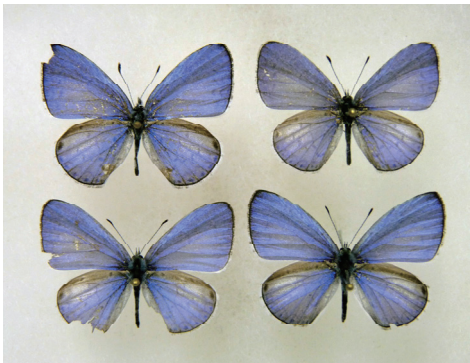


写真19・20：同、左2頭・右上：7月24日、右下：7月25日

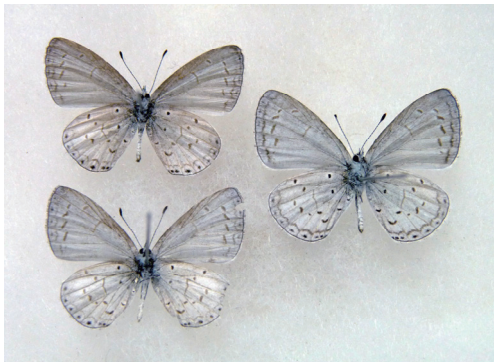
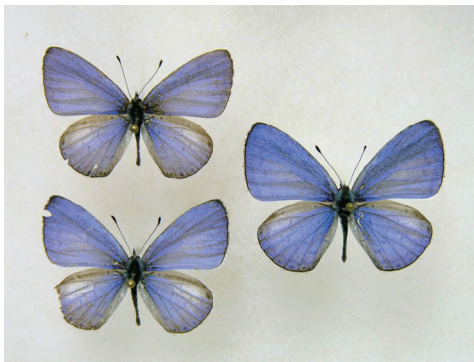


写真21・22：同、左上：7月25日、左下：7月26日、右：7月28日

では、どこから飛んできたのか？

これがまためっちゃくちゃ難しい。可能性があるのは①台湾、②中国大陸福建省辺りのどちらかだろうが、一体どうすればそれが特定できるのだろうか。

2010年と2014年の個体群を比較すると、♂では2010年のほうが全体に翅型が丸っぽく見えるし、♀では逆に2010年のほうが前翅も後翅も細長く、全体的に横広に見える。また、2010年の♀は表面の青白鱗の発達が弱いように感じるが(特に写真6の後翅)、2014年の♀では黒色部と青白色部のメリハリがはっきりし、後翅亜外縁の暗色波状紋がより明瞭に表れている。これらの違いが確かなものだとすれば、2010年と2014年では出発地が違うという可能性もあるかもしれない。写真23・24に2014年鰐塚産♀(左の2頭)と台湾産♀(右上、浦野博氏所蔵)、大陸の広西壮族自治区産♀(このみ乾季型、ほかの3♀は雨季型)を示したが、これを見ると2014年鰐塚産♀とこの台湾産♀は一卵性双生児のようにそっくり。

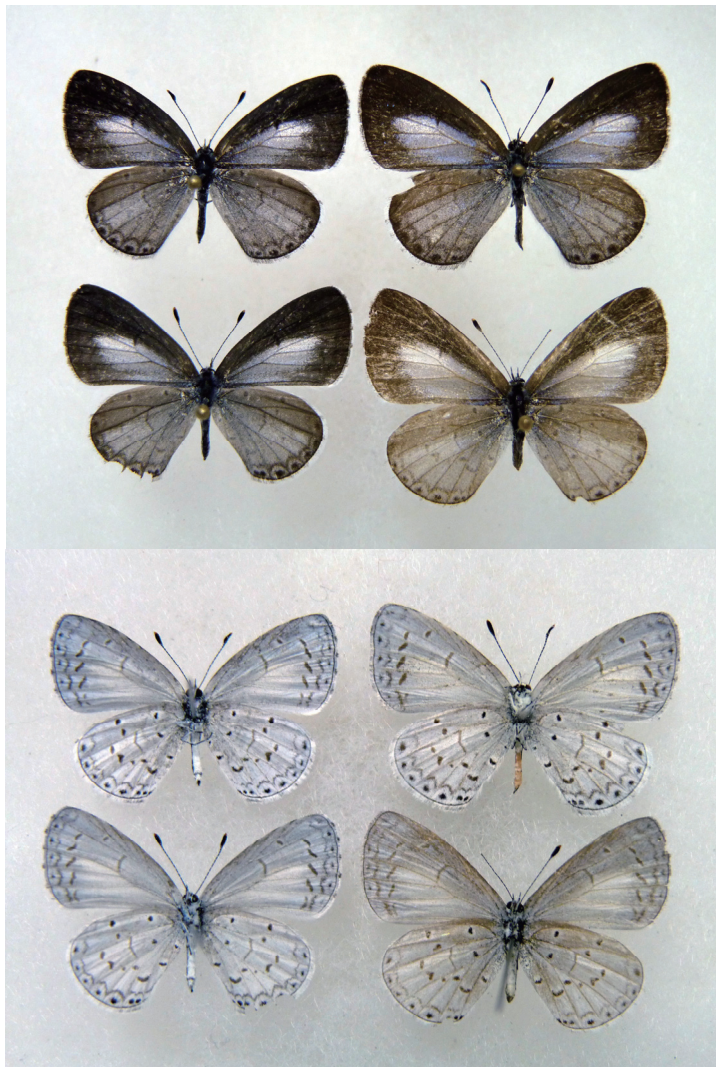


写真23・24：タッパン♀(左上：7月24日鰐塚、左下：7月25日鰐塚、右上：台湾、右下：広西)

次に、♂の大きさや色調を比べるために、異なる産地の個体群をまとめて図示した（写真 25）。左端の列は台湾産（浦野氏所蔵）、2・3 列目は 2014 年鰐塚産、4 列目は 2011 年 6 月に筆者自身が広西壮族自治区で採集したもの、右端の列は中国各地のもの。鰐塚産は平均して小さいが、中には台湾・広西産とあまり変わらない個体もある。また、右端の広西産では鰐塚と同程度のものや更に小さい♂もあるが、台湾産は大型でほぼ一様の大きさ。色調に関しては、藤岡（2005）が述べたような違いは特に見当たらない。

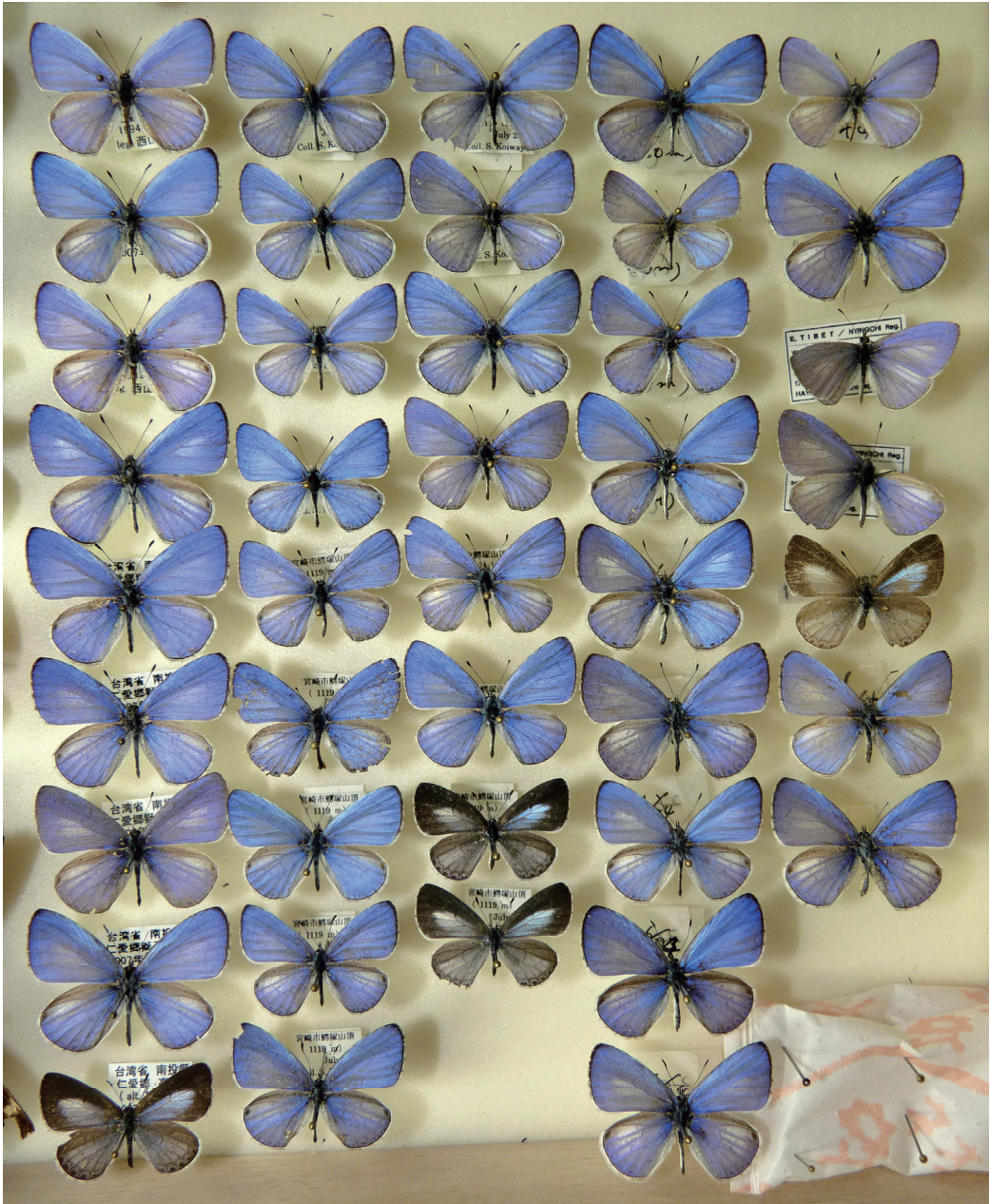


写真 25：左列：台湾産、2・3 列目：鰐塚産、4 列目：中国大陸広西壮族自治区産、右列：中国各地産

この項の最後に、2014 年鰐塚産♂と瓜二つの台湾産♂、及び広西産♂を図示しておく。取りあえずの結論としては、どこから飛んできたのか現段階では確定困難。



写真 2 6 : 左 : 2014 年鰐塚山産タッパンルリ、右 : 台湾産 (表面)

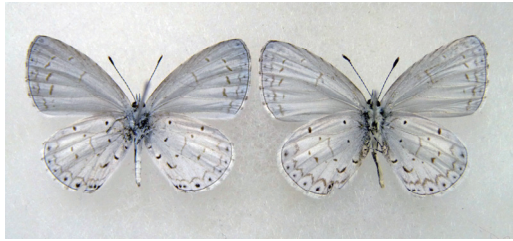


写真 2 7 : 同 (裏面)



写真 2 8 : 左 : 2014 年鰐塚山産タッパンルリ、右 : 中国大陸広西産 (表面)



写真 2 9 : 同 (裏面)

なぜ、飛んでくるのか？

本種はしばしば大発生する。筆者は 2011 年 6 月初め、中国広西壮族自治区西部の大明山の標高 1,400m 地点で本種の大発生初期に遭遇した。



写真 3 0 : タッパンルリ♂の吸水集団 (2011 年 6 月 7 日、広西壮族自治区大明山)

湿った路面や川岸に、初めは 20 頭ほどの吸水集団が散見される程度だったが、その次の日には写真 30 のように、50~100 頭ほどの集団がそこら中に見られるようになった。全て羽化したてのピカピカのタッパン♂ばかりで、ほかのルリシジミ類は 1 頭も混じらない単一種の集団を形成する。6 月半ばの最盛期には、一体どれほどの数のタッパンルリが羽化してくるのか想像もつかない。

この大発生の経過及び結果として、おおよそ次のような現象が起こるのではないかと私は「妄想」している。

- ① 大発生の初期の段階として、幼虫の時期に餌の奪い合いが起きる
- ② その結果、遅く産卵された個体、もしくは成長の遅れた個体は小型の個体になる
- ③ 幼虫が一定以上の密度になると、バッタに見られるような群生相が生じる
- ④ ②と③がリンクした結果として、小型の個体が偏西風（亜熱帯ジェット気流）に乗って一斉に拡散を始める
- ⑤ この時偏西風が北に蛇行していれば、台湾の個体は中国大陆に渡り、福建省辺りの個体は中国大陆を北上する（九州には来ない）
- ⑥ 偏西風がほぼ北東方向に向かっているならば、九州に到達する
- ⑦ この群生相になった個体群は、とりあえず拡散することが一番の目的なので、♀の生殖機能はスイッチ・オフになっている

実際のところ、これまで何度か人工産卵が試みられたが、「日本産」の♀はほとんど産卵せず、かろうじて数個の卵を産付したケースでも、それらの卵が孵化したことは一度もない。また 1979・1980 年に霧島山で採集された♀は卵巣の発達が悪かったという（二町、1981）。

日本に飛んできた♀は、まだ♀であることに「目覚めていない」のである。いつ目覚めるかは、新天地の気候や求蜜植物の有無や幼虫食樹の有無など、いろんな条件によって決まるのではないだろうか。

要するに、彼らは決して台風などによって「飛ばされてくる」（藤岡、2005）のではなくて、自分の「意思」で飛んでくるのである。

このような例はほかにもある。例えば稲の害虫として有名なトビイロウンカ・セジロウンカ・コブノメイガ・アワヨトウや、トンボの一種スナアカネは、偏西風に乗って中国大陆から飛来することが既に分かっている。

台湾や福建省と九州の距離は 1,100~1,200 キロ程度だから、時速 100 キロ以上の強い偏西風に乗れば、10 時間程度で日本に「入国」することができる。時速 100 キロ以上の風に乗ると揉みくちゃになって死んでしまうのでは、と思われるかもしれないが、我々が時速 800 キロのジェット機（の空間）に乗って移動するのと同じで、いったん強風に乗ってしまえば、乗った「空間」が移動するだけだから、多分何の問題もない。羽化して 1, 2 日で日本に到着すれば、羽はピカピカのまま。

イチモンジセセリやアサギマダラやウスバキトンボも、台湾や南西諸島から、自分の「意思」

で九州や本州に飛んでくる。タッパンだって自分の「意思」で飛んでくるのだ。

では、いつ飛んでくるのか？ 以上の「妄想」から導き出せば、偏西風が真北に強く蛇行する年はダメ。偏西風が東北方向に比較的すんなり吹く年の、7月のある日。

皆さんも、その日にいろんな山のでっぺんでトライしてみてください。

謝辞

本稿を仕上げるにあたり、下記のように大勢の方々からご助力を頂いた。記して感謝申し上げる次第です。

- ①有意義な情報を頂いた方々＝二町一成さん・笹岡康則さん・安本潤一さん・八木真紀子さん・阿部祐侍さん・岩崎郁雄さんほか、宮昆会員各位。
- ②タッパンルリの標本写真をご提供き、またその使用を許可して下さった方々＝林秀行さん（大阪）・板垣治さん（鳥取）・野村保さん（福岡）。
- ③多数の台湾産タッパンルリの標本を貸与して下さった方＝浦野博さん。
- ④採集にご協力頂いた方々＝小岩屋航（愚息）・鰐塚山頂一帯に集結した大勢の虫屋さんたち。
- ⑤本稿を美しく仕上げて頂いた方＝小松孝寛さん。

参考文献

- 藤岡知夫、2005. 日本の秘蝶（8）—タッパンルリシジミ、迷蝶か、日本固有の亜種か？ *Butterflies* (39): 6–14.
- 福田晴夫、1981. 1980年のタッパンルリシジミの採卵結果. *SATSUMA* (85): 1–45.
- 神園政行、1981. 1980年霧島山産タッパンルリシジミの人工採卵結果. *SATSUMA* (85): 54.
- 二町一成、1981. 日本産タッパンルリシジミについて. *SATSUMA* (85): 53.
- 二町一成、1983. 日本産タッパンルリシジミについて（Ⅱ）. *SATSUMA* (89): 100–105.
- 二町一成・福田晴夫・神園政行、1981. 南九州産タッパンルリシジミの採卵経過と卵の形態. *SATSUMA* (85): 45–52.

（こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6）

道の駅フェニックスと青島亜熱帯植物園でクロボシセセリを確認 —分布の拡大が始まったか？—

小松 孝寛

宮崎県でクロボシセセリが初めて確認されたのは2010年9月16日で、場所は宮崎市内海であった(竹迫 2010)。翌年、同所での越冬を確認し(小松 2011)、2012年も多数のクロボシセセリが発生しているのを確認している。2013年は同所を訪れる機会がなかったので、今年9月25日に様子を見に行った。ヤシの葉にはクロボシセセリの巣が多数あり、その中の一つを開けると終齢幼虫が見つかった。

<データ>

クロボシセセリ *Suastus gremius* 宮崎市大字内海小内海

2012年1月29日 終齢幼虫2頭

2012年7月1日 若齢幼虫1頭、終齢幼虫1頭、

2012年9月11日 成虫多数、幼虫3頭

2012年11月11日 成虫多数がランタナやセンダングサの仲間で吸蜜

2014年9月25日 幼虫の巣多数、終齢幼虫1頭



写真1 クロボシセセリ幼虫の巣 (2014.9.25)



写真2 クロボシセセリ終齢幼虫 (2014.9.25)

道の駅フェニックス

10月7日昼食を取るために道の駅フェニックスに寄ると、クロボシセセリの成虫が飛んでいた。駐車場に植えてあるヤシからは幼虫も確認できた。道の駅フェニックスは内海の発生地から北に4.5kmの地点にある。2012年と2013年に道の駅フェニックスを調べたときは、クロボシセセリは見つからなかったもので、今年初めて発生したものと思われる。

道の駅フェニックスにはギョボクも植栽されており、越冬できるかどうかぎりぎりの北限のツマベニチョウを見ることができる。山手の遊歩道にはアメリカンデイゴが植えてあり、晩秋には多数のウラナミシジミが産卵している。少し遊歩道を上ると、斜面にシバハギが自生しているので、少ないがタイワンツバメシジミも生息している。道の駅フェニックスからは太平洋の素晴らしい景色を見ることができ、蝶の観察のついでに観光も楽しめる。

<データ>

クロボシセセリ *Suastus gremius* 宮崎市大字内海道の駅フェニックス

2014年10月7日 成虫2頭, 終齢幼虫1頭, 幼虫の巣多数



写真3 キツネノマゴで吸蜜する成虫 (2014.10.7)



写真4 クロボシセセリ幼虫の巣 (2014.10.7)

<データ>

ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe* 宮崎市大字内海道の駅フェニックス

2008年10月18日 成虫1頭

2013年12月2日 卵多数

2014年1月4日 若齢幼虫2頭

2014年1月9日 蛹1頭, 若齢幼虫1頭

2014年1月28日 蛹1頭, 若齢幼虫1頭 (1/9の蛹は落下して死亡, この日は別の蛹)

2014年2月20日 蛹1頭 (1月28日と同じ個体だが, 3月17日には落下して死亡)

2014年10月7日 若齢幼虫1頭

タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus* 宮崎市大字内海道の駅フェニックス

2007年10月21日 幼虫1頭

2007年10月28日 幼虫2頭



写真5 ギョボクで見つけたツマベニチョウ蛹
(2014.1.9)



写真6 シバハギの実にいたタイワンツバメシジミ幼虫
(2007.10.21)



写真7 道の駅フェニックス

青島亜熱帯植物園

道の駅フェニックスでクロボシセセリを確認してから2週間後の10月21日に、青島亜熱帯植物園でクロボシセセリの幼虫を確認した。青島亜熱帯植物園は、道の駅フェニックスから更に4km北にあるので、初記録地から8.5km北になる。2日後の10月23日に、園内に植えられているヤシを調査すると、成虫は確認できなかったが、巢の跡や卵を以下のヤシから確認した。

ソテツジュロ *Phoenix loureiroi*

セネガルヤシ *Phoenix reclinata*

フェニックストメントーサ *Phoenix tomentosa*

シンノウヤシ *Phoenix roebelenii*

ビロウ *Livistona chinensis*

チャメロプス *Chamaerops humilis*



写真8 ソテツジュロで見つけたクロボシセセリ幼虫
(2014.11.21)



写真9 チャメロプスに産み付けられた卵と卵殻
(2014.11.23)

青島亜熱帯植物園は観光客にも人気があり、現在は新温室を建設中である。新温室が建設される場所には以前ギョボクが何本か生えており、日南市鶴戸が北限とされるツマベニチョウが越冬する年もあった(小松 2011)が、残念なことにすべて伐採されていた。そこでは、南方系の迷蝶

や迷蛾も飛んでくることがあり、リュウキュウムラサキ (小松 2004) やキマエコノハ (小松 2011) などを確認している。新温室が完成した後もギョボクやランタナが再び植栽され、南国のチョウが屋外で見られる植物園にして欲しいものである。



写真 10 クロボシセセリの巣が見つかった青島亜熱帯植物園のビロウ (2014.11.23)

前述したように、宮崎県ではクロボシセセリは 2009 年に初めて確認された。南方から持ち込まれた植栽用のヤシに付いていた卵か幼虫が原因と思われたので、当初は数年後には環境に合わず消えていくだろうと考えていた。しかし、今回の調査で、クロボシセセリは小内海ではその後も発生を続け、更に北に 8.5km 分布を広げていることが分かった。青島亜熱帯植物園ではビロウでも発生しているので、国指定天然記念物の青島のビロウにも影響を与える可能性がある。今後どこまで分布を広げていくか注意していきたい。

引用文献

- 小松孝寛, 2004. 写真[99]ランタナで吸蜜する鳥に襲われた痕があるフィリピン型のリュウキュウムラサキ/ 紫立羽. Butterfly Watching III, p36/121. 昆虫文献六本脚, 東京
- 小松孝寛, 2011. 青島でのツマベニチョウの越冬記録. タテハモドキ, (47): 44-48
- 小松孝寛, 2011. 内海でのクロボシセセリの越冬記録. タテハモドキ, (47): 49-51
- 小松孝寛, 2011. 宮崎市青島でキマエコノハを確認. タテハモドキ, (47): 51
- 竹迫堅之助, 2010. 宮崎市内海地区でクロボシセセリを発見. タテハモドキ, (46): 13-14

(こまつ たかひろ: 宮崎市本郷北方 2 4 7 9-2 3)

宮崎市青島～内海のアカギカメムシの生態

小松 孝寛

宮崎市大字内海で発生したアカギカメムシについては2009年と2011年に既に報告した（小松2009, 2011）．年によっては晩秋に鈴なりの大集団になることもあるが、冬になると一斉に姿を消すので、定着しているのか、それとも南方から飛来しているのか明確ではなかった．それを確かめようと何度か越冬個体を探したが、冬に見つけたのはモズの早糞として小枝に突き刺さって死んでいた個体1頭（2010/1/1）だけであった．

アカギカメムシは南西諸島以南に生息しており、九州へは迷虫として飛来し、一時的に発生すると考えられてきた．実際、東シナ海の海上を飛来しているところを採集されたこともある（林・鈴木1978）．九州でのアカギカメムシの確認例として、福岡県では1987年に英彦山で、長崎県では1990年に西彼杵郡野母崎町で採集されており、これは一時的な発生と見なされている（安永1991）．大分県では2003年に佐伯市蒲江で初めて記録された（堤内2011）．蒲江は宮崎県との県境である．鹿児島では1959年に佐多岬の記録があり（前原・日高1959）、その後1996年に川辺郡知覧町で採集され（松比良1999）、大隅半島の南大隅町（須田2007）や薩摩半島の千貫平（本山2011）でも採集されている．2012年には初めて冬に（12月27日）枕崎市で成虫が確認された（中峯2012）．四国では1967年に高知県幡多郡大月町大堂津山展望台で抱卵中の♀を含むアカギカメムシが確認された（宮武・伊賀1968）．その後、1995年に愛媛県南宇和郡内海村で、1999年に高知県足摺岬で確認されている．足摺岬の発生は9ヶ所で確認され、多くは数十から数百頭の集団であったが、1ヶ所は宮崎市内海と同様に数千頭にもおよぶ大集団を形成しており、このことから足摺半島周辺では定着している可能性もあると述べられている（高井ら1999）．更に、高井らは生殖休眠するかどうかを確かめるために、10月下旬に採集した個体を飼育し、成熟卵細胞の割合が減少していることから足摺岬の個体群は休眠機能を発達させつつあることを明らかにした（高井ら2002）．2009年には徳島県勝浦町でも確認されている（山田2010）．

宮崎県で最初にアカギカメムシが確認されたのは1990年12月6日（南郷町大島）である（永井2006）．その後2009年までは報告がなかったが、最近では青島～内海での大量発生（小松2009, 2011）を含め、門川町（岩崎2009）、日向市（山元2010）、川南町（土岐2009）など宮崎県内各地でアカギカメムシの集団が確認されている．2012年～2014年は、発生数は少なかったものの発生は確認されているので、県内では既に定着しているのではないかとの思いに至り、アカギカメムシの5年間の記録を見直してみた．結果は表1のとおりである．今回報告する宮崎市青島～内海のアカギカメムシは毎年同じアカメガシワで発生しており、南方から飛来するにはピンポイントすぎると感じていたが、いままでのデータを整理することにより、この地域の個体群の

ライフサイクルが見えてきた。

毎年同じアカメガシワに発生するので、アカメガシワに記号を付けた。

A：宮崎市内海にある一番発生数の多いアカメガシワで、海岸から 1.5km の場所に生えている。

B：宮崎市青島（折生迫）にあるアカメガシワで、海岸から 1.8km の場所に生えている。

C：宮崎市青島（折生迫）大谷林道にあるアカメガシワで、海岸から 2.7 km の場所に生えている。

アカメガシワ-A は B から直線距離で 3.3km, C からは 2.5km 離れている。

アカメガシワ-B と C は直線距離で 1.4km 離れている。



図1 アカメガシワの位置（青島～折生迫～内海）

表1 宮崎市青島～内海のアカギカメムシの記録（2009年～2014年）

7月25日（2010）	終齢幼虫約20頭，成虫2頭（羽化直後）	Aのすぐ近く
7月26日（2014）	終齢幼虫約20頭	A
7月29日（2011）	成虫10頭以上	A
8月7日（2010）	成虫♀50頭以上（抱卵・1齢幼虫保護）	A
8月14日（2010）	成虫7頭・2～3齢幼虫15集団（葉13・実2）	A
8月14日（2014）	成虫1頭	A
8月15日（2010）	成虫2頭・2～3齢幼虫多数（葉1集団のみで他は実に散らばる）	A
8月16日（2010）	成虫12頭・2～3齢幼虫多数（全て実に散らばる）	A
8月17日（2014）	成虫34頭	A
8月21日（2010）	4齢幼虫・終齢幼虫多数	A
8月21日（2010）	成虫数頭・幼虫多数	Aから約100m離れた3本
8月22日（2010）	4齢～終齢幼虫多数・成虫2頭（羽化直後）	A
8月27日（2011）	4齢幼虫9頭・終齢幼虫1頭・成虫1頭（羽化直後）	A
8月28日（2010）	4齢幼虫50頭以上・終齢幼虫1頭・成虫1頭	C
8月28日（2010）	成虫1頭（他のアカギカメムシは全ていなくなった）	A
8月30日（2009）	終齢幼虫4頭が同じ葉にあり，成虫5頭と4齢幼虫1頭が実で吸汁	B
8月30日（2012）	終齢幼虫60頭以上（15～25頭×3集団）	A
8月31日（2014）	成虫約20頭	A

9月4日 (2010)	成虫 13 頭	B
9月6日 (2009)	成虫 50 頭以上, 終齢幼虫 1 頭	B
9月7日 (2012)	成虫 1♂1♀ (交尾)	A から 400m
9月8日 (2014)	成虫 1 頭 (飛翔)	B から 500m
9月8日 (2014)	成虫 50 頭以上 (7~10 頭×6 集団)	A
9月12日 (2010)	成虫 40 頭以上	C
9月13日 (2009)	成虫 200 頭以上	B
9月13日 (2009)	成虫約 3500 頭以上 (60~70 頭×50 集団)	A
9月18日 (2010)	成虫多数	B
9月22日 (2009)	成虫 2 頭 (他はいなくなった.)	B
9月22日 (2009)	成虫 1000 頭以上	A
9月22日 (2014)	成虫 73 頭 (6,17,15,4,12,14,5 頭の 7 集団)	A
9月24日 (2010)	成虫多数	B
9月24日 (2010)	成虫 800 頭以上 (30~50 頭の集団が 20 以上)	A
9月26日 (2009)	成虫 (大集団)	A
10月1日 (2013)	成虫 100 頭以上	A
10月1日 (2013)	成虫 200 頭以上	A
10月7日 (2014)	成虫 15 頭 (少なくなったが, 1 組が交尾)	A
10月12日 (2009)	成虫 1000 頭以上	A
10月17日 (2010)	成虫 600 頭以上 (30~40 頭の集団が 16)	B
10月17日 (2010)	成虫大集団	A
10月30日 (2010)	成虫 300 頭以上 (20~30 頭の集団が 12)	B
10月30日 (2013)	成虫多数	A
10月31日 (2009)	成虫 1000 頭以上 (数が増えたように感じる)	A
11月6日 (2010)	成虫 2000 頭以上 (40~50 頭の集団が 50 以上)	A
11月14日 (2010)	成虫 (集団, 数は少なくなった.)	B
11月15日 (2009)	成虫 1000 頭以上	A
11月23日 (2009)	成虫 1000 頭以上	A
11月27日 (2010)	成虫 (集団, アカメガシワの葉が散り始めた)	B
11月27日 (2010)	成虫 (大集団, アカメガシワの葉はしっかりしている)	A
12月6日 (2009)	成虫 1000 頭以上, アカメガシワが枯れ始めたので葉から枝に移動	A
12月12日 (2009)	アカメガシワの葉が殆どなくなり, アカギカメムシもいなくなった.	A
12月12日 (2010)	アカギカメムシは全ていなくなった.	B
12月12日 (2010)	アカメガシワの葉が残っているが, アカギカメムシはいなくなった.	A
1月1日 (2010)	成虫 1 頭 (モズの早糞になっており死亡)	A のすぐ近く

台湾での飼育記録によると、産卵から約8日で孵化し、母虫の下に静止したまま約6日後に脱皮し2齢になり、その12日後親元を離れ、自ら摂食する(高橋 1921)。また、今回の記録では8月半ばに2〜3齢幼虫がアカメガシワの実で吸汁し、8月末に羽化している。これらからアカギカメムシは産卵後1.5〜2ヶ月で羽化すると考えてよい。7月のデータをみると、2010/7/25と2014/7/26は終齢幼虫で、2011/7/29は成虫である。台湾では成虫が4月頃に出現し、年に2〜3世代を営むとあり(小林・立川 2004)、日向市では5月12日(2010)に成虫が、6月27日(2011)に成虫と卵が確認されているので(山元 2004)、宮崎では5〜6月頃に母虫が産卵し、それが7月に羽化し産卵を行い、孵化した個体が8月末〜9月初旬に羽化すると考えられる。つまり、(5〜6月産卵) → (7月羽化・産卵) → (8月末〜9月初旬羽化) となる。

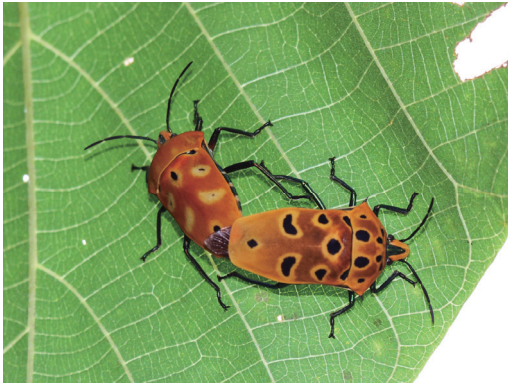


写真1 側角に棘のある♀と無棘の♂の交尾
(2012/9/7 アカメガシワ A から 400m 離れた場所)



写真2 抱卵と一齢幼虫を哺育する♀
(2010/8/7 アカメガシワ A)



写真3 アカメガシワで吸汁する若齢幼虫
(2010/8/14 アカメガシワ A)



写真4 終齢幼虫と羽化したばかりの成虫
(2010/7/25 アカメガシワ A)

問題は秋の個体が越冬しているかどうかである。アカギカメムシが定着している台湾や八重山では、筆者も以下の観察をしているので、秋に産卵された個体が春に羽化するのは確かである。

2月12日(2011)	終齢幼虫1頭(2/14羽化)	台湾高雄縣茂林村
10月7日(2006)	成虫♀抱卵	沖縄県石垣市嵩田林道
10月18日(1997)	成虫1♂1♀交尾	沖縄県石垣市野底



写真5 冬の終齢幼虫
(2011/2/2 台湾高雄縣茂林村)



写真6 秋の抱卵
(2006/10/7 石垣市高田林道)



写真7 秋の交尾
(1997/10/18 石垣市野底林道)

青島～内海でも、秋に交尾している個体を9月7日(2012)と10月15日(2014)に2度確認したが、抱卵している個体や幼虫を確認したことはないので、8月末～9月に羽化した個体があるまま冬季まで生存しているものと思われる。つまり、宮崎市青島～内海の個体群は春から初冬にかけて2化と考えて良い。そうすると以下の2つのシナリオが考えられる。

シナリオ1: 迷チョウと同じように、5～6月に南方から母虫が飛来し、青島～内海のアカメガシワに産卵する。7月に羽化した個体はすぐに産卵し、8月末～9月初旬に羽化した個体は初冬まで生き延びるが、真冬には全て死亡する。

シナリオ2: 越冬した個体が5～6月に産卵し1化が7月に羽化・産卵し、2化が8月末～9月初旬に羽化し、初冬まではアカメガシワに集団で留まるが、アカメガシワが枯れる冬季は越冬場所に分散移動する。

まだどちらのシナリオが正しいか分からないが、以下の状況証拠から、宮崎市青島～内海の個体群は越冬している可能性が大きい。

- (1) 毎年同じアカメガシワで発生している。青島～内海にはアカメガシワは多数生育しており、毎年迷虫としてやってくるなら、特定の木に発生する確率は小さい。
- (2) 1000頭以上の大集団が冬季にいなくなる場合でも、発生木の周辺には全く死骸がない。一斉にどこかに移動したと考える方が妥当である。
- (3) 大発生した2009年の冬は、日南市で12月24日に成虫1頭が確認されており(八木2009)、内海でもモズの早糞という形ではあるが、翌年1月1日に成虫を確認している。モズは生きている個体を捕まえるので、この個体は冬季にどこかで生存していた可能性が大きい。

今後は宮崎市青島～内海のアカギカメムシの越冬個体と春の産卵状況を調査し、この地域では確実に定着しているということが確かめられればと思う。

(こまつ たかひろ: 宮崎市本郷北方2479-23)

引用文献

- 林 薫・鈴木 宏, 1978. 東支那海における海上飛来昆虫の 1977 年の採集記録. 熱帯医学第 20 巻第 3 号 : 131-142
- 岩崎郁雄, 2009. 県北門川町五十鈴小学校でアカギカメムシが発生. 宮崎むし情報 (総合版) : 132
- 小林 尚・立川周二, 2004. 図説カメムシの卵と幼虫一形態と生態一. 88-91. 養賢堂, 東京.
- 小松孝寛, 2009. 青島〜内海のアカギカメムシ. タテハモドキ, (45) : 5-7
- 小松孝寛, 2011. その後の宮崎市内海のアカギカメムシ. タテハモドキ, (47) : 52-55
- 前原 宏・日高輝展, 1959. アカギカメムシについて. 昆虫, (27) : 201
- 松比呂邦彦, 1999. アカギカメムシを川辺郡知覧町で採集. SATSUMA, (120) : 134
- 宮武睦夫・伊賀幹夫, 1968. 四国西南端でアカギカメムシを採る. 昆虫, (36) : 98
- merian, 2009. アカギカメムシの越冬. 南風通信, インターネットブログ 2009-12-24
- 本山興二, 2011. アカギカメムシを千貫平で採集. SATSUMA, (145) : 62
- 永井 庵, 2006. アカギカメムシの古い記録. タテハモドキ, (42) : 39
- 中峯浩司, 2012. 枕崎市で冬に見つかったアカギカメムシ. SATSUMA, (147) : 89
- 須田 淳, 2007. 肝属郡南大隅町でアカギカメムシを採集. SATSUMA, (137) : 173
- 高橋良一, 1921. アカギカメムシの哺育. 台湾博物学会會報, 第 11 年第 54 號, 81-86
- 高井幹夫・河上友三・中山紘一・別府隆守・熊沢秀雄, 1999. 足摺半島におけるアカギカメムシの大量発生. げんせい, (74) : 52
- 高井統・高井幹夫・原田哲夫, 2002. 高知県足摺産アカギカメムシは成虫休眠するか?. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, (46) : 118
- 土岐星児郎, 2009. 川南町でアカギカメムシの集団を観察. 宮崎むし情報, (223) : 132
- 堤内雄二, 2011. 大分県初記録のアカギカメムシ. 二豊のむし, (49) : 113
- 八木真紀子, 2009. 今年の宮崎県の陸生半翅類. 宮崎むし情報 (総合版) : 181
- 山田量崇・兼田武典, 2010. 徳島県勝浦町でアカギカメムシを確認. 徳島県立博物館研究報告, (20) : 73-76
- 山元一裕, 2014. 私信
- 安永智秀, 1991. 九州本土におけるアカギカメムシの記録 2 例. Rostria, (41) : 67-70
- 安永智秀, 1992. 長崎県におけるアカギカメムシについて. Rostria, (42) : 26

アカスジキンカメムシの飼育記録

小松 孝寛

アカスジキンカメムシはカメムシでは珍しく幼虫で越冬する。日本産カメムシ上科の中で、幼虫で越冬するのは5種だけであり（小林 1997），その中に、キンカメムシ科のニシキキンカメムシとアカスジキンカメムシが含まれている。ニシキキンカメムシは宮崎県ではまだ確認されていないが、アカスジキンカメムシは宮崎県内の山間部に幅広く生息し、宮崎市内でも宮崎神宮境内のフジから幼虫が確認されている（日高 1956）。通常、アカスジキンカメムシはキブシなどの実を吸い、終齢（5 齢）幼虫で越冬するが、野外採集した 2～3 齢幼虫を飼育すると 9 月に羽化したとの報告もある（宮本 1965）。

筆者は 2012 年 9 月 1 日に日南市北郷町北河内の山中のキブシで多数のアカスジキンカメムシ幼虫を確認した。この年は特に数が多かったようで、その付近にキブシがあれば、かなりの確率でアカスジキンカメムシの幼虫を確認することができた。その中から 6 頭を採集し、室内での飼育を試みた。餌はキブシの実がある間はキブシを与えた。その結果、6 頭のうち 5 頭までが年内に羽化し、1 頭だけが終齢幼虫のまま越冬し、翌年春に羽化した。年内に羽化したもののうち、10 月中旬までに羽化した 4 頭は正常個体であった。そのまま成虫で越冬するかどうか確かめるために、キブシの実を与えてそのまま飼育したが、10 月末までには全て死亡した。11 月 9 日に羽化した個体は羽が完全に伸びず、数日後に死亡した。

	1 頭目	2 頭目	3 頭目	4 頭目	5 頭目	6 頭目
採集日(9/1)	終齢幼虫	4 齢幼虫	4 齢幼虫	4 齢幼虫	4 齢幼虫	4 齢幼虫
脱皮日		終齢 (9/2)	終齢 (9/2)	終齢 (9/4)	終齢 (9/19)	終齢 (9/19)
羽化日	♀ (9/27)	♀ (10/3)	♀ (10/9)	♂ (10/15)	♂ (11/9)	♂ (翌年 4/16)

1 頭だけ終齢幼虫で越冬し、翌年 4 月 16 日に羽化した。越冬中に 2 度起眠したが、既にキブシの実はなくなっていた。アカスジキンカメムシは代用餌として乾燥ダイズ種子と生ラッカセイの混合給餌が知られており、22.5℃16L8D の飼育条件下では大半の個体が年内羽化すると報告されている（守屋・岡野・中川 1987）。手元に生ラッカセイがなかったので、1 度目の起眠時にはアオキの赤い実、アオキの新芽、アジサイの新芽とヤツデの実を、2 度目の起眠時にはヤマビワ、トベラとウバメガシの新枝を与えてみた。その結果、ヤツデの実とウバメガシの新枝から吸汁した。特にウバメガシを好んで吸汁し、3 度目の起眠後はそのまま羽化した。

6 頭目の越冬状況（2012 年 12 月～2013 年 4 月：室内で飼育）

12/10 休眠状態に入る。12/15 に一度動き出すが、12/16 に再び休眠状態になる。

2/23 動き出したので、アオキの赤い実、アオキの新芽、アジサイの新芽とヤツデの実を与えたところ、1 時間後にヤツデの実を吸い始める。

2/24 休眠状態に戻る。

3/24 再び動き始めたので、ヤマビワ、トベラとウバメガシの新枝を入れるとウバメガシの新枝から吸汁を始めた。

3/27 休眠状態に戻る。

4/1 動き始めたので、キブシの若芽と花、およびウバメガシの新芽を入れるとウバメガシから吸汁した。

4/5 ウバメガシとナラガシワの新芽を入れたが、やはりウバメガシから吸汁し、ナラガシワの新芽には全く近寄らなかった。

4/6 ウバメガシの若葉からも吸汁した。

4/16 羽化（♂）

4/30 そのままウバメガシを入れておいたが、死亡した。



キブシで吸汁する 4 齢幼虫
(2012/9/1 日南市北郷町北河内)



キブシの葉裏に集まる 4・5 齢幼虫
(2012/9/1 日南市北郷町北河内)



羽化直後の成虫
(2012/10/3)



年内に羽化した成虫
(2012/9/30)



羽化に失敗した成虫
(2012/11/10)



キブシの葉裏で越冬虫の 5 齢幼虫
(2012/11/27)



1 回目の起眠時の食樹試験
(2013/2/23)



ヤツデの実で吸汁する 5 齢幼虫
(2013/2/23)



ウバメガシの若枝から吸汁
(2013/4/5)

アカスジキンカメムシ幼虫の休眠は短日条件で誘導され（田中・今井・夏原 1994），休眠の深さも幼虫期の日長の変化によって影響される（田中・沼田 1999）。その中で，幼虫が休眠に入る

日長条件は 25℃, LD 13 : 11 と報告されているが、今回は筆者の生活に合わせて蛍光灯を付ける室内に、半透明の樹脂製容器での飼育という適当な条件であったため、5 頭が年内羽化し、1 頭だけが休眠状態に入ったものと思われる。羽化に失敗した 1 頭は 11 月の低温による影響が大きかったようである。

引用文献

- 日高輝展, 1956. 宮崎縣産カメムシ類の解説. 宮崎リンネ會報, (14):18-23
- 小林 尚, 1997. カメムシの幼虫時代. 昆虫と自然, 32 (6): p10-14
- 宮本正一, 1965. アカスジキンカメムシの年内羽化. Rostria, (12):50
- 守屋成一・岡野久子・中川孝志, 1987. 代替餌によるアカスジキンカメムシの累代飼育. Rostria, (38):553-557
- 田中真一・今井長兵衛・夏原由博, 1994. アカスジキンカメムシの幼虫休眠と雌成虫の産卵時期. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, (38) : 31
- 田中真一・沼田英治, 1999. 短縮する日長は休眠深度にどのような影響を与えるか?—アカスジキンカメムシの幼虫休眠の場合—. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨, (43) : 39

(こまつ たかひろ : 宮崎市本郷北方 2 4 7 9 - 2 3)

コラム 3 自然保護と採集禁止

最近、自然保護のために採集を禁止するという事例が増えてきました。特に綺麗なチョウ類でその傾向が強く、種の保存法（正式には絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）が 1992 年に施行されたため、ゴイシツバメシジミやヒョウモンモドキなどは全国一律で採集禁止となりました。同様な条例が県レベルでも施行され、熊本県では指定希少野生動植物として、ウラジロミドリシジミ、ゴマシジミ、ミドリシジミ、オオルリシジミ、オオウラギンヒョウモンが県内全域で採集禁止となっています。今年、遂に宮崎県でもゴマシジミとヒメシロチョウが県条例で希少野生動植物に指定され、宮崎県内全域で採集禁止となりました。自然保護のため採集禁止にするという考えはある程度分かりますが、全県一律に採集禁止というのは納得しかねます。というのは、生息場所が分かっているところは希少種を採集禁止にしても良いのですが、生息しているかどうか分からない地域での分布調査ができなくなるからです。宮崎県でいうとゴマシジミとヒメシロチョウの採集禁止は地区指定して高千穂町五ヶ所高原だけで十分だったと思います。これ以上全県で採集禁止となる種が出ないよう、人里に生息する希少なチョウはコアとなる生息地保全ができればと考えています。具体的には、ナラガシワ利用のシイタケ栽培によるウラジロミドリシジミの生息地保全、自然公園や河川敷の除草管理によるタイワンツバメシジミやシルビアシジミの生息地保全です。自然に任せておくだけでは希少種の生息地がなくなってしまうので、コアになる生息地は意識して保全し、そこは仮に採集禁止になったとしても、他の場所では採集禁止とせず、分布調査と子供たちの冒険心が育つ自然学習ができればと思っています。

(小松孝寛)

カメムシの記録の見直し

小松 孝寛

今回、宮崎県総合博物館と延岡市社会教育センターに保存されているカメムシの標本を見る機会が得られました。再同定を行った結果、ラベルの表記および過去の報文への記載を修正すべきと思われる標本が見つかりましたので報告します。また、筆者保存の標本にも過去に誤同定して報告したものがありませんでしたので修正します。

1. 宮崎県総合博物館所蔵標本 (NZI-xxxx は博物館の識別番号)

ミナミコセダカカスミカメ *Charagochilus longicornis* Reuter, 1885

1ex., 日向市秋留, 2.VII.1967(採集: 俵 慧) NZI-10112; 1ex., 東臼杵郡北川村下祝子, 19.VII.1969(採集: 俵 慧) NZI-10113

いずれもヒメセダカメクラガメでラベル表記, タテハモドキ No.5(1970)p43-74 に記載.

アシマダラクロカスミカメ *Polymerus(Polymerus) pekinensis* Horváth, 1901

1♂, 東臼杵郡北川村下祝子, 19.VII.1969(採集: 俵 慧) NZI-10091

オオクロセダカメクラガメでラベル表記, タテハモドキ No.5 (1970)p43-74 に記載.

セスジアシナガサシガメ *Gardena brevicollis* Stål, 1871

2 幼虫, 児湯郡都農町尾鈴山, 31.VII.1969(採集: 俵 慧) NZI-10158; 1ex., 同, 7.VIII.1969(採集: 俵 慧) NZI-10156; 1ex., 同, 25.VIII.1971(採集: 俵 慧) NZI-10157

オオアシナガサシガメでラベル表記, タテハモドキ 5 (1970)p43-74) に記載.

ヤニサシガメ *Velinus nodipes* (Uhler, 1860)

1ex., 西都市三財寒川, 20.V.2007(採集: 笹岡康則) NZI-27628

シマサシガメでラベル表記, タテハモドキ No.48 (2012)p46-52 に記載.

キスジサシガメ *Peirates atromaculatus* (Stål, 1871)

1♂, 宮崎市高岡町穆佐, 15.VIII.2009(採集: 笹岡康則) NZI-27631; 1♂, 同, 21.VIII.2009(採集: 笹岡康則) NZI-27632

シマサシガメでラベル表記, タテハモドキ No.48 (2012)p46-52 に記載.

トビイロサシガメ *Oncocephalus assimilis* Reuter, 1882

1♀, 宮崎市高岡町高岡, 25.VII.2007(採集: 笹岡康則) NZI-27633; 1♀, 宮崎市佐土原町石崎川河口, 7.VI.2009(採集: 笹岡康則) NZI-27635

モモブトトビイロサシガメでラベル表記, タテハモドキ No.48 (2012)p46-52 に記載.

クロトビイロサシガメ *Oncocephalus breviscutum* Reuter, 1882

1♀, 児湯郡川南町遊学の森, 6.XI.2008(採集: 笹岡康則) NZI-27634

モモブトトビイロサシガメでラベル表記, タテハモドキ No.48 (2012)p46-52 に記載.

モモブトトビイロサシガメ *Oncocephalus femoratus* Reuter, 1882

1ex., 宮崎市佐土原町石崎川河口, 7.VI.2009(採集: 笹岡康則) NZI-27827

トビイロサシガメでラベル表記, タテハモドキ No.48 (2012)p46-52 に記載.

クロスジヒゲナガカメムシ *Pachygrontha similis* Uhler, 1896

- 1♀, 日向市秋留, 4.VI.1967(採集: 俵 慧) NZI-10599; 1♂2♀, 延岡市行藤山, 15.V.1968(採集: 俵 慧) NZI-10600・NZI-10601
いずれもヒゲナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ No.5 (1970)p43-74 に記載.
- ヒラシマナガカメムシ *Eremocoris planus* Uhler, 1896
1♀, 東臼杵郡北川町大崩山, 24.X.1971(採集: 俵 慧) NZI-10202
キモンナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.
- セダカナガカメムシ *Retoka esakii* (Slater et Hidaka, 1958)
1♂, 東臼杵郡椎葉村境谷, 2.VIII.1970(採集: 俵 慧) NZI-10240
ミズチビナガカメムシでラベル表記, しのこ No.5 (1971)p40, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.
- エサキナガカメムシ *Neolethaeus esakii* (Hidaka, 1962)
1♂, 東臼杵郡北川村下祝子, 2.IX.1967(採集: 俵 慧) NZI-10180; 1♀, 児湯郡都農町尾鈴山, 1.VIII.1969(採集: 永井 庵) NZI-10181
2頭ともトカラナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 5 (1970)p43-74 に記載.
- ミナミヒョウタンナガカメムシ *Remaudiereana annulipes* (Baerensprung, 1859)
1♀, 日向市土々呂毛, 26.IX.1970(採集: 俵 慧) NZI-10178
クロズヒョウタンナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.
- ウスチャヒョウタンナガカメムシ *Remaudiereana flavipes* (Motschulsky, 1863)
1♀, 日向市平岩, 25.IX.1970(採集: 俵 慧) NZI-10179
キイロヒョウタンナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.
- オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* Scott, 1874
1♀, 都城市美川町西岳中学校, 12.VII.2011(採集: 木野田 毅) NZI-27611
クロモンサシガメでラベル表記, タテハモドキ 48 (2012)p46-52 に記載.
- ムナグロアカナガカメムシ *Thunbergia* sp.
1ex., 日向市権現崎, 9.V.1970(採集: 永井 庵) NZI-10241
ベニナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.
- クモヘリカメムシ *Leptocoris chinensis* Dallas, 1852
1♂, 西都市三財, 16.VII.2007(採集: 笹岡康則) NZI-27699
ヒメクモヘリカメムシでラベル表記, タテハモドキ 48 (2012)p46-52 に記載.
- ニセヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius vulgaris* (Hsiao, 1964)
1♂, 東臼杵郡北川町上祝子, 4.IV.1994(採集: 木野田 毅) NZI-27698
ヒメクモヘリカメムシでラベル表記, タテハモドキ 48 (2012)p46-52 に記載.
- オオクモヘリカメムシ *Homoeocerus (Anacanthocoris) striicornis* Scott, 1874
1ex., 日向市竹島, 30.VII.2008(採集: 笹岡康則) NZI-27676
ミナミトゲヘリカメムシでラベル表記, タテハモドキ 48 (2012)p46-52 に記載.
- タデマルカメムシ *Coptosoma parvipictum* Montandon, 1892
1♂, 延岡市古城町, 9.V.1987(採集: 木野田 毅) NZI-27862

ヒメマルカメムシでラベル表記, タテハモドキ 48 (2012)p46-52 に記載.

2. 延岡市社会教育センター所蔵標本

アカツヤハシリカスミカメ *Hallodapus ravenar* (Kirkaldy, 1902)

1♀, 日向市荒浜, 6.IX.1970(採集: 俵 慧); 1♀, 日向市土々呂毛, 26.IX.1970(採集: 俵 慧)
いずれもケブカチビメクラガメでラベル表記.

セスジアシナガサシガメ *Gardena brevicollis* Stål, 1871

1♀ lex., 児湯郡都農町尾鈴山, 7.VIII.1969(採集: 俵 慧)
オオアシナガサシガメでラベル表記, タテハモドキ 5 (1970)p43-74) に記載.

クロスジヒゲナガカメムシ *Pachygrontha similis* Uhler, 1896

1♀, 延岡市行藤山, 15.V.1968(採集: 俵 慧)
ヒゲナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ No.5 (1970)p43-74) に記載.

ムナグロアカナガカメムシ *Thunbergia* sp.

1♂, 北諸県郡山之口町青井岳, 5.VII.1975(採集: 永井 庵)
ベニナガカメムシでラベル表記, タテハモドキ 12 (1977)p1-39 に記載.

3. 筆者保存標本

アシマダラクロカスミカメ *Polymerus(Polymerus) pekinensis* Horváth, 1901

1♀, 宮崎市内海大丸川, 30.V.2011; 1♀, 日南市酒谷甲深瀬, 4.V.2013; 1♂, 同, 13.V.2013
オオクロセダカスミカメとしてタテハモドキ No.48 (2012)p1-15 に記載.

ハネナガマキバサシガメ *Nabis(Nabis) stenoferus* Hsiao, 1964

1♀, 東諸県郡綾町北俣, 17.V.2013; 1♀, 宮崎市郡司分清武川左岸河口, 12.VI.2013; 1♀,
同, 10.VII.2013
ミナミマキバサシガメとしてタテハモドキ No.48 (2012)p1-15・p39-59 に記載.

オキナワマキバサシガメ *Stenonabis orientalis* (Reuter, 1910)

1♀, 綾町入野尾堂, 16.VII.2013
セスジマキバサシガメとしてタテハモドキ No.48 (2012)p1-15 に記載.

カクムネヒメヒラタカメムシ *Paraneurus galiae* (Kerzhner, 1979)

1♀, 西諸県郡高原町御池, 19.IX.1992(採集: 永井 庵)
パネラウルス属の一種 *Paraneurus* sp.としてタテハモドキ No.49 (2013)p39-59 に記載.

ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon* (Thunberg, 1784)

1♂, 小林市須木下田, 9.VIII.2013
イシハラナガカメムシとしてタテハモドキ 49 (2013)p17-35 に記載.

アカヒメホシカメムシ *Physopelta slabuschi* (Fabricius, 1787)

4♂2♀, 石垣市嵩田林道, 18.XI.2010; 1♀, 石垣市嵩田林道, 25.X.2011
ヒメホシカメムシとしてタテハモドキ 48 (2012)p1-15 に記載したが, 別種と判明.

ニセヒメクモヘリカメムシ *Paraplesius vulgaris* (Hsiao, 1964)

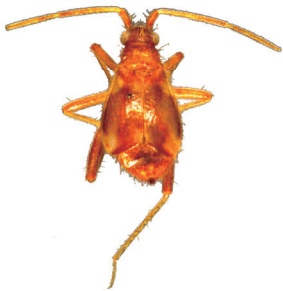
3♂, 西臼杵郡高千穂町五ヶ所, 20.VIII.2013
ヒメクモヘリカメムシとしてタテハモドキ 49 (2013)p39-59 に記載.

モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata* (Scott, 1874)

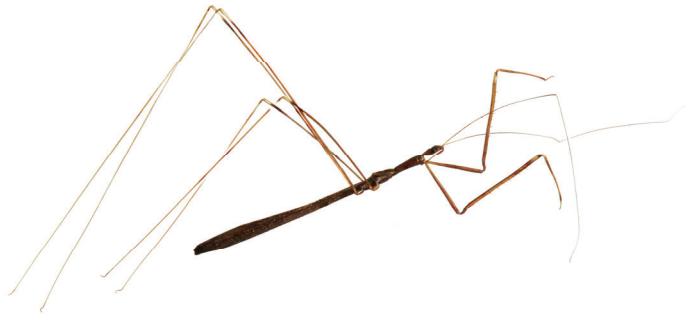
1♂, 延岡市熊野江町鏡山, 22.VI.2013(採集: 岩切康二); 1♂, 延岡市北川町川内名下塚, 22.VI.2013(採集: 岩切康二)

エサキモンキツノカメムシとしてタテハモドキ 49 (2013)p39-59 に記載.

見直しを行った結果, アカツヤハシリカスミカメ, セスジアシナガサシガメ, キスジサシガメ, セダカナガカメムシとエサキナガカメムシは宮崎県初記録であることが判明しました.
なお, 同定に当たっては石川 忠博士に大変お世話になりました. 改めて御礼申し上げます.



アカツヤハシリカスミカメ♀
Hallodapus ravenar (Kirkaldy, 1902)



セスジアシナガサシガメ
Gardena brevicollis Stål, 1871



キスジサシガメ♂
Peirates atromaculatus (Stål, 1871)



セダカナガカメムシ♂
Retoka esakii (Slater et Hidaka, 1958)



エサキナガカメムシ♀
Neolethaeus esakii (Hidaka, 1962)

(こまつ たかひろ: 宮崎市本郷北方 2 4 7 9 - 2 3)

宮崎県内のミンミンゼミの分布

小松 孝寛

ミンミンゼミは東京都内では神社や公園で良く鳴いているセミであるが、宮崎県の市街地にはクマゼミが多く、山間部に入らないとミンミンゼミの鳴き声は聞こえない。2014 年 8 月 14 日に宮崎市折生迫の大谷林道に行くと、ミンミンゼミの大合唱が聞こえた。この地点は海岸から 1.6km の距離で青島の市街地からも近い。このような場所に多数のミンミンゼミがいるのは面白いと思い、宮崎昆虫同好会のメーリングリスト（宮昆 ML）で県内のミンミンゼミの分布を調べようと持ちかけた。宮昆 ML には過去のデータも含めてミンミンゼミの記録が多数寄せられた。それらをまとめたのが図 1 である。五ヶ瀬町、川南町と新富町のデータはなかったが、ほぼ全県に渡って分布している。記録のない町村にもおそらく分布しているものと考えられる。



1997 年と 1998 年には宮崎市本郷北方で、2014 年には延岡市古城町など市街地でもミンミンゼミが確認されている。ヒートアイランド、アスファルト化などが原因として取りざたされているが、最近では市街地でクマゼミが増えているので、クマゼミの増加に伴ってミンミンゼミは市街地から追いやられているのかもしれない。林・税所（2011）によると、西日本では山地性になる理由として、基音が似ているクマゼミとの音響的なすみわけが考えられ、クマゼミとミンミンゼミがともに多産する三浦半島城ヶ島ではクマゼミが平坦地に、ミンミンゼミが周辺の斜面が主生息地となっているとのことである。宮崎でも市街地に近い延岡市や宮崎市の海岸沿いの林はクマゼミとミンミンゼミのすみわけを観察するのに適しているかもしれない。ミンミンゼミとクマゼミの宮崎県内での棲み分けが宮昆 ML を通して明らかになっていけばと思う。

宮昆 ML ミンミンゼミ調査参加者

奥田恭介，河野 宰，木野田 毅，串間研之，小松孝寛，新開 孝，永井 廌，日高謙次，前田幸治，村井健二，安本潤一，柳田恒一郎，山元一裕，山元修成

引用文献

林 正美・税所康正編著，2011．日本産セミ科図鑑，pp.168-173．誠文堂新光社，東京都．

（こまつ たかひろ：宮崎市本郷北方 2 4 7 9－2 3）

第 3 部 短報



宮崎市内でのミヤマクワガタ採集記録

日高謙次

ミヤマクワガタは涼しい環境を好むため宮崎市内でも標高のある山地に生息している。
しかし、宮崎市平野部でも散発的に採集しているのでここに報告します。
尚、採集日は記録していないため採集地と年月のみの記載となっていることをご了承ください。

1999年7月	田野町	田野運動公園内	樹液	3♂5♀
1999年7月	佐土原町下那珂	久峰公園内	樹液	2♂2♀
2000年8月	宮崎市鏡洲	鏡洲小付近	樹液	1♂
2006年8月	宮崎市新名爪	県立北高等学校敷地内	外灯	1♂
2012年6月	清武町黒北	黒北発電所付近	樹液	1♀
2013年8月	宮崎市細江	クボタオートパーツ付近	外灯	1♀
2014年9月	宮崎市新名爪	宮崎みたま園内	轆死体	1♀

(ひだか けんじ 宮崎市村角町中尊1921-1 トキワハイツⅡ101)

宮崎市内でアシマダラアカサシガメを採集

日高謙次

2014年5月9日、宮崎市下北方町にある大淀川学習館敷地内にてアシマダラアカサシガメ
1頭を採集したのでここに報告します。

同定してくださった小松孝寛氏には改めてお礼申し上げます。



アシマダラアカサシガメ *Haematoloecha rubescens* (撮影：小松孝寛)

(ひだか けんじ 宮崎市村角町中尊1921-1 トキワハイツⅡ101)

宮崎神宮でヒゲナガヘリカメムシを確認

小松 孝寛・外山 真樹

ヒゲナガヘリカメムシは数年前から日南市で確認され、昨年は宮崎市の住吉地区と佐土原町下那珂まで北上した（笹岡 2013；小松 2013）。今年も宮崎神宮の境内で発生しているのを確認したので報告する。



写真1 ヒゲナガヘリカメムシを見つけた竹



写真2 ヒゲナガヘリカメムシ

<データ>

ヒゲナガヘリカメムシ *Notobitus meleagris*

宮崎市神宮 2 丁目（宮崎神宮境内）

2014 年 11 月 7 日 成虫 5 頭，幼虫 2 頭

引用文献

小松孝寛，2013．カメムシの記録（2）．タテハモドキ，(49)：39-59

笹岡康則，2013．北上するヒゲナガヘリカメムシ．タテハモドキ，(49)：65

（こまつ たかひろ：宮崎市本郷北方 2 4 7 9－2 3）

（とやま まさき：宮崎県総合博物館）

ルリクチブトカメムシの記録

笹岡 康則

宮崎県の本種の記録はタテハモドキ5号の1965年高千穂五ヶ所の記録を見ることができたが記録の少ない種類と思われる。野尻町紙屋、串間市本城、で確認した。県北から県南まで広く生息していると思われる。

その1 2007年11月15日、12月23日 串間市本城
個人住宅の小さな家庭菜園のイチゴが育ててあるところで数頭目撃。写真撮影
図鑑ではカミナリハムシのいるイチゴ畑で見られるとある。

その2 2014年6月16日 1頭 野尻町紙屋
田んぼの畦のヤブガラシの葉上に止まっていた。最初見た時はきれいなハムシの様だが少しずんぐりして変わっていると気になり近づきよく見ると本種であった。

その3
正確な日時は記録として残されていないが、2006年前後、宮崎市高岡町の10号線そばの団地内で境界ブロックの地際に複数いたのを目撃している。

【参考文献】 原色日本昆虫図鑑 下巻 保育社

(ささおか やすのり：宮崎市大字島之内 9481)

大森岳林道ライトトラップでのサナエトンボ2種の記録

笹岡 康則

大森岳林道でのライトトラップに来たサナエトンボ2種を記録として報告する。
記録

2014年6月28日 1頭 ヒメサナエ 標高300M

2014年7月25日 1頭 オナガサナエ 標高800M

同定に際し岩崎郁夫氏に確認同定をお願いした。お礼申し上げます。

【参考文献】 昆虫の図鑑 採集と標本の作り方 南方新社 2005年8月1日発行

(ささおか やすのり：宮崎市大字島之内 9481)

西都市・西米良村のウラキンシジミの記録（補遺）

小岩屋 敏

記録自体は宮崎昆虫調査研究会が発行している *Insecta Miyazaki* No. 2 (2014) で既に報告しているが、当時はまだ蛹の状態だったので、その後の経過について報告する。

（１）西都市銀鏡（250m）

2014年5月1日、植栽されたとと思われるコバノトネリコ林の樹下で終齢幼虫11頭と、自然状態で生育したと思われる100mほど下流のコバノトネリコ大木の樹下で終齢幼虫5頭を採集。16頭中3頭は寄生蠅に寄生されていたが、残りの蛹から6♂7♀が羽化した。そのうち2♂2♀を写真1に示す。近辺の産地のものと特に変わっているわけではないが、7♀中3♀が肛角部に不鮮明ながら暗赤褐色斑を発現している。通常九州中南部のほかの産地では、この暗赤褐色斑はほとんど発現しない。またほぼ南限域の、標高わずかに250mの場所に本種が生息しているのにもちょっと驚いた。どのくらい低地まで本種が「生き残っている」のか、今後も継続調査してみたい。

（２）西米良村井土内峠付近（900m）

峠一帯は杉林と赤松林が多く、比較的乾燥している。2014年5月10日、わずかに切り残された雑木林内のコバノトネリコ2本で合計3頭の終齢幼虫を拾った。うち2頭は寄生されていたが、残る1頭から1♀が羽化した。残念ながら少し羽化不全気味（写真2）。



写真1：西都市銀鏡のウラキンシジミ



写真2：西米良村井土内峠のウラキンシジミ

（こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6）

熊本県球磨郡山江村の低標高地のウラキンシジミ

小岩屋 敏

(1) 山江村白岳第2トンネル付近 (350m)

2004年6月9日、3♂ (成虫を採集)

2011年4月28日、終齢幼虫3頭

2014年5月3日、3枚葉のみ4つ確認

2004年にこの場所で成虫を採集して以来、確実に生息しているのか、たまたま低地に降りてきたのか確認したいと思いつつ7年近く経過した2011年の4月、ヤマトアオダモと思われる3本のトネリコ類のうち、成虫を採ったのとは別の1本の樹下で3枚葉を確認し、終齢幼虫も拾うことができた。2014年には成虫を採集したヤマトアオダモの樹下で3枚葉を4つ確認したが、残念ながら時期おそく幼虫は「逃げた」あとだった。しかし、同じ日に、この場所から約3キロ上流の水無でも3枚葉や終齢幼虫を確認することができたので、恐らくは万江川流域の崖や急傾斜地に広く薄く分布しているものと考えて間違いのないであろう。

(2) 山江村水無部落下流 (400m)

2014年5月3日、終齢幼虫1頭ほか、3枚葉を約15枚確認

川岸や石灰岩の礫地にヤマトアオダモと思われる若木や壮年木が多く、そのうち4本の樹下で合計15枚ほどの3枚葉を確認した。時期おそく、ほとんどの葉には食痕しか残っていなかったが、幸運にも「逃げ遅れた」1頭の終齢幼虫を拾うことができた。この幼虫からは1♂が羽化した(写真)。なお2011年にも一帯を探しているが、その時は3枚葉も終齢幼虫も見つけることができなかった。



写真1：水無産の♂

(こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6)

五ヶ瀬町鞍岡波帰でメスアカミドリシジミ成虫を採集

小岩屋 敏

本屋敷～波帰の谷筋でウラゴマダランジミを探索していたところ、図らずも本種の1♂を採集することができたので、以下に報告する。

1♂、2014年6月14日 波帰部落内(800m)



写真1：波帰産メスアカミドリシジミ♂

波帰大橋直下の、急峻な狭い川面に張り出した枝上で、午後3時過ぎ占有飛行をしながら静止したところを採集。写真の通り極めて新鮮な個体で、ほぼ羽化直後と思われる。現場はすぐ上に波帰部落の人家が広がっており、まさかこんな人里近い環境に本種がいるとは思わなかった。近辺では小川岳や白岩山で成虫や卵が得られているが、本屋敷～波帰間では初めての記録と思われる。

小林市（旧須木村）でアカシジミを採集

小岩屋 敏

オオムラサキ観察会の下見の折、2ヶ所で次のように採集できた。

1♀、2014年6月28日 鳥田町中原(400m) (写真の右個体)

1♀、2014年6月28日 木浦木(550m) (写真の左個体)

旧須木村一帯では広く薄く生息しているようで、既にいくつかの産地が記録されているが、記録集積の意味で報告した。なお、当日午後、木浦木の木場屋敷奥(500～600m)でヒサマツミドリシジミのぴらしい個体を何度か目撃したが、あまりにも敏捷に飛翔し全く静止しないため、採集することはできなかった。



写真1：旧須木村産アカシジミ

(こいわや さとし：宮崎市下北方町俣萩680-6)

五ヶ瀬町鞍岡でウラゴマダラシジミ原野型♀を採集

二町 一成

宮崎県五ヶ瀬町鞍岡にて、2009年6月21日、原野型のウラゴマダラシジミ1♀（新鮮・破損なし）を採集しているので報告しておきたい。

小岩屋（2009）によると、同地は本来同種の森林型の分布域で、それまで原野型の記録はなかったという。

同地へは、キマダラヒカゲ *Neope* 属のチョウの調査に訪れていたが、五ヶ瀬ハイランドスキー場への入り口、やまめの里を通り過ぎた、比較的道幅が広い、車を止められるスペースのある場所（コクサギの中木があった）に車を止めて、道路沿いのハルニレの樹液に來ている *Neope* 属のチョウを探していた時に、車を止めた場所で、頭上から飛來して目の前に現れ、ネットインしたものである。♀ということで、生かして持ち帰り、タダイボタで採卵を試みたが、1卵も産まず死亡した（標本表裏・下写真）。未交尾だったと思われるが、タダイボタだったので産まなかったという可能性もあるかもしれない。また同じ場所では同年6月7日にミスジチョウ1♀が頭上から飛來目撃しており、風通しの良い、チョウの通り道になっているようだった。

最後になったが、本会タテハモドキ誌上への発表を勧められ、同地のウラゴマダラシジミについて詳しくご教示頂いた宮崎市の小岩屋敏氏に、この場を借りて厚くお礼申し上げたい。



写真説明：鞍岡産ウラゴマダラシジミ原野型♀・表面・裏面

【参考文献】

小岩屋敏（2010）南限付近のウラゴマダラシジミの生態と変異, 月刊むし 473；2-12.

（にちょう かずなり：鹿児島県いちき串木野市元町 167）

2013 年迷チョウ リュウキュウムラサキを県南部で目撃

河野 宰

2013 年に筆者は、リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* 二頭を宮崎県南部の日南市と串間市で目撃し、写真撮影に成功したので報告する。

1. 日南市大島町 2013 年 10 月 12 日 12 時 14 分

1♂ 宮崎県日南市南郷町大島

この日は、翌週の日曜日に行われるアサギマダラマーキング会のプレ調査のために大島に渡り調査中、灯台手前で見つけ、写真に収めた。(写真 1)



(写真 1 : 河野宰 撮影)

2. 串間市本城 2013 年 11 月 1 日 10 時 45 分

1♂ 宮崎県串間市本城

10 月 12 日に日南市大島でリュウキュウムラサキと遭遇して以来、もう一度出会いたいものと思っていたが、なんと 11 月 1 日に自宅庭でリュウキュウムラサキと遭遇し、写真を撮影することができた。(写真 2)



(写真 2 : 河野宰 撮影)

【参考文献】

北隆館 原色昆虫大図鑑 I III 他

(かわの つかさ : 串間市本城 6 8 5 9)

リュウキュウオオスカシバを串間市で目撃

河野 宰

2014年9月21日13時16分頃、自宅庭で昆虫の撮影中に見つけ、写真を撮った。後に、リュウキュウオオスカシバ *Cephonodes xanthus* と同定したので報告する(写真4)。リュウキュウオオスカシバは、過去に数点しか採集報告がなく、その記録は5月から8月にかけての記録(宮崎県の生物 鉦脈社)で、9月の記録はおそらく一番遅い記録と思われる。また、串間市での報告も初めてと思われる。



リュウキュウオオスカシバ 宮崎県串間市本城
(河野宰 写真撮影)

【参考文献】

北隆館 原色昆虫大図鑑 I III 他

(かわの つかさ：串間市本城6859)

ムツボシナガハナアブを串間市の自宅で目撃

河野 宰

2014年9月22日午前9時55分頃、自宅周辺を散策中に、自宅の壁に止まっていた全長20mm以上のアシナガバチに似たハナアブを発見、写真撮影に成功し、ムツボシナガハナアブ *Milesia oshimaensis* と同定したので報告する(写真3)。当初、ムツボシナガハナアブと見当をつけるも自信が無く、最終的には宮崎昆虫同好会の諸氏のご協力を得、同定に至った。



ムツボシナガハナアブ♀ 宮崎県串間市本城
(河野宰 写真撮影)

【参考文献】

北隆館 原色昆虫大図鑑 I III 他

(かわの つかさ：串間市本城6859)

ナカグロコシボソハナアブを串間市で目撃

河野 宰

2014 年 9 月 29 日 11 時 46 分頃、自宅庭で発見し、写真撮影に成功したので報告する(写真 5)。ナカグロコシボソハナアブ *Allobaccha nubilipennis* は南方系のハナアブで、九州南部が北限。



ナカグロコシボソハナアブ 宮崎県串間市本城
(河野宰 写真撮影)

【参考文献】

北隆館 原色昆虫大図鑑 I III 他

(かわの つかさ：串間市本城 6 8 5 9)

ヤクシマトゲオトンボ(九州本土個体群)を串間市で目撃

河野 宰

2014 年 5 月 6 日 14 時 39 分頃、自宅近くの谷川沿いで発見し、写真撮影に成功したので報告する(写真 6)。このヤクシマトゲオトンボ(九州本土個体群) *Rhipidolestes aculeatus yakusimensis* は、これまでキュウシュウトゲオトンボと呼ばれていたが、近年、ヤクシマトゲオトンボ(九州本土個体群)となった。これまで宮崎県内でも報告はされているが、串間市での報告は 1981 年にあるのみである。(タテハモドキ No.30 P106)



ヤクシマトゲオトンボ(九州本土個体群) ♀
宮崎県串間市本城 (河野宰 写真撮影)

最後になりますが、同定に協力をいただきました宮崎昆虫同好会の皆さんをはじめ、私にタテハモドキへの投稿の後押しをいただきました笹岡康則さんには、厚く感謝申し上げます。

【参考文献】

北隆館 原色昆虫大図鑑 I III 他

(かわの つかさ：串間市本城 6 8 5 9)

東諸県郡綾町でネグロクサアブを採集

奥田 恭介・小松 孝寛

筆者らは宮崎県東諸県郡綾町においてネグロクサアブ*Coenomyia basalis*を採集したので報告する。

1♀, 東諸県郡綾町南川, 18. IX. 2013, 奥田 恭介採集。

ネグロクサアブは20-25mmほどの大型のクサアブである。京都府, 兵庫県, 岡山県, 愛媛県など多くの県のレッドリストで情報不足 (DD) のカテゴリーに名を連ねている大変採集例の少ない昆虫である。

比較的湿潤で自然度の高い環境に生息し, 自然林の朽木から発生するといわれている。採集した環境は付近に川があるため湿潤で, 適度に日のあたるまさに前述した通りの場所であった。

今後も採集地において更なる追加個体を得られる事を期待したい。



(おくだ きょうすけ: 宮崎市清武町木原4632-6-110)

(こまつ たかひろ: 宮崎市本郷北方2 4 7 9-2 3)

タテハモドキ 第50号

発行年月日 2014年12月31日

発行者 宮崎昆虫同好会

振替口座 01700-8-68700

編集者 木野田 毅・小松孝寛

タテハモドキ50号(2014年) 目次

第1部 { 総論・思い出 }

宮崎昆虫同好会の歩み	木野田 毅	1
パネルディスカッション「宮昆の思い出」		7
『ワニ13』との出会いによって	山元修成	13
延岡市で再スタートした昆虫採集	木野田 毅	17

第2部 { 調 査 }

宮崎県内で採集した甲虫	笹岡康則	19
宮崎県内の甲虫の記録	木野田 毅	28
綾町等の甲虫の記録	笹岡康則・木野田 毅	38
宮崎県で採集した甲虫の記録	溝部忠志	43
延岡市のチョウデータベース(そこから見えるチョウの変遷)	安本潤一	44
延岡市及びその周辺のタイワンツバメシジミの現状と経緯	安本潤一	55
宮崎県中南部におけるタイワンツバメシジミの発生状況とその変遷(2000~2014年)	小岩屋 敏	63
宮崎県のゴマシジミの調査記録	小岩屋 敏	77
鹿児島・宮崎・熊本3県でのホシボシキチョウの採集・飼育記録と生態	小岩屋 敏	78
五ヶ瀬町鞍岡本屋敷でウラゴマダラシジミの原野型を採集	小岩屋 敏	84
鰐塚山系並松山南部(旧北郷町)でキリシマミドリシジミ成虫を採集	小岩屋 敏	90
日本のタッパンルリシジミは迷蝶である!!	小岩屋 敏	93
道の駅フェニックスと青島亜熱帯植物園でクロボシセセリを確認	小松孝寛	104
宮崎市青島~内海のアカギカメムシの生態	小松孝寛	108
アカスジキンカメムシの飼育記録	小松孝寛	114
カメムシの記録の見直し	小松孝寛	117
宮崎県内のミンミンゼミの分布	小松孝寛	121

第3部 { 短 報 }

宮崎市内でのミヤマクワガタ採集記録	日高謙次	122
宮崎市内でアカマダラアカサシガメを採集	日高謙次	122
宮崎神宮でヒゲナガヘリカメムシを確認	小松孝寛・外山真樹	123
ルリクチブトカメムシの記録	笹岡康則	124
大森岳林道ライトトラップでのサナエトンボ2種の記録	笹岡康則	124
西都市・西米良村のウラキンシジミの記録(補遺)	小岩屋 敏	125
熊本県球磨郡山江村の低標高地のウラキンシジミ	小岩屋 敏	126
五ヶ瀬町鞍岡波掃でメスアカミドリシジミ成虫を採集	小岩屋 敏	127
小林市(旧須木村)でアカシジミを採集	小岩屋 敏	127
五ヶ瀬町鞍岡でウラゴマダラシジミ原野型♀を採集	二町一成	128
2013年迷チョウ リュウキュウムラサキを県南部で目撃	河野 宰	129
リュウキュウオオシカシバを串間市で目撃	河野 宰	130
ムツボシナガハナアブを串間市の自宅で目撃	河野 宰	130
ナカグロシボソハナアブを串間市で目撃	河野 宰	131
ヤクシマトゲオトンボ(九州本土個体群)を串間市で目撃	河野 宰	131
東諸県郡綾町でネグロクサアブを採集	奥田恭介・小松孝寛	132

増刊

タテハモドキ50周年記念「宮崎県におけるシルビアシジミ生息地の保全」	小松孝寛 増刊号
------------------------------------	----------